

Phonak Target.

操作ガイド Ver:9.1.1



目次

1. ターゲットのインストール	1	 ヒント：ホイッスルブロックについて	30
必要システム構成	1	オーディオグラムダイレクト	30
インストール手順	2	基本調整	31
2. インターフェースの設定	5	初期フィッティング	31
HI-PRO 2	5	サウンドリカバー	32
ドライバーのインストール	5	フィッティング処方	32
COMポートの設定	8	補聴器特性表示の変更	32
NOAHlink	10	リアルタイム・ディスプレイ	33
ドライバーのインストール	10	微調整	34
接続ウィザードの設定	11	利得&MPO	34
NOAHlink Propertiesの設定	12	 ヒント：複数プログラムの調整	35
iCube II	14	設定を比較	35
USBアダプタを使用したセットアップ方法	14	プログラムマネージャ	36
その他の接続方法	15	プログラムオプション	37
Noahlink Wireless	16	オートマチックプログラム	37
ドライバーのインストール	16	騒音/ハウリング抑制機能と快適機能	38
3. 顧客管理	17	ストリーミングプログラム設定	40
顧客データの管理	17	両耳装用機能	42
顧客の選択と編集	17	オーディビリティ・ファインチューニング	44
トレーニングモード	18	サウンドリカバー2/サウンドリカバー	45
エクスポートとインポート	18	TK/利得(35dB)/ソフトノイズリダクション	48
4. フィッティングセッション	19	オートマチック・ファインチューニング	48
画面の構成	19	音素認識テスト	49
ダッシュボードについて	19	データログ	50
タブについて	20	機器オプション（補聴器）	50
顧客	20	プログラムスイッチ（ピロングシリーズまで）	51
詳細	20	多機能ボタン（マーベルシリーズ以降）	52
オーディオグラム	20	耳あな型補聴器	53
RECD	21	Bluetooth	55
REUG	21	ボリュームコントロール	56
機器	22	ボリュームの作用	56
補聴器	22	お知らせ音と警告音	56
音響パラメータ	25	スタートアップ	58
詳細	27	機器オプション（アクセサリ）	58
アクセサリ	27	フィッティングセッションの終了	58
フィッティング	28	検査用の設定	59
ハウリングと実耳テスト	28		

フォナック コムパイロットをジェネリック状態に 設定する	61	準備	92
5. ジュニアモードについて	63	手順	92
ジュニアモードの設定方法	63	11. Phonak Targetバックアップツールの使い方	95
6. オーディオグラムダイレクト	65	12. フィッティングケーブル	96
オーディオグラムダイレクトを開始する	65	耳かけ型	96
7. 設定の転送	67	耳あな型	97
8. CROSフィッティングについて	70	ケーブル接続方法	98
CROS送信機の接続	70		
CROS送信機の互換性	71		
CROSの基本調整	72		
CROSの微調整	72		
CROSの機器オプション	72		
9. リモートサポート	75		
10. その他	78		
デモンストレータ	78		
デモンストレータの準備	78		
デモンストレータの使用方法	79		
メディア	79		
トライアルとツール	80		
トライアル補聴器	80		
テスト設定	82		
ファームウェアのアップデート	83		
工場出荷設定にリセット	83		
機器のペアリング	84		
機器の言語	84		
機器診断	84		
更新	85		
セットアップ	86		
概要	86		
私のプロフィール	86		
フィッティングセッション	86		
ジュニアモード	90		
レポート	91		
フィッティング機器	91		
サウンドシステム	91		
インターネット	91		
プロキシ設定	91		
オートマッチクの音声校正の方法	92		

1. ターゲットのインストール



必要システム構成

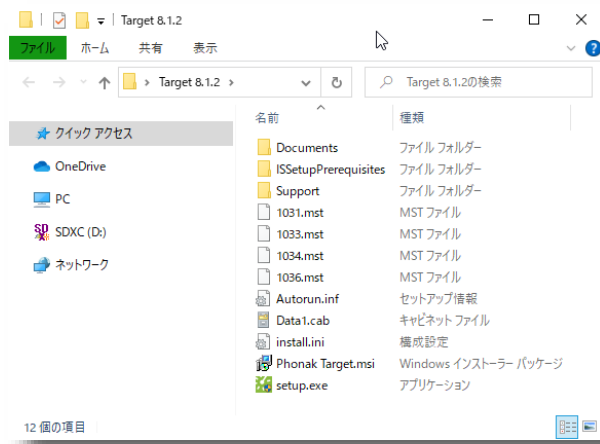
Phonak Targetをインストールするにあたり、以下のコンピュータシステムが必要です。

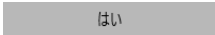
なお、本ソフトウェアはPhonak Targetオンラインアップデートでの供給のため、ネット環境がない場合にはインストールできませんのでご注意ください。

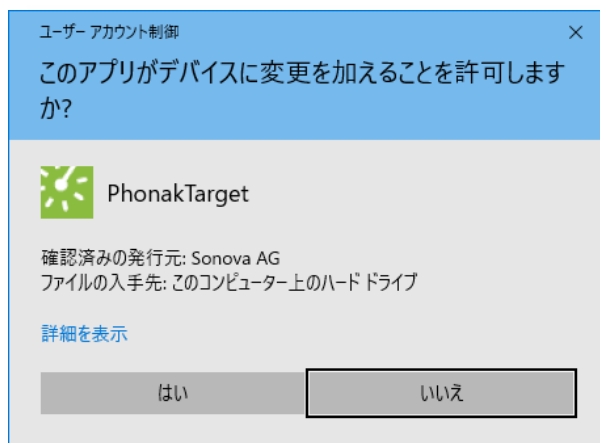
プロセッサ	Intel Core プロセッサ（マルチコア・クロック 2 GHz 以上を推奨）
メインメモリ	4GB以上（8GB 以上を推奨）
HDD 空き容量	3GB以上（20GB以上を推奨）
対応 OS	Windows 11 64ビット版 Windows 10 64ビット版 いずれも最新のサービスパックを適用していること
ディスプレイ解像度	1280 x 1024 ピクセル以上
グラフィックカード	1600万色(24ビット) 以上
シリアルポート	旧タイプのHI-PROを使用する際 1 ポート必要
USB ポート	各デバイス用にそれぞれ 1 ポート必要 ・ Bluetooth®アダプタ（iCube II・NOAHlinkなど） ・ アクセサリ（iCube II・Phonak ComPilot IIなど） ・ HI-PRO 2またはHI-PRO USB ・ USBシリアル変換ケーブル経由での旧タイプのHI-PRO ・ Noahlink Wireless
プログラミング機器	HI-PRO、HI-PRO USB、HI-PRO 2、NOAHlink、iCube II、Noahlink Wireless
Noah バージョン	最新バージョン（Noah 4.4以降）
インターネット環境	必須
Noahlink Wireless NOAHlink ドライバソフトウェア	最新バージョンを推奨
サウンドカード	5.1ch サラウンドシステムまたはステレオ

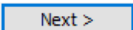
インストール手順

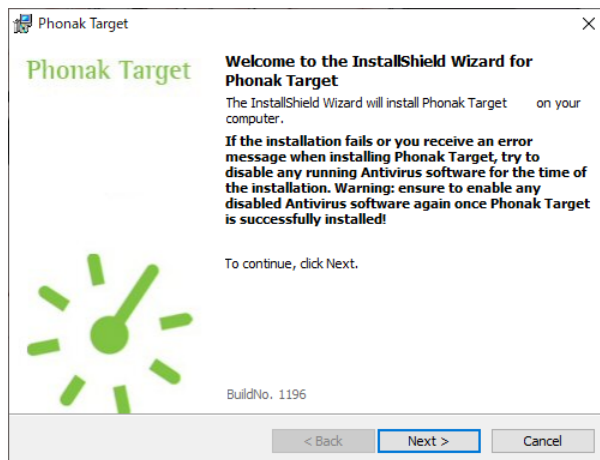
インストール作業は必ずコンピュータの管理者権限を持つユーザーでログインして行ってください。インストールの前にあらかじめウィルスおよびセキュリティ対策ソフトを停止してください。ダウンロードしてきたフォルダ内  setup.exe を実行します。 setup.exe を実行するとインストールが開始されます。



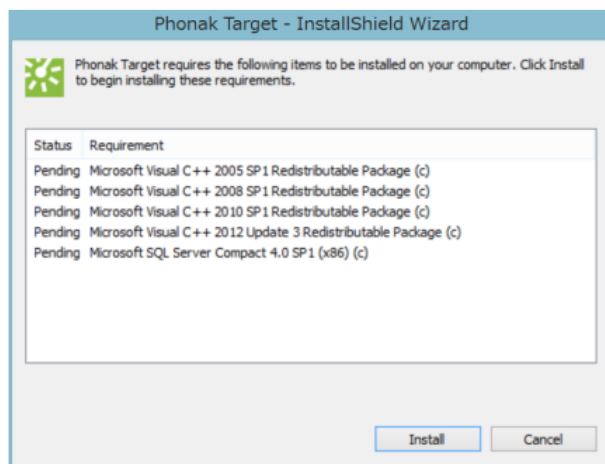
インストールにあたり、次のような画面が表示された場合は、  はい をクリックします。



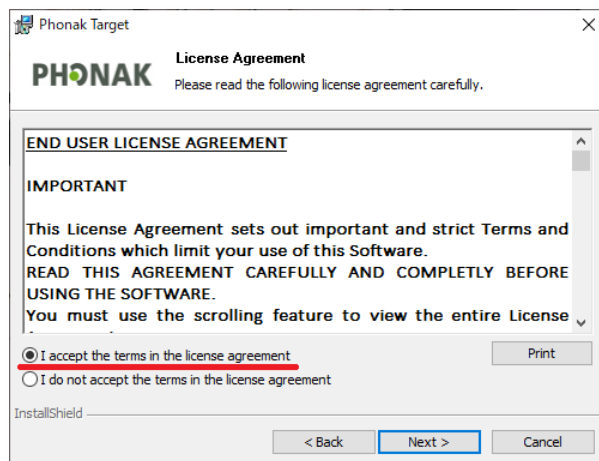
 Next > をクリックします。



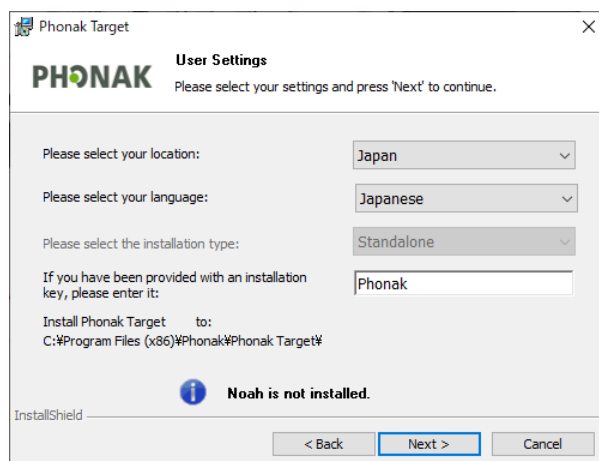
インストールにあたり、次のような画面が表示された場合は、Phonak Targetに必要なソフトのインストールが必要です。**Install** をクリックして進めてください。



途中“License Agreement”が表示されるので、「I accept the terms in the license agreement」を選び、**Next >** をクリックします。

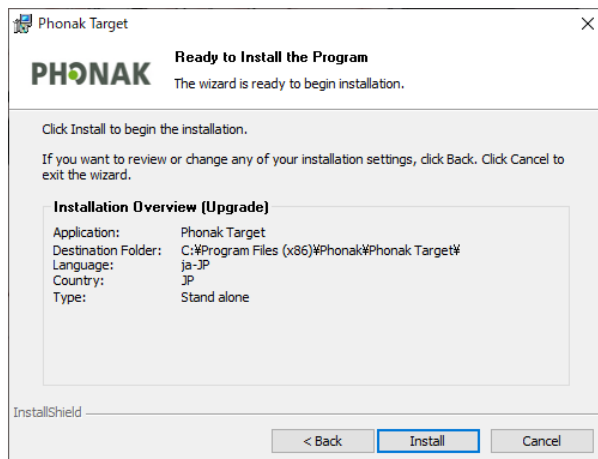


ソフトを使用する国及び言語を選択します。画面のとおり「Japan」「Japanese」に変更して、**Next >** をクリックします。



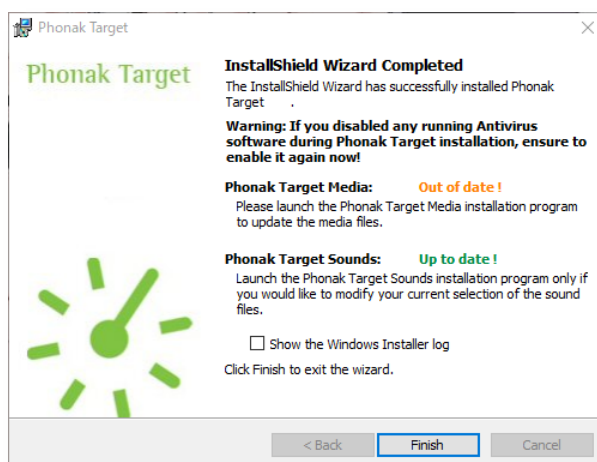
Noah4.4以降が既にインストールされている場合はNoah版をインストールすることができます。3段目の installation type を「Noah」に変更してください。

インストールする内容が表示されます。修正が必要な場合は **< Back** をクリックし、修正したい画面まで戻ることができます。この内容でよければ **Install** をクリックします。



インストール終了後、「The InstallShield Wizard has successfully installed Phonak Target」と完了画面が表示されます。この画面が表示されればインストールは完了です。

Phonak Targetには追加メディアファイルとして Phonak Target MediaとPhonak Target Soundsがございます。Phonak Target Mediaには機能説明や取扱説明のムービーが、Phonak Target Soundsにはフィッティング中に流せるデモ音源が含まれます。これらをインストールしなくても補聴器のフィッティングは可能ですので、必要に応じてインストールしてください。



Finish をクリックするとメニュー画面に戻ります。

メッセージ	メディアファイルの状況
Not installed	…未インストール
Out of date	…旧バージョン
Up to date	…インストール済

2. インターフェースの設定

ここでは、補聴器フィッティング用インターフェースの設定手順を説明します。

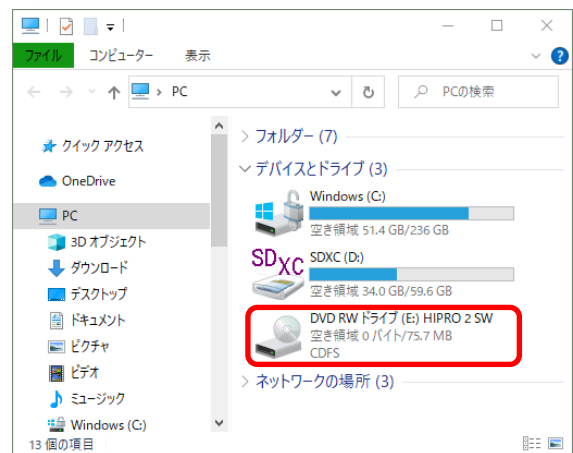
(画像は全てWindows10のもので)

HI-PRO 2

ドライバーのインストール

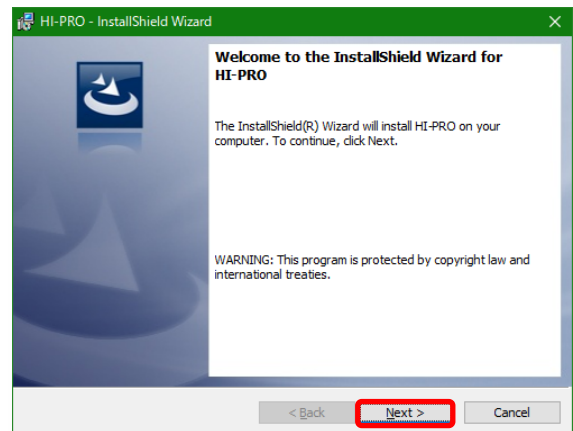
❗ 指示があるまでPCとHI-PRO 2を接続しないでください。

HI-PRO 2に同梱されている『HI-PRO 2 Software Installation CD』をPCのCDドライブに挿入し、デバイスとドライブ内の「DVD RWドライブ」をダブルクリックで開きます。



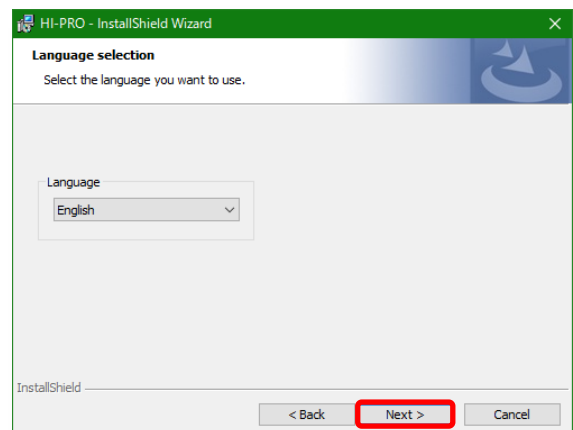
Next >

をクリックします。

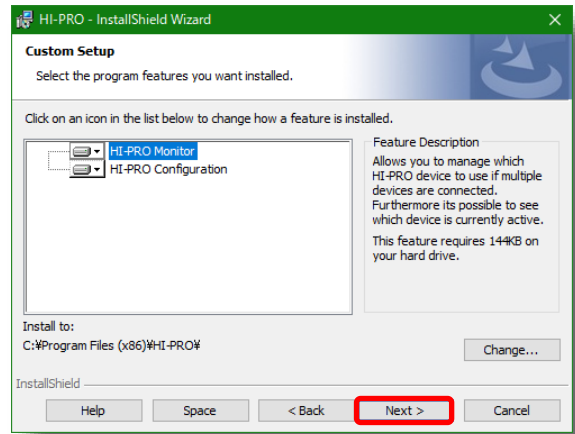


Next >

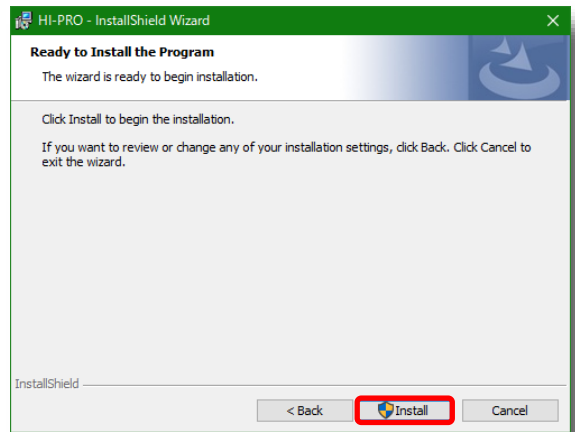
をクリックします。



Next > をクリックします。

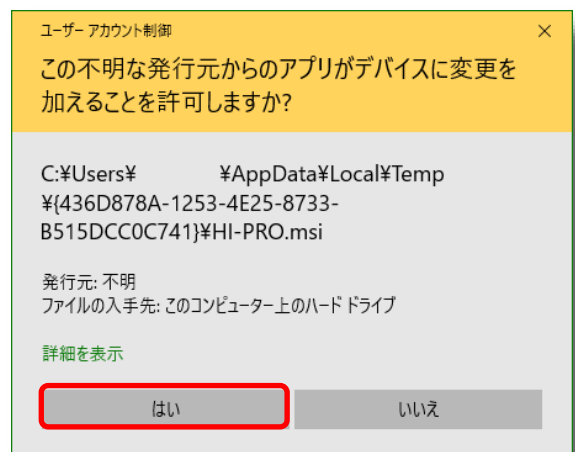


Install をクリックします。

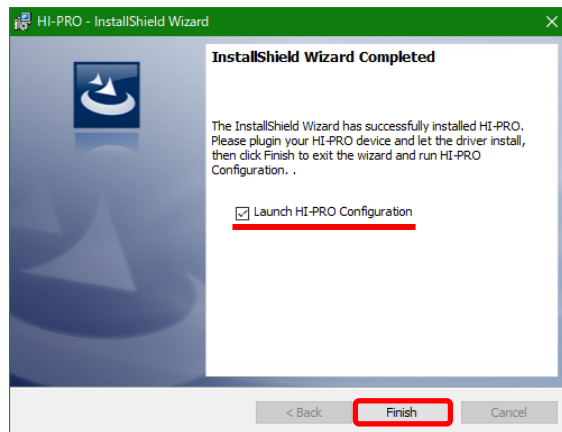


このような確認のダイアログが表示されたら、

はい をクリックして進めます。

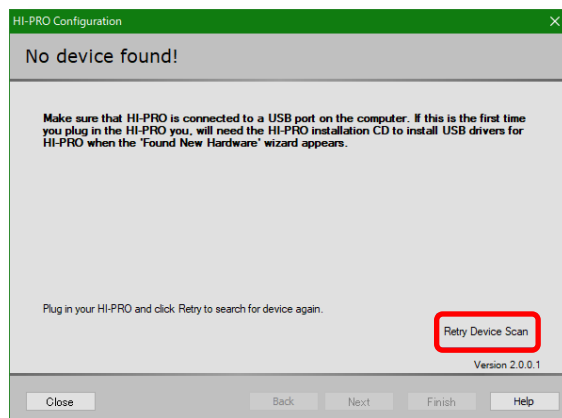


「Launch HI-PRO Configuration」にチェックを入れ、**Finish** をクリックします。



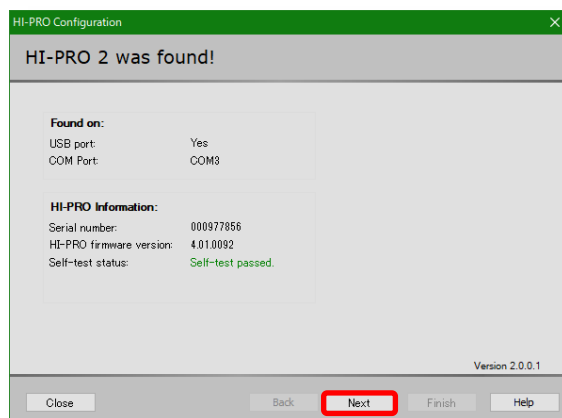
この画面が表示されたら、HI-PRO 2をUSBケーブルを使用して、PCに接続してください。

接続後しばらくすると、自動的にHI-PRO 2がPCに認識されます。認識確認後、**Retry Device Scan** をクリックします。

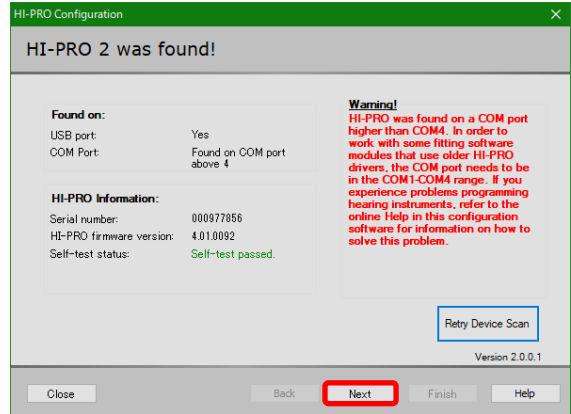


この画面が表示されれば、HI-PRO 2の接続が確認された結果となります。

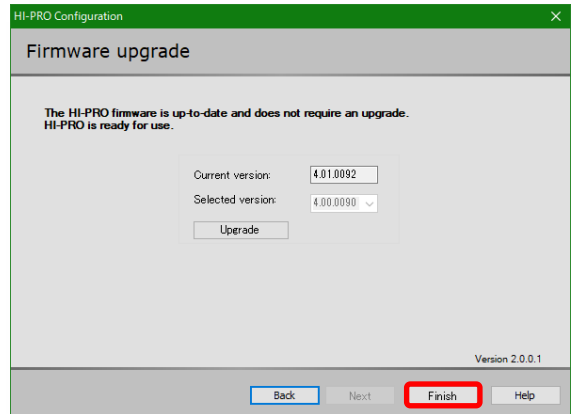
Next > をクリックします。



このような画面が表示された場合はCOMポートの設定が必要です。**Next >** をクリックしドライバーのインストール作業を完了させ、次のCOMポート設定へ進んでください。



Finish をクリックして完了です。



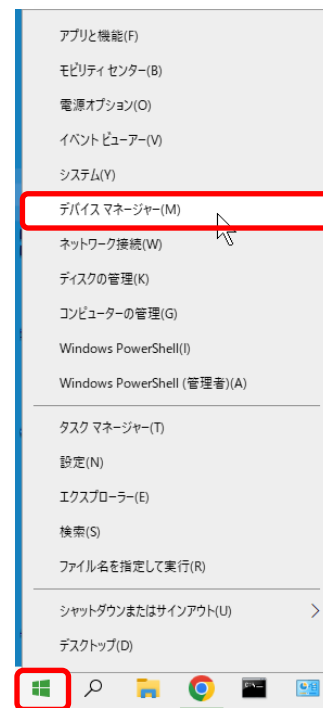
ドライバーのインストールが完了できない場合、ドライバーが最新のものでない可能性があります。その場合、HI-PRO 2の製造元へ直接お問い合わせください。

<https://natus.com/products-services/hi-pro-2>



COMポートの設定

次にHI-PRO 2のCOMポートの設定を行います。HI-PRO 2をフィッティングソフトで使用する場合、必ずCOM1～COM4の間に設定されていなければなりません。

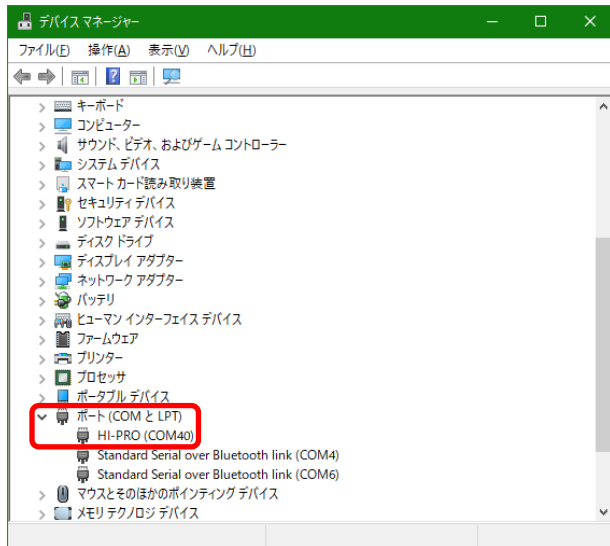
スタートメニューを右クリックし、表示されたメニューの中から「デバイス マネージャー」をクリックします。



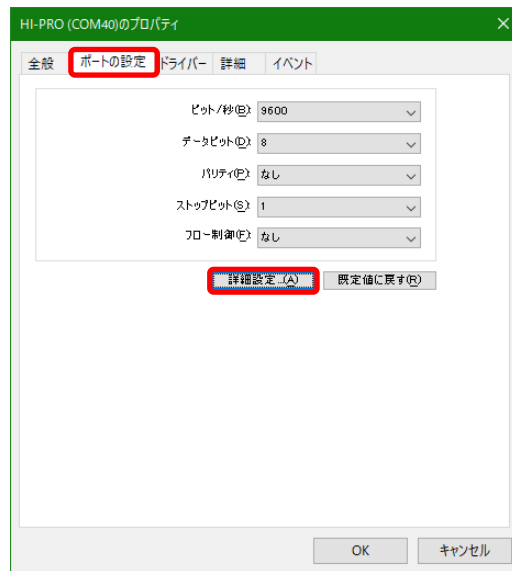
デバイスマネージャが表示されます。

 **ポート (COM と LPT)** を展開し、その直下にある
 **HI-PRO (COM40)** * を右クリックし、「プロパティ
(R)」をクリックします。

* COMの後に続く数字はPCによって異なります

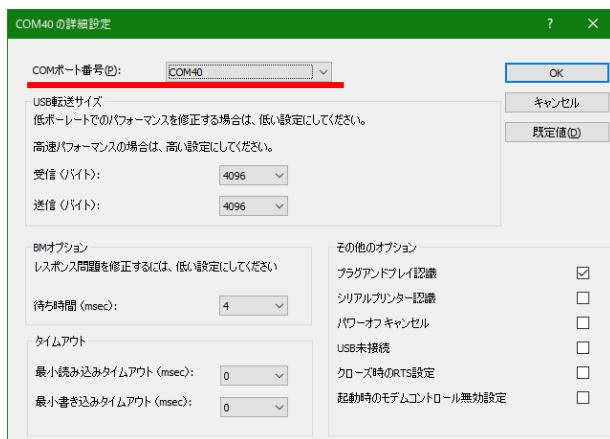


ポートの設定 のタブを開き、その中にある **詳細設定...** をクリックします。



「COMポート番号(P):」を変更します。HI-PRO 2を使用するために必要なCOMポートは、COM1～COM4までですが、COM1もしくはCOM2に設定することをお勧めします。

COMポートの設定完了後、表示されている全てのウィンドウを **OK** を押して閉じてください。
(**OK** がないウィンドウの場合は「×」マークで閉じてください)



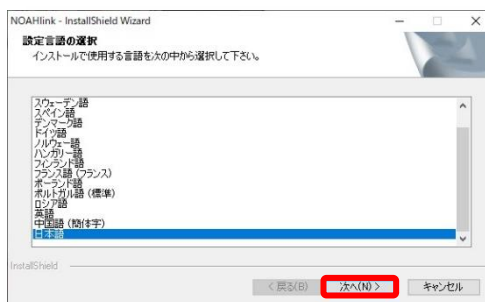
NOAHlink

ドライバーのインストール

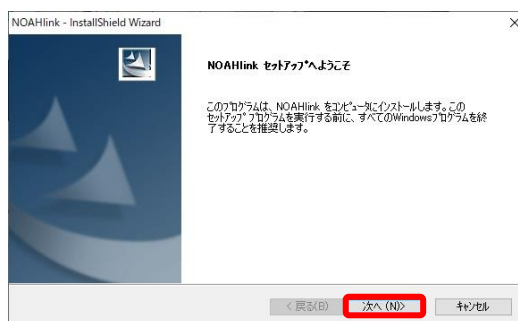
はい をクリックします。



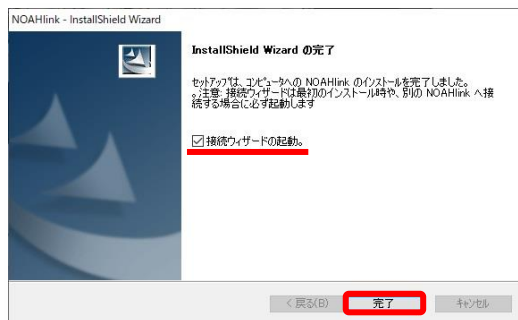
「日本語」を選び、次へ(N) > をクリックします。



しばらくするとこの画面が表示されますので 次へ(N) > をクリックします。



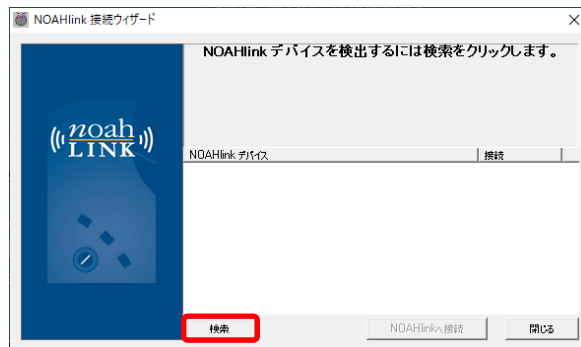
この画面が表示されればNOAHlink Propertiesのインストールは完了です。「接続ウィザードの起動。」にチェックを入れ、完了 をクリックします。



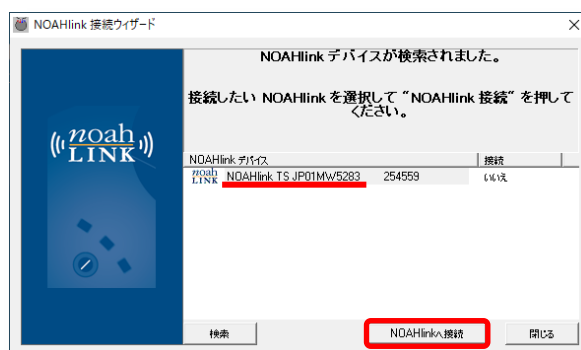
※ NOAHlink Propertiesのドライバーをお持ちでない場合、以下URLの製造元のホームページからダウンロードしてください。https://www.himsa.com/himsa_download/noahlink-properties-program/

接続ウィザードの設定

接続ウィザードが開かれましたら、NOAHlinkの電源を入れ、**検索** をクリックします。

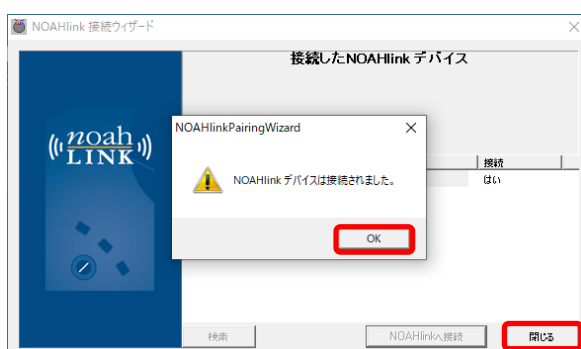


検出されたデバイスをクリックし、**NOAHlinkへ接続** をクリックします。



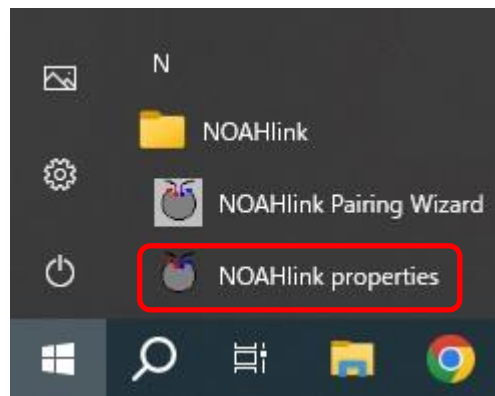
この画面が表示されれば接続完了です。


OK 、 **閉じる** の順にクリックします。



NOAHlink Propertiesの設定

スタートメニューを開き、「NOAHlink」のフォルダから「NOAHlink properties」を開きます。

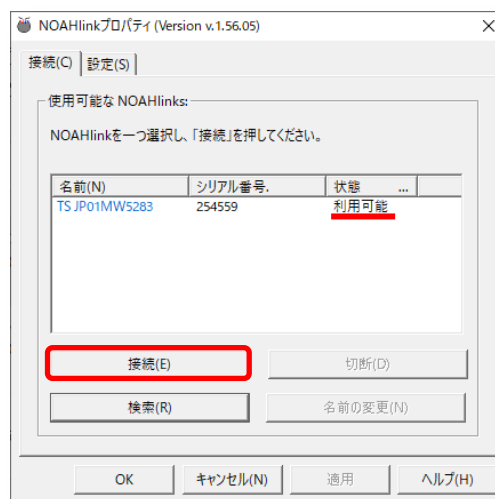


NOAHlinkの電源を入れ、 をクリックします。



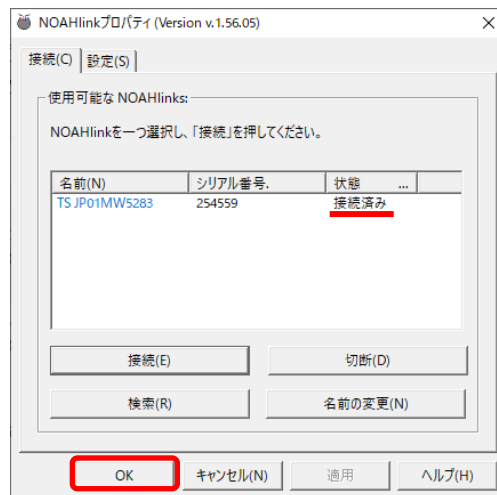
「状態」が「利用可能」で表示されますので

 をクリックします。

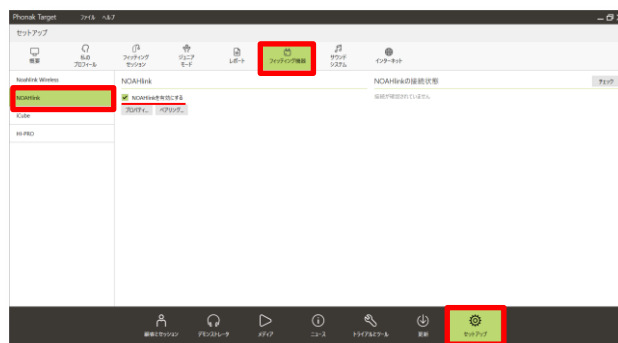


「状態」が「接続済み」になれば設定完了です。

OK をクリックします。



ペアリング作業が完了したら、NOAHlinkが正しく接続されているか確認します。Targetを開き、下段メニューの「セットアップ」>上段メニューの「フィッティング機器」>左項目から「NOAHlink」を開きます。「NOAHlinkを有効にする」にチェックを入れます。



画面右上の チェック をクリックします。正しく接続されている場合、シリアル番号などの詳細が表示されます。

NOAHlinkの接続状態

名称: TS JP01MW5283

シリアル番号: 254559

ファームウェアバージョン: 1.55.03

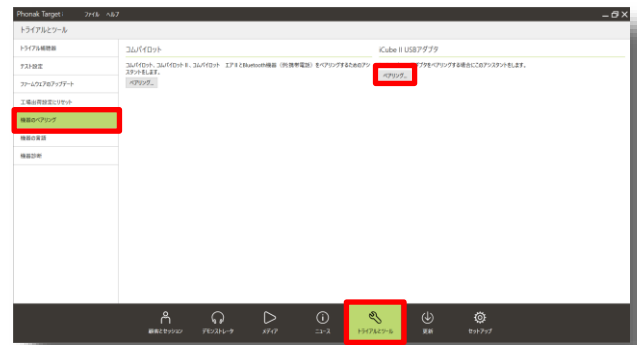
ドライババージョン: 1.56

電池容量 満

iCube II

USBアダプタを使用したセットアップ方法

Phonak Targetを起動します。下段メニューの「トライアルとツール」>左項目から「機器のペアリング」をクリックします。iCube II USBアダプタの **ペアリング...** をクリックし、ペアリングアシスタントを起動します。



USBアダプタがUSBポートに正しく挿入されているか確認し、 **続行** をクリックします。



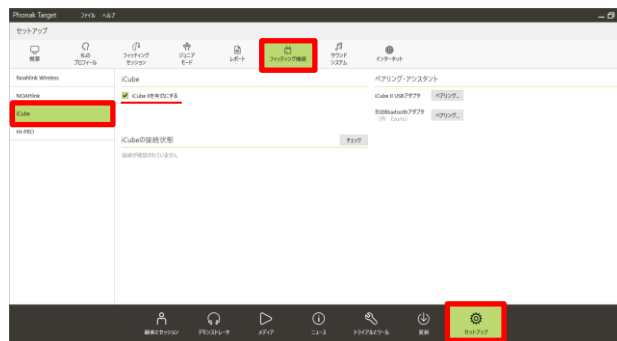
3つのLEDランプが点滅するまでiCube IIのペアリングボタンを長押しします。ペアリングモードになったらペアリングボタンから手を放し **続行** をクリックします。



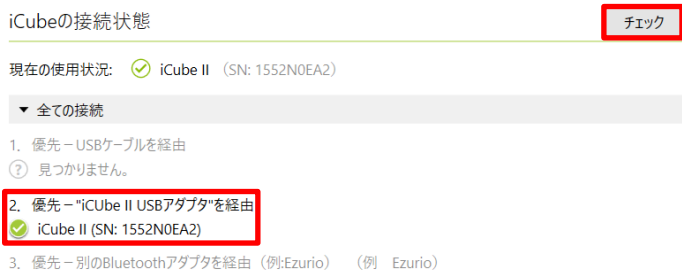
iCube IIの検出が始まります。検出されるとiCube IIのシリアル番号が表示されます。ペアリングしたいiCube IIをクリックして選択し **続行** を押します。ペアリングされると「接続に成功しました」と表示されます。



ペアリング作業が完了したら、iCube IIが正しく接続されているか確認します。下段メニューの「セットアップ」>上段メニューの「フィッティング機器」>左項目から「iCube II」を開きます。「iCube IIを有効にする」にチェックを入れます。



画面中央の「チェック」をクリックします。正しくペアリングされていればシリアル番号と「✔」マークが表示されます。



その他の接続方法

USBアダプタがない場合、「USB-ミニUSBケーブル」でPCとiCube IIを直接接続していただくことでもフィッティングが可能です。



USBアダプタがない場合、PC内蔵のBluetoothや、別売りのBluetoothアダプタとペアリングしてフィッティングすることも可能です。iCube IIをペアリングモードにし、PCのBluetoothペアリング画面からペアリングを行ってください。



Noahlink Wireless

ドライバーのインストール

下記URLの製造元ホームページからドライバーをダウンロードします。

https://www.himsa.com/himsa_download/noahlink-wireless-downloads/

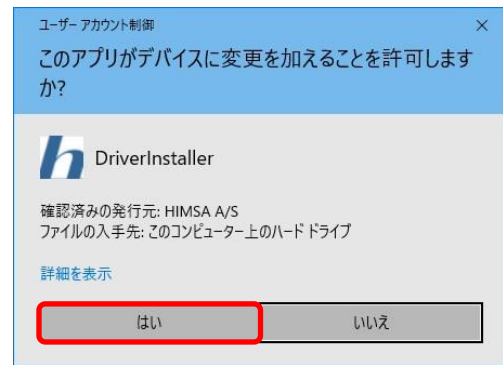
ダウンロードが完了しましたら、**h** Driver_NLW_V.1.1.0.0.exe をダブルクリックで起動します。

起動をするとこのような画面が表示されますので

はい をクリックします。

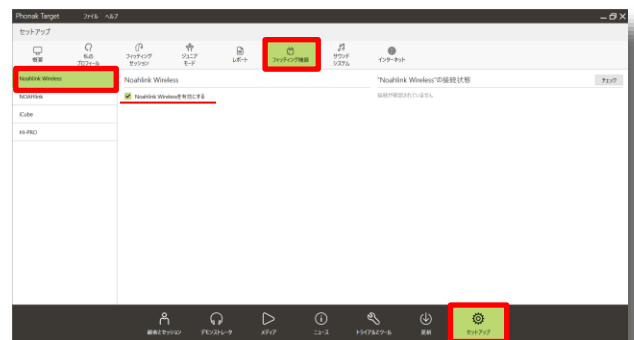
クリックすると元の画面に戻りますので、開かれているウィンドウを全て閉じ、PCを再起動します。

再起動が完了すれば、ドライバーのインストールは完了です。



インストールが完了したら、Noahlink Wirelessが正しく接続されているか確認します。Targetを開き、下段メニューの「セットアップ」>上段メニューの「フィッティング機器」>左項目から「Noahlink Wireless」を開きます。

「Noahlink Wirelessを有効にする」にチェックを入れます。



画面右上の **チェック** をクリックします。正しく接続されている場合、シリアル番号などの詳細が表示されます。

"Noahlink Wireless"の接続状態

Model: NLW FCC: 2AH4DCPD-1 IC: 21381-CPD1

シリアル番号: 2281166344

ファームウェアバージョン: 2.24



3. 顧客管理

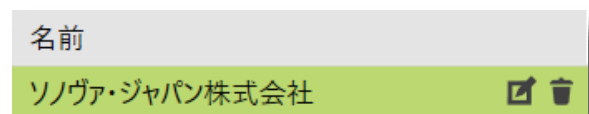
顧客データの管理

新規顧客を作成するには、「顧客とセッション」ウィンドウの左下にある **新規顧客...** をクリックします。

全件表示 をクリックすると保存されている顧客データが表示されます。既存顧客の場合は目的の顧客名を選択し **セッションを開く** または **新しいセッション** をクリックします。



顧客情報を確認・編集するには  を、削除する場合は  をクリックします。複数の顧客をまとめて削除することはできません。



レポート印刷を行いたい顧客を選択した状態で **ファイル** 内の **レポート...** をクリックすると、フィッティングセッションを開かなくても、フィッティングレポートを印刷することができます。印刷するページの指定はできません。



顧客の選択と編集

顧客一覧では **顧客#** ・ **フリガナ** ・ **名前** の各項目をクリックすることで、項目順に並べ替えを行います。また、検索バーから補聴器のシリアル番号や顧客名で該当するものを絞り込むことも可能です。



顧客の個人情報を入力します。

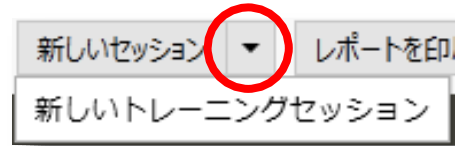
- フリガナ、名前欄は必須項目です
- 生年月日は半角数字で入力してください
- 年齢によりフィッティングモードが自動選択されます

フリガナ	ソノヴァ・ジャパン	性別	<input type="radio"/> 女性 <input type="radio"/> 男性 <input checked="" type="checkbox"/> ノンバイナリー
名前	ソノヴァ・ジャパン (株)	生年月日	2003/06/01
住所1	西五反田5-2-4	年齢	19歳
住所2	レキントン・プラザ西五反田	Eメールアドレス	lifebon.jp@phonak.com
郵便番号	141-0031	自宅の電話	0120-04-4079
区市町村	東京都品川区	会社の電話	0120-04-4079

トレーニングモード

補聴器を接続しなくても、ソフトウェアの機能を最大限学ぶことができます。このモードでは、補聴器をインターフェースと接続していなくても、オーディオグラムダイレクトやハウリングテストなど、全ての機能をシミュレーションすることができます。

新しいセッション ▾ のプルダウンメニューから呼び出せます。
トレーニングモードでは、全ての耳かけ型補聴器が利用可能です。なお、この機能ではセッションの保存、およびエクスポートはできません。



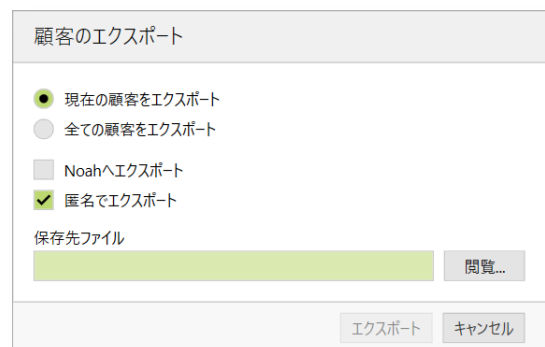
エクスポートとインポート

Phonak Targetでは顧客データのエクスポート（ファイル書き出し）とインポート（ファイル読み込み）が可能です。



閲覧... をクリックすると保存するファイル名とフォルダの選択ができます。わかりやすいようファイル名を入力し保存ボタンをクリックします。エクスポートが終了すると、指定したフォルダに拡張子“.export”のファイルが作成されます。このファイルをコピーしたり電子メールで送付したりすることで、持ち出し用PCへの一時的なデータ移行や、ユーザーの引越等による店舗移動の際にご使用ください。

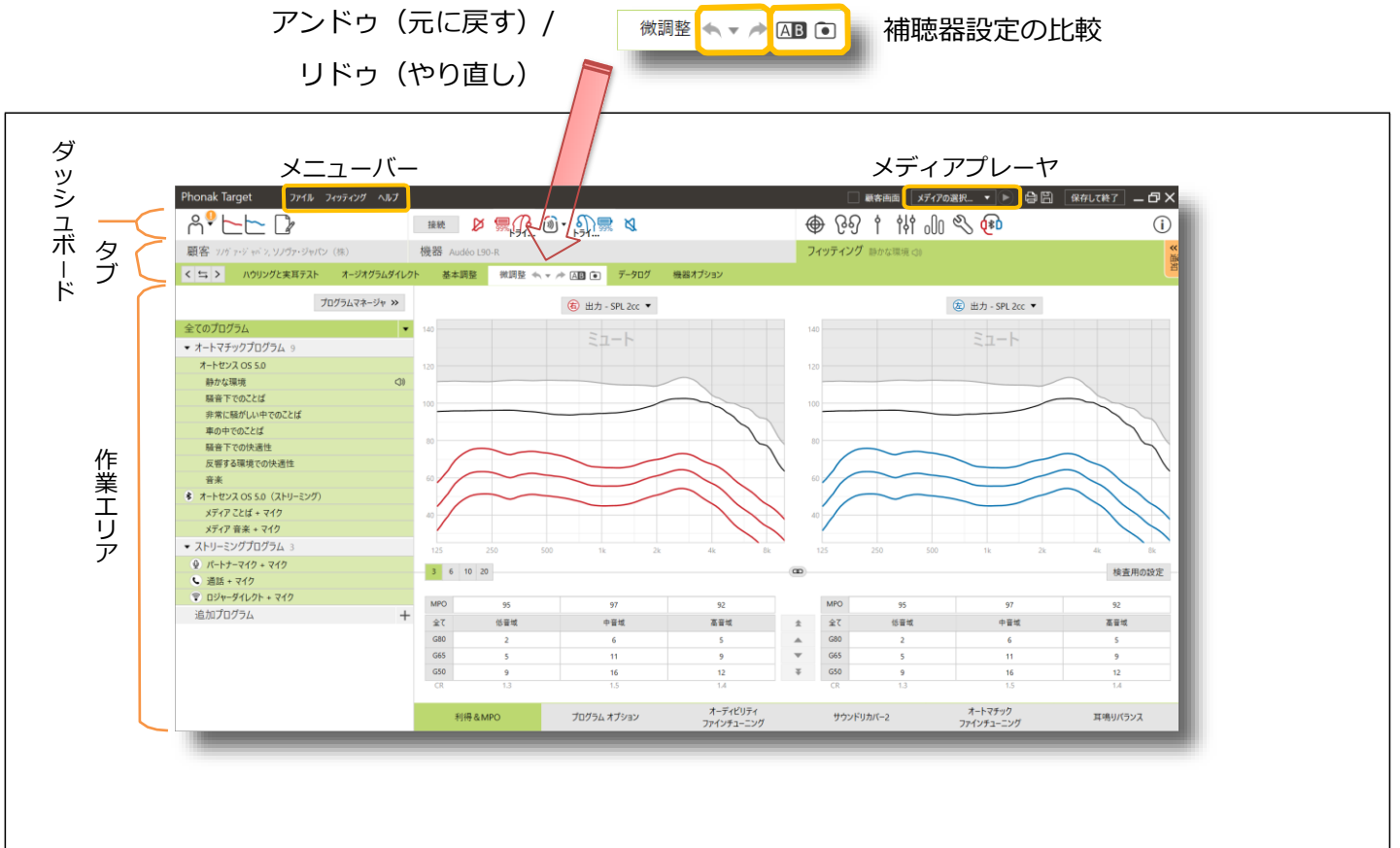
- 現在の顧客をエクスポート
選択した1人分の顧客データを保存します。
- 全ての顧客をエクスポート
全ての顧客データを1つのファイルにまとめて保存します。
- 匿名でエクスポート
顧客名を伏せて保存します。
インポートした際全ての顧客名が『Anonymized』となりますのでご注意ください。
- NOAHへエクスポート
NOAH4形式 (*.Nhax) に変換して保存します。



4. フィッティングセッション

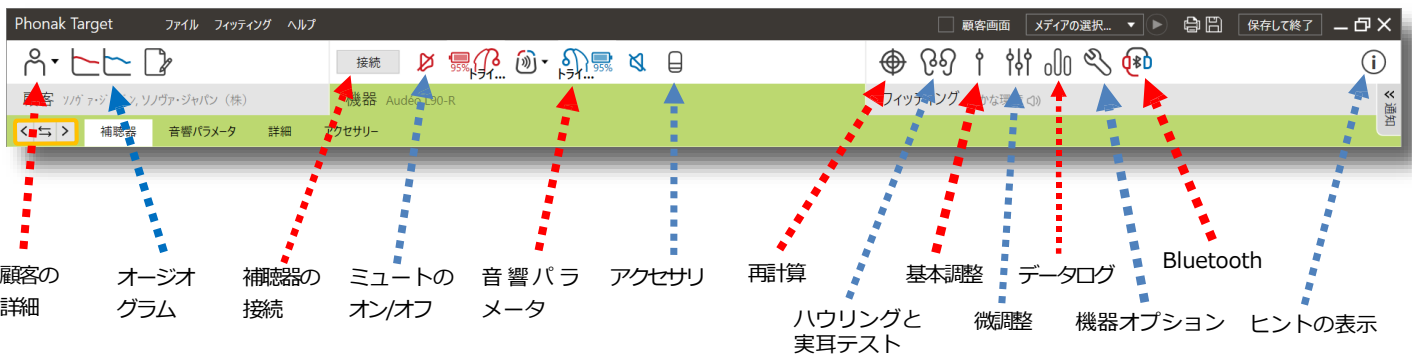
画面の構成

フィッティング画面の構成と名称は以下のとおりです。



ダッシュボードについて

フィッティングセッションでは、画面上部にダッシュボードと呼ばれるスペースがあり、様々なアイコンが表示されます。ダッシュボードは、フィッティング中いつでも表示され、アイコンをクリックすると別の画面からでも目的の画面/機能に1クリックでアクセスできます。



ナビゲーションボタン をクリックすれば、左右のタブに簡単に進むことができます。また、中央の ボタンを押すと前後の画面を簡単に切り替えることができます。この操作はショートカットキー (Ctrl + "T") でも行えます。

タブについて

Phonak Targetはフィッティングに必要な機能を **顧客** ・ **機器** ・ **フィッティング** の3つのタブに集約しています。各タブはさらにいくつかの項目に分かれており、各項目において詳細な設定を行うことができます。

顧客

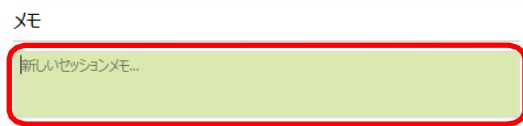
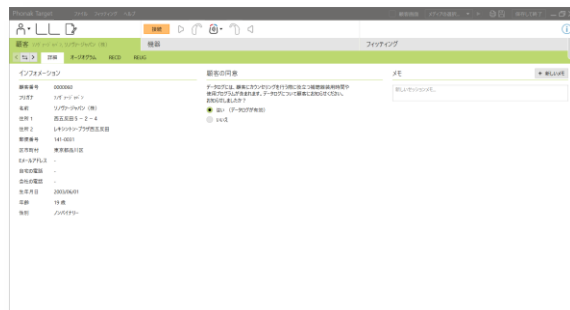
詳細

顧客に関する各種情報を確認できます。

データログを適用するためには顧客の同意が必要となります。同意が得られる場合“はい”にチェックを入れます。

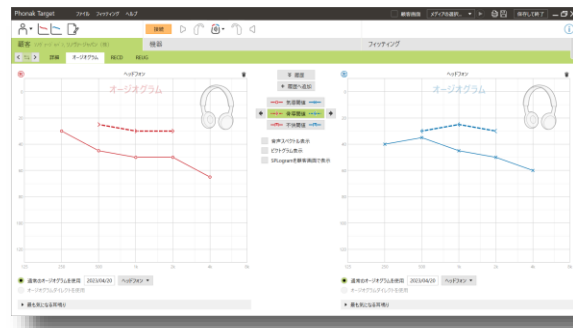
※ 同意が選択されていない場合はオンのままとなります

メモ機能を使用し自由にテキストを入力できます。Enterキーで確定し日付とともに履歴として保存されます。改行はできません。入力済みのコメントをクリックすれば修正が可能です。

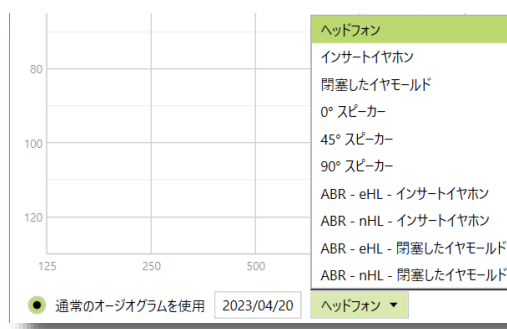


オーディオグラム

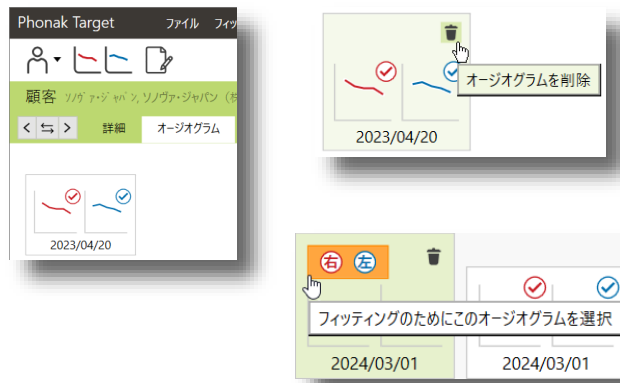
気導・骨導聴力レベルと不快閾値の入力が可能です。骨導聴力レベルおよび不快閾値は、入力しない場合気導聴力レベルから自動的に算出されます。気骨導差が大きい場合は入力することをお勧めします。入力項目を変更する場合は中央の気導閾値・骨導閾値・不快閾値の各ボタンをクリックします。



ジュニアモードの場合、ABR検査の値を入力することも可能です。eHL(estimated Hearing Level) は推定閾値、nHL(normalized Hearing Level) は通常閾値を意味します。nHLから行動補正値を引いた値がeHLとなり、測定機種により行動補正値は異なる場合があります。

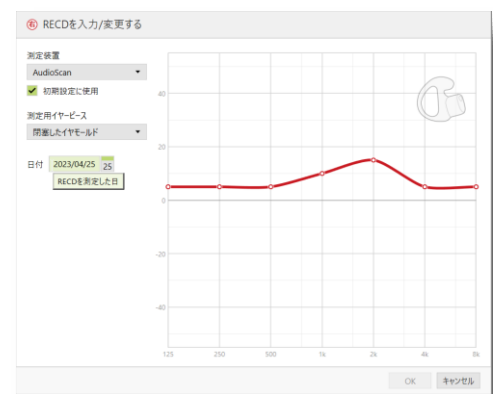
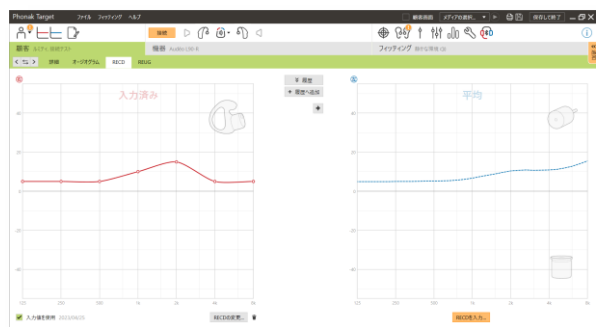


入力後 **+ 履歴へ追加** をクリックするとオーディオグラム履歴に追加します。 **▲ 履歴** をクリックすると過去に保存したオーディオグラムが表示されます。必要に応じて **右** **左** をクリックし、過去のオーディオグラムを基にフィッティングを行うことも可能です。オーディオグラム変更後は、再計算 (⊕) をして完了です。不要になったオーディオグラムは **🗑** をクリックすると削除できます。



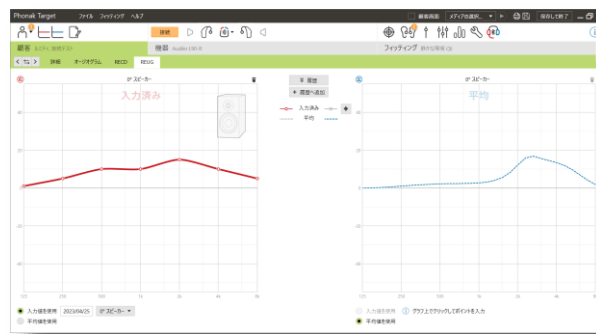
RECD

RECD (実耳とカプラの差) の入力が可能です。入力を行わない場合平均値がフィッティングに適用されます。 **RECDを入力...** をクリックするとRECDの入力画面が表示されますので、測定装置と測定用イヤークラスを選びます。初期設定に使用にチェックを入れておくと、次回以降測定装置を選ぶ必要がなくなります。日付にマウスカーソルを合わせると **25** アイコンが表示されますので、そちらをクリックしカレンダーから日付を選びます。入力が完了したら **OK** をクリックし、再計算 (⊕) をして完了です。オーディオグラムと同様、履歴の管理が可能です。



REUG

REUG (裸耳利得) の入力が可能です。入力を行わない場合平均値がフィッティングに適用されます。RECDの様な専用の入力画面は無いため直接入力をしてください。入力が完了しましたら、日付にマウスカーソルを合わせると **25** アイコンが表示されますので、そちらをクリックしカレンダーから測定した日付を選びます。入力が完了したら **OK** をクリックし、再計算 (⊕) をして完了です。オーディオグラムと同様、履歴の管理が可能です。オーディオグラムと同様、履歴の管理が可能です。



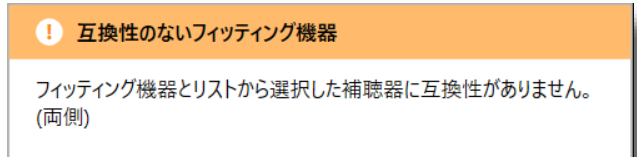
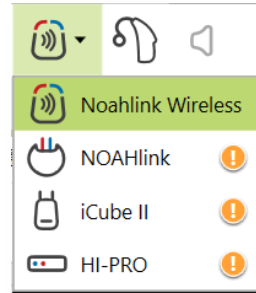
機器

補聴器

フィッティングに使用する補聴器を選択します。ケーブルに接続した補聴器は、ダッシュボードの **接続** ボタンをクリックすれば検出されます。

インターフェースアイコンの▼をクリックすると、接続に使用する機器の切り替えが行えます。使用する機器は予めPhonak Targetセットアップで利用可能にしておく必要があります。

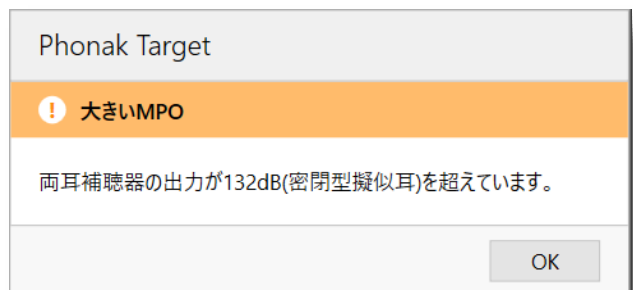
! アイコンがついているインターフェースでは、補聴器を接続することができません。



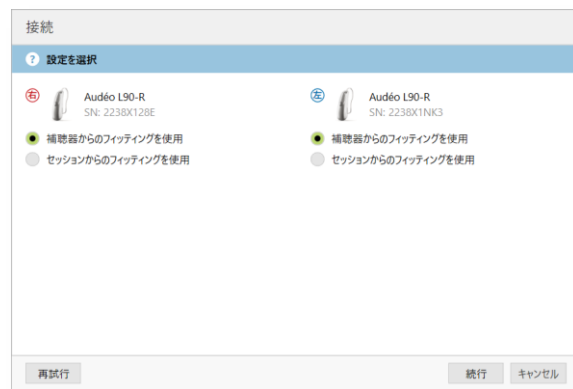
ワイヤレスフィッティングを行う場合は、検出された補聴器の装用耳の情報が表示されます。必要に応じて左右の設定をし直し **続行** をクリックしてください。補聴器が検出されない場合は、補聴器の電源の入れ直しを行ってください。🎵 をクリックすると補聴器からビープ音が流れますので、複数の補聴器が検出された場合や、左右の補聴器の判別にご活用ください。



微調整画面を出力表示にした際左右いずれかのチャンネルのMPOが132dBを超えていた場合、補聴器装用者の残存聴力に悪影響を与える危険性について警告が表示されます。 **OK** をクリックし、その出力で音を提示して問題ないか十分に確認を行うようにしてください。出力表示の詳細は本誌32ページをご参照下さい。



同一器種で、開いているフィッティングデータと補聴器内に保存されているフィッティングデータが一致しない場合、どちらのフィッティングデータを使用するか聞かれます。使用したい方のフィッティングデータを選び **続行** をクリックしてください。



開いているフィッティングデータと補聴器が左右逆になっている場合、変更の許可を求められます。フィッティングを進めても問題ない場合、『側の変更を許可する』にチェックを入れて **続行** をクリックしてください。



開いているフィッティングデータと接続した補聴器の器種が一致しない場合、警告が表示されます。問題がない場合は **続行** をクリックしてください。



開いているフィッティングデータと補聴器に保存されているデータが異なるため、補聴器内に保存されているデータでフィッティングを開始するか、補聴器をリセットし、新たにフィッティングを開始するかどちらか一方を選び、**続行** をクリックしてください。



『補聴器をリセットし、新しいフィッティングを作成』を選ぶと、補聴器を工場出荷設定にリセットするかどうかを選ぶ画面が表示されます。『工場出荷設定にリセット』のチェックを外して **続行** をクリックすると、リセット作業を行わずフィッティングが開始できます。

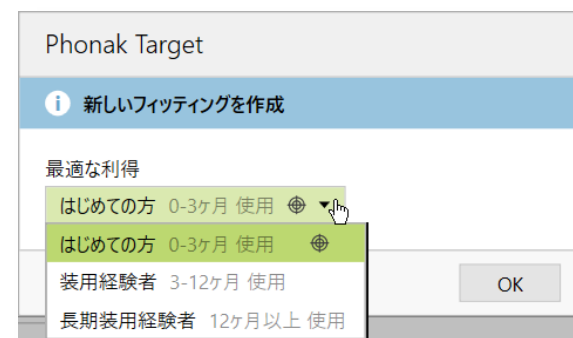


もともと両耳フィッティングをしていなかった補聴器どうしを接続すると、左右どちらの設定を維持するか選択する画面が表示されます。左右どちらかを選び、**続行** をクリックしてください。これらの設定は後ほど変更可能です。



新しいフィッティング、もしくは以前のフィッティングを破棄して最初からフィッティングを行う際は、想定される経験度が自動的に設定されます。必要に応じて、変更が可能です。

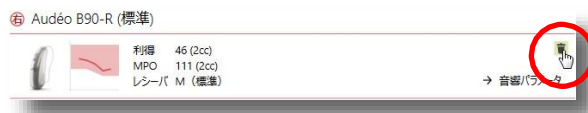
はじめての方を選んだ場合、利得レベルが80%から、装用経験者を選んだ場合、利得レベルが90%から、長期装用経験者を選んだ場合、利得レベルが100%からそれぞれ開始されます。利得レベルは基本調整画面からいつでも変更可能です。



トレーニングモード、または補聴器のシミュレーションを行う場合は作業エリアのリストから選択してください。スタイル・機能で絞り込みが可能です。



一度選択した補聴器を削除する場合は、右上の🗑️をクリックします。



補聴器接続時のメッセージ

補聴器からのフィッティングを使用	補聴器に保存されている各設定およびオーディオグラムダイレクトを継承してフィッティングを行います。
セッションからのフィッティングを使用 (再調整)	データベースに保存されている各設定およびオーディオグラムダイレクトを継承してフィッティングを行います。 ※ 補聴器に保存されている内容は破棄されますのでご注意ください
新しいフィッティングを作成 (新規)	入力したオーディオグラムおよび装用経験などを基に新しいフィッティングを開始します。 ※ 補聴器に保存されている内容は破棄されますのでご注意ください

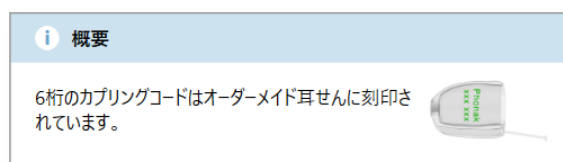
音響パラメータ

ベント径や耳せん、チューブの種類が変更できます。実際の装用状態に合わせて正確に入力してください。BTEはチューブの種類、RICはレシーバの種類と耳せん、ベント径を正しく入力してください。

カプリングコード	XXXXXX
耳せん	パワー型耳せん
耳せん サイズ	M
レシーバ	M
ワイヤーの長さ	2M R

スリムチップ、SPシェルでAOV*が設定されている場合、この画面で入力してください。

※ 音響パラメータが正しく設定されないと正確なフィッティングができませんのでご注意ください。




*AOV：デジタル製造シェルによるベント、耳あな型はベントの詳細を入力しなくても、自動的にPhonak Targetに反映しフィッティングに活用されます

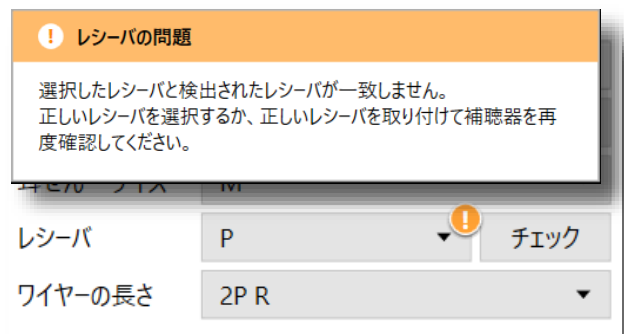
レシーバチェック

レシーバチェックは、RICタイプ補聴器に取り付けてあるレシーバがフィッティングソフト上の設定と一致しているかをチェックするものです。音響パラメータの不一致はフィッティングの途中では見落とされがちで、効果測定や音質の段階でようやく発覚することがあります。レシーバチェックが行われることで、他の音響パラメータのチェックを促すきっかけにもなります。レシーバの設定が実際と異なる場合は、音響パラメータを正しい設定に変更するか、正しいレシーバに交換してください。

● 新規フィッティング時

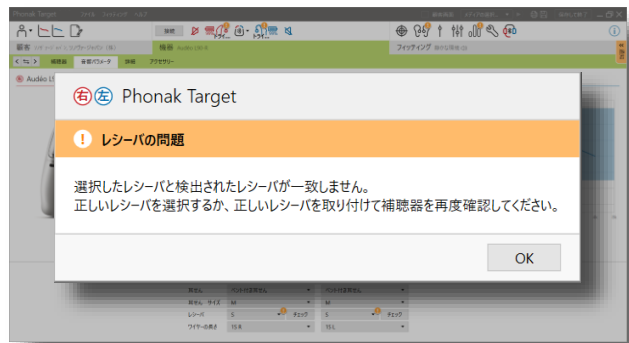
補聴器を接続すると、オーディオグラムに基づいて推奨されたレシーバと実際のレシーバが合致しているかどうか、自動的にチェックを行います。

もし一致していない場合は音響パラメータのレシーバー欄に、レシーバの確認を促す  マークが表示されます。




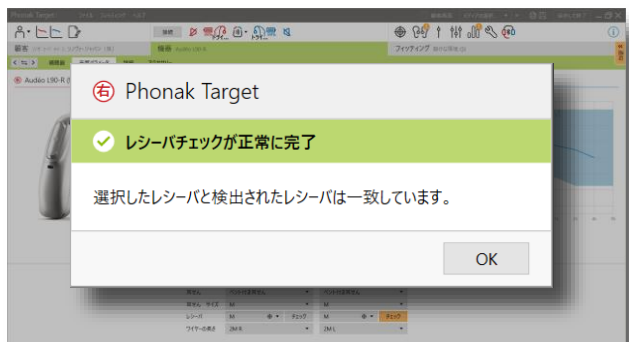
● 2回目以降のフィッティング時

フィッティングセッションを開いて補聴器を接続すると、音響パラメータに設定されたレシーバと実際のレシーバが合致しているかどうか、自動的にチェックを行います。もし一致していない場合は確認を促すダイアログボックスが表示されます。



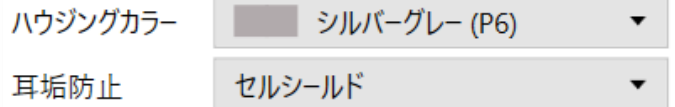
● 手動で行う時

レシーバチェックはフィッティングセッション中に、いつでも実施することが出来ます。音響パラメータ画面で  をクリックしてください。



詳細

補聴器のハウジングカラーや耳垢防止フィルターの種類が入力できます。フィッティングには影響しませんので詳細の照合にご使用ください。

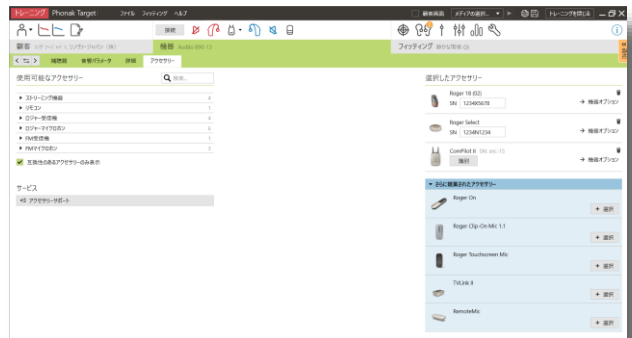


アクセサリ

補聴器と同時に使用する各種アクセサリの追加と削除を行います。通常、フィッティングセッション中にデジタルワイヤレスアクセサリを「USB-ミニUSBケーブル」で接続するだけで自動的に識別されます。

(充電専用ケーブルでは識別されませんのでご注意ください)

識別不要のアクセサリ類（ロジャー送受信機等）の場合やトレーニングモードの場合は、作業エリアのリストから選択できます。

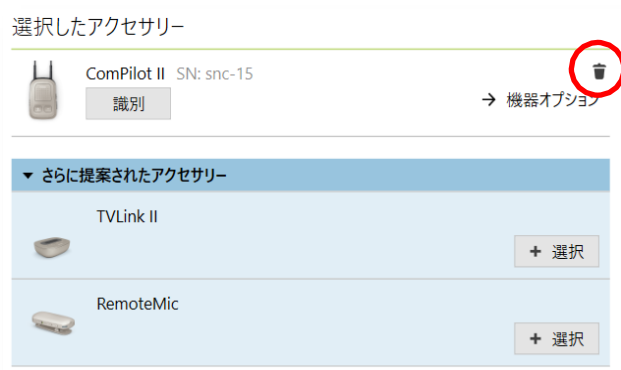


正しいケーブルで接続された場合、画面中央に「アクセサリをチェック…」と表示されます。



認識済みのアクセサリは画面右側に表示されます。また、利用可能なアクセサリの提案も表示されます。

『→ 機器オプション』をクリックすると、機器オプション画面にジャンプします。



追加したアクセサリを削除する場合は、右上の🗑️をクリックします。

フィッティング

ハウリングと実耳テスト

補聴器のハウリング抑制にかかわる各種設定を行います。

実際に補聴器を装着した状態でテストを行います。両耳の場合は左右の補聴器をそれぞれにテストが必要です。あらかじめ測定音が出ることを説明したうえで画面のボタンをクリックします。

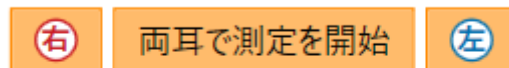
(クリックするとすぐに検査音が提示されますのでご注意ください)

ハウリングテストの結果、ハウリング閾値が設定されます。正確な測定結果のために、静かな場所で行ってください。正確な測定ができていないとメッセージが表示されます。

マーベルシリーズまでの補聴器では、テスト終了後に2つのチェックボックスが表示されますので、必要に応じて、フィッティングに適応させます。また、ハウリング閾値が紫の実線に変わり、それを超えて利得を増幅させることができなくなります。テストを行わない場合、紫の点線で推定ハウリング閾値が表示されますが、**それを超えて利得を増幅させることが可能です。**

パラダイスシリーズ以降の補聴器では、テスト後に1項目のチェックボックスが表示されますので、必要に応じてフィッティングに適応させます。テストを行わない場合でも、紫の点線で表示されている**推定ハウリング閾値を超えて利得を増幅させることができません**ので、オーバーチューニングをして推定ハウリング閾値を拡張させます。

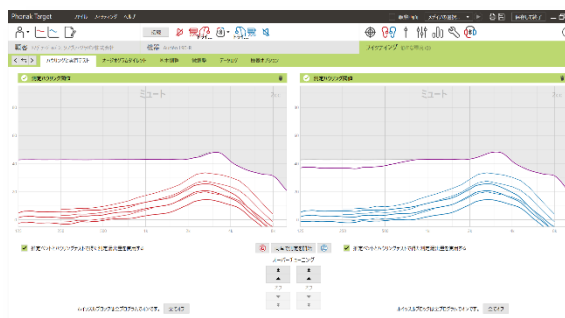
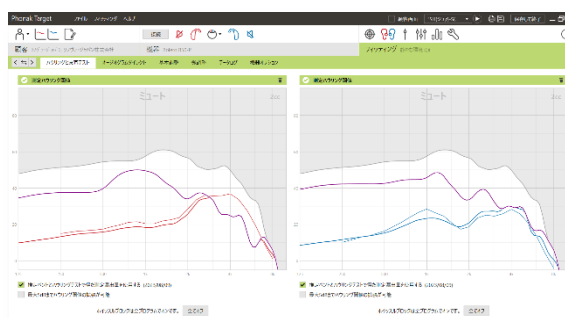
"ハウリングと実耳テスト"が未実施です。



① テスト中は静かにするようにしてください。

① 測定結果ポイントをスキップ

テストは終了しましたが、全ての測定は正常に完了していません。周囲雑音を抑えて、測定結果をより改善するためにテストを続けてください。



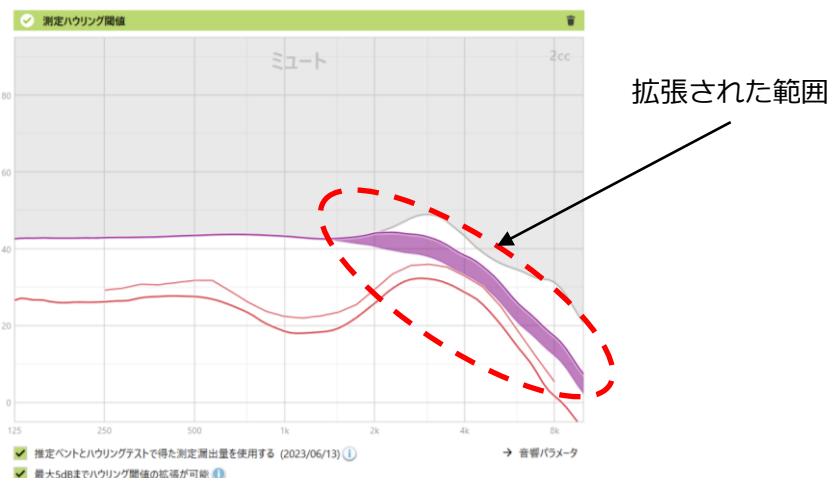
オプション (マーベルシリーズまで)

測定ベントとハウリングテスト
で得た測定漏出量を使用する

推定ベントとハウリングテストで得た測定漏出量がフィッティングに適用
されます。

最大5dBまでハウリング閾値の
拡張が可能

測定したハウリング閾値から最大5dB利用可能な利得が大きくなります。



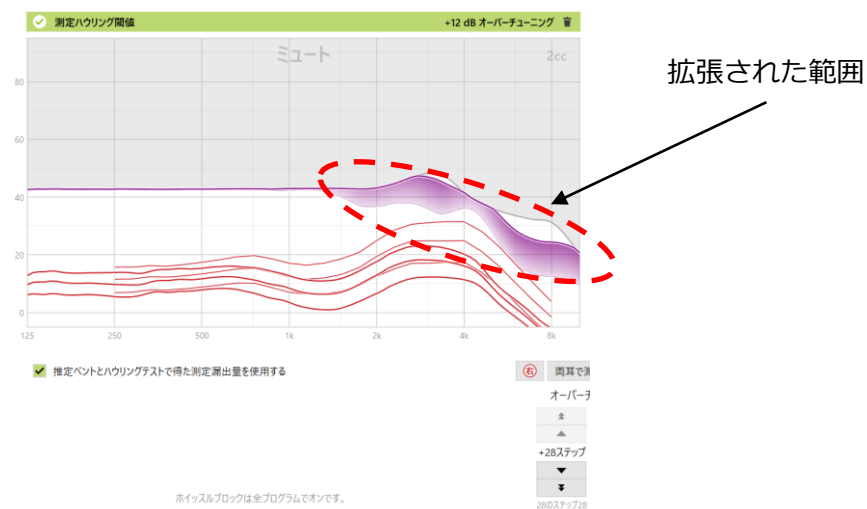
オプション (パラダイスシリーズ以降)

測定ベントとハウリングテスト
で得た測定漏出量を使用する

推定ベントとハウリングテストで得た測定漏出量がフィッティングに適用
されます。

オーバーチューニング

処方された目標利得に到達するまで最大12dBまで拡張することが可能です。
最大ステップ数は入力された音響パラメータ等、条件により異なります。
オーバーチューニングを行うとホイッスルブロックは20 (最大値) 固定と
なります。



以下の場合、『推定ベントとハウリングテストで得た推定漏出量を使用する』にチェックを入れることができません。

- 10歳未満の顧客の場合
- ベントがない（閉鎖）と判断した場合
- ベントからの音漏れが少ない場合
- ベントからの音漏れが大きすぎる場合

i 現在、機能は無効です

ユーザーが10歳未満または測定したハウリング閾値を使用する場合、推定ベントを利用することはできません。

💡 ヒント：ホイッスルブロックについて

ホイッスルブロックは逆位相によるハウリング抑制機能です。実耳テストを実行しなくてもホイッスルブロックをオンにするだけで利用可能になります。実耳テストができない、または雑音などの影響でハウリングテストが正常に実行できない場合はホイッスルブロックをオンに切り替えてご利用ください。

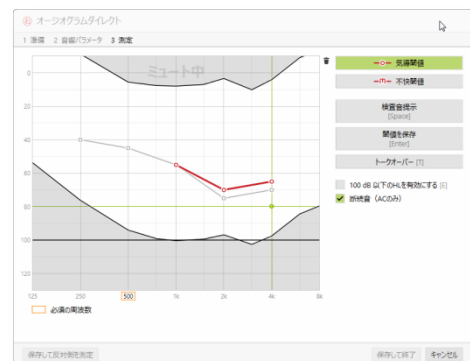
ホイッスルブロックは全プログラムでオフです。



ホイッスルブロックは全プログラムでオンです。

オーディオグラムダイレクト

特別な機材を必要とせず、補聴器だけで補聴器フィッティングのための聴力測定が可能です。この機能については本誌65ページで詳しく説明します。




基本調整

補聴器フィッティングの基本的な項目を設定します。

初期フィッティング

- 利得レベル 補聴器の利得を目標利得に対する割合で調整します。マーベルシリーズまでは70%～110%の間で5段階、パラダイスシリーズ以降は70%～110%の間を1%刻みで調整することが可能です。「自動順応マネージャ」を選択すると、決められた期間に補聴器の利得を徐々に増加させることが可能です。
- 自動順応マネージャ 補聴器の利得をはじめは快適な大きさから、ユーザーの補聴器装用時間に応じて設定した目標値へ徐々に増加させる機能です。予めハウリングテストを実行したのち、移行期間および利得レベルの開始と終了を指定して使用します。

移行期間と開始・終了レベルは


 をクリックします。

利得レベル

自動順応マネージャ

70% → 100%

マーベルシリーズまでの補聴器は、開始時のレベルを70%～90%の3段階から選び、終了時のレベルを80%～100%の3段階から選びます。



自動順応マネージャ

開始時のレベル 70% | 終了時のレベル 100%

継続期間 30 日

OK

パラダイスシリーズ以降の補聴器は、開始時のレベルと目標利得レベルを1%刻みで選びます。

利得レベル


70%

自動順応マネージャ

目標利得レベルと所要日数 100 %

継続中 41 日

※ 自動順応マネージャが終了する前に補聴器の音が十分満足のいくものだと感じられた場合、チェックを外すことで自動順応マネージャをその時点で停止させることができます。

- 閉塞感対処
自声のこもり感が気になる場合に、この値をオフから強に変更します。こもり感が弱まったり、なくなったりしたときは値を徐々に弱め、不快でない値に設定します。
- 圧縮比
全ての周波数帯に対して、圧縮比の変更を行います。「既定の圧縮比」、「ややリニア」、「リニア」の3種類から選択可能です。
- CROSバランス
フォナック クロスを用いてCROSフィッティングを行う場合に使用します。左右のマイクロホンバランス調整等が可能です。
- 両耳連動アイコン 
アイコンをクリックすると、調整の両耳連動/非連動を切り替えることができます。

サウンドリカバー

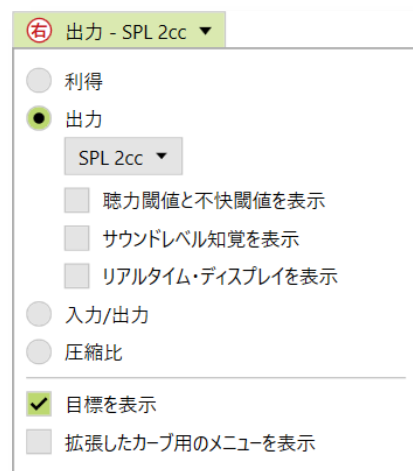
サウンドリカバー2と旧タイプのサウンドリカバーどちらを使用するか選択できます（サウンドリカバー2対応器種のみ）。また、左右別々で処理させる設定もこちらからできます。

フィッティング処方

目標利得算出のためのフィッティング理論を変更します。

補聴器特性表示の変更

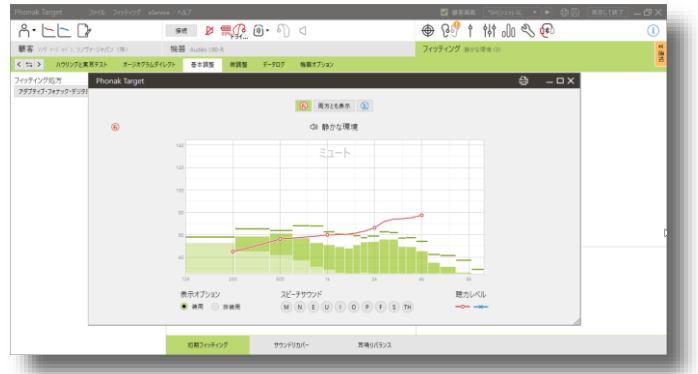
補聴器特性表示を利得・出力及び入出力特性から選ぶことができます。カブラの種類もこちらで変更できます。



⚠ 耳鳴りノイズ・バランス（ノイズジェネレーター）は医師の指導なく使用できません。

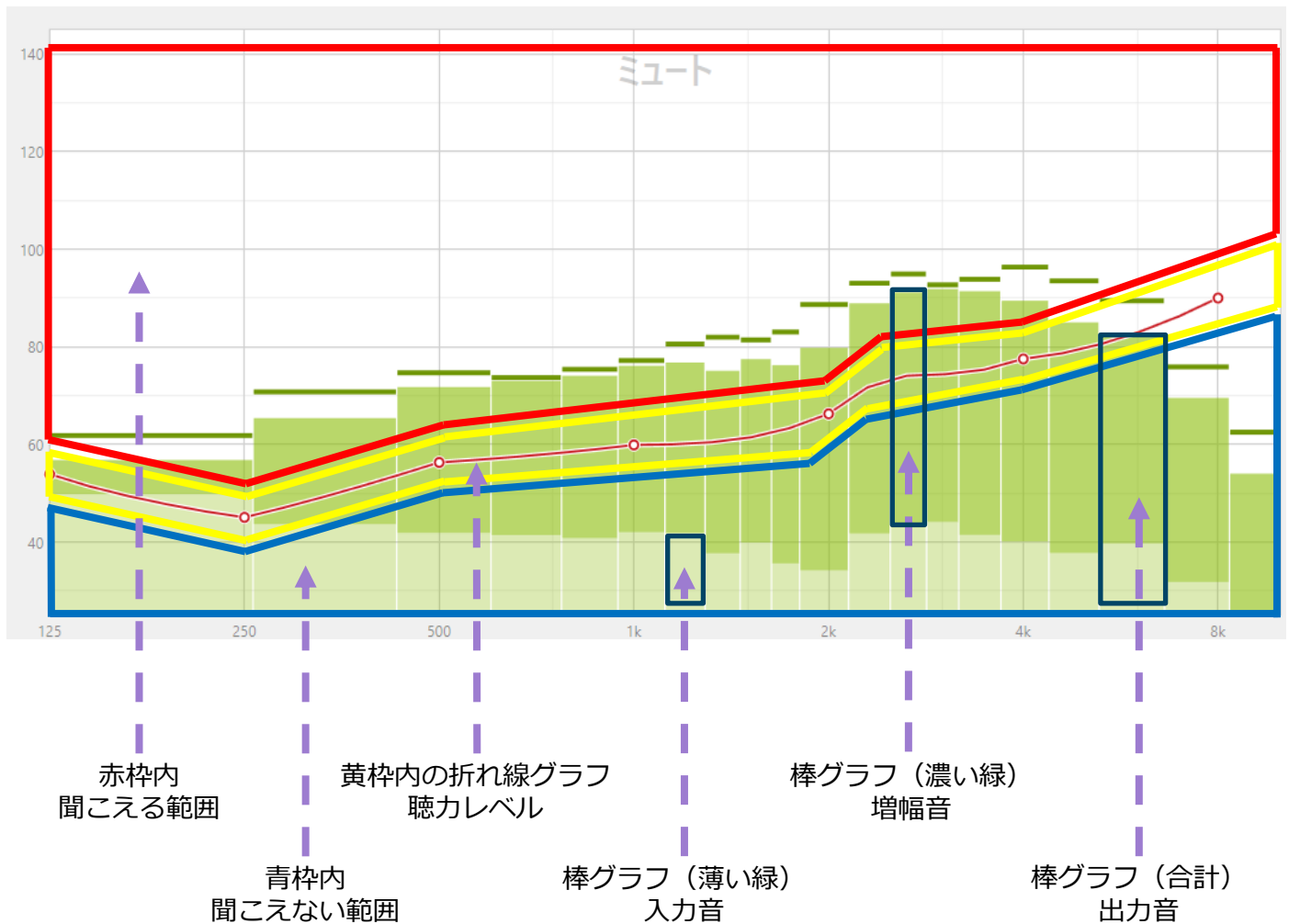
リアルタイム・ディスプレイ

画面右上の **顧客画面** をクリックすると、リアルタイム・ディスプレイを表示させることができます。PCのモニターが1台の場合は別ウィンドウで表示、マルチディスプレイ環境であれば2台目のモニターに拡大表示されます。



リアルタイム・ディスプレイの画面構成

リアルタイム・ディスプレイの画面の構成は以下のとおりです。



微調整

補聴器のフィッティングの詳細な項目を設定します。

利得&MPO

各チャンネルの利得・最大出力を設定します。設定項目はMPO（最大出力音圧）と、大きな音、中くらいの音、小さな音の入力に対する利得です。

（クエストシリーズ以降はG80/G65/G50、スパイスシリーズはG80/G60/G40の3つ）

調整チャンネルは 3 分割から 20 分割（器種による）が可能です

▲ / ▼で利得が3ステップずつ上下します
▲ / ▼で利得が1ステップずつ上下します
ボタンを押し続けると変化量も連続して大きくなります

3	6	10	20			
MPO	95	94	97	103	98	87
全て	310	850	1.5k	2.5k	3.6k	6.7k
G80	8	7	13	22	22	15
G65	13	12	20	29	28	21
G50	17	17	26	34	30	21
CR	1.3	1.5	1.7	1.8	1.7	1.7

MPO	98	93	96	101	98	87
全て	310	850	1.5k	2.5k	3.6k	6.7k
G80	9	6	11	20	19	14
G65	13	11	17	26	24	20
G50	16	15	22	29	25	20
CR	1.3	1.4	1.6	1.6	1.5	1.6

項目の選択方法

全項目の利得を調整する場合 → 全項目の選択は左上をクリックします

MPO	98	93	96	101	98	87
全て	310	850	1.5k	2.5k	3.6k	6.7k
G80	9	6	11	20	19	14
G65	13	11	17	26	24	20
G50	16	15	22	29	25	20
CR	1.3	1.4	1.6	1.6	1.5	1.6

特定のチャンネルの利得を調整する場合 → 調整したいチャンネルをクリックします

MPO	98	93	96	101	98	87
全て	310	850	1.5k	2.5k	3.6k	6.7k
G80	9	6	11	20	19	14
G65	13	11	17	26	24	20
G50	16	15	22	29	25	20
CR	1.3	1.4	1.6	1.6	1.5	1.6

特定の入力音の利得を調整する場合 → 調整したい入力音レベルをクリックします

MPO	98	93	96	101	98	87
全て	310	850	1.5k	2.5k	3.6k	6.7k
G80	9	6	11	20	19	14
G65	13	11	17	26	24	20
G50	16	15	22	29	25	20
CR	1.3	1.4	1.6	1.6	1.5	1.6

特定のチャンネル、入力音の利得を調整する場合 → 複数項目の選択はマウスをドラッグします

MPO	98	93	96	101	98	87
全て	310	850	1.5k	2.5k	3.6k	6.7k
G80	9	6	11	20	19	14
G65	13	11	17	26	24	20
G50	16	15	22	29	25	20
CR	1.3	1.4	1.6	1.6	1.5	1.6

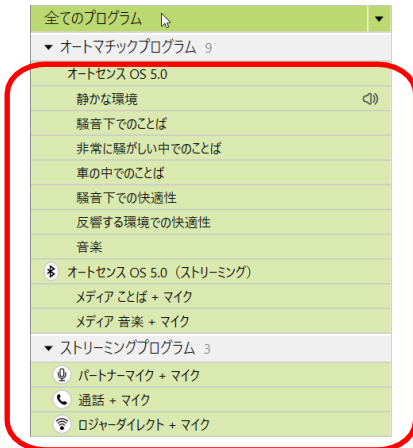
💡 ヒント：複数プログラムの調整

全てのプログラムをまとめて調整するときには、プログラム一覧の「全てのプログラム」をクリックします。

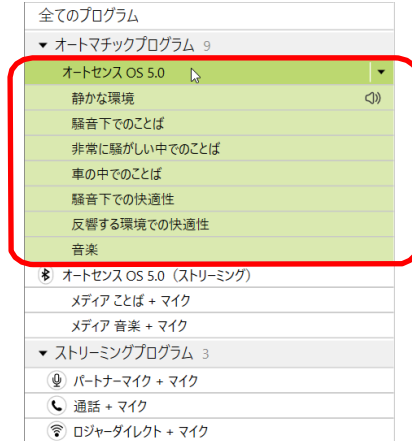
オートマッチックプログラムに内包するプログラムをまとめて調整するときにはオートマッチックプログラムをクリックします。

個別のプログラムを調整するときには、目的のプログラムをクリックします。

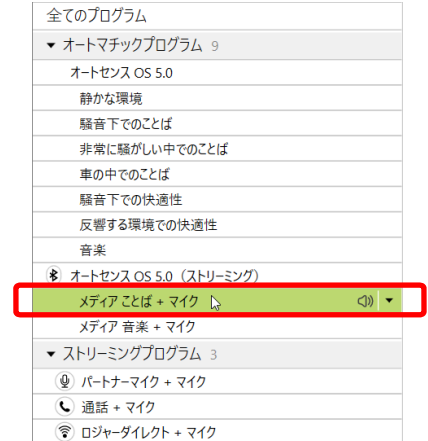
全てのプログラムが選択された状態



オートセンス OS だけが選択された状態



1つのプログラムだけが選択された状態

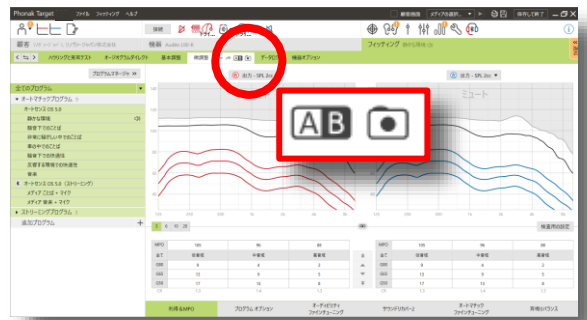


設定を比較

補聴器の微調整時に、調整前と調整後を簡単な手順で聞き比べることが可能です。

📌 ボタンで現在の状態のセッションを一時的に保存（キャプチャー）できます。複数保存することが可能なので、いくつかの調整パターンを比較したいときに便利です。一度セッションを終了させるとキャプチャーは全て消去されます。[AB] ボタンをクリックすると、比較画面に入ります。

左側のセッション一覧より、以前のセッション (A) を選びます。(A) の [作動させる] を押すと、調整内容が選択した以前のセッションに変わり補聴器から音声聞こえてきます。同様に (B) の [作動させる] を押すと、[AB] ボタンを押した直前の調整内容に戻ります。装用者の好みを選んでいただき、適用した状態で [選択] を押すと、補聴器の微調整内容がその内容に変更されます。



プログラムマネージャ

プログラムの追加や変更、削除はプログラムマネージャを使用します。スタートアッププログラムの設定や、プログラムの呼び出し順序もこの画面で設定できます。プログラムマネージャを呼び出すには微調整画面で

プログラムマネージャ » をクリックします。

● アクセス

アクセス欄にチェックを入れることで、プログラムを追加することができます。また、プログラムの呼び出し順序もこちらで設定します。初期設定はオートセンス→①→②…オートセンスの順に繰り返します。

● スタートアップ

補聴器の電源を入れたときに最初に呼び出されるプログラムを指定します。

● イージーアクセス

イージーフォンにチェックを入れると、磁石を近づけている間は通話用プログラムが作動します。磁石が離れると直前のプログラムへ戻ります。イージーロジャーにチェックが入っていると、ロジャー送信機の電波を検知すると自動的にロジャー用プログラムが作動します。

ロジャー送信機の電波を検知できなくなると直前のプログラムへ戻ります。

● プログラムの最後にミュートを加える

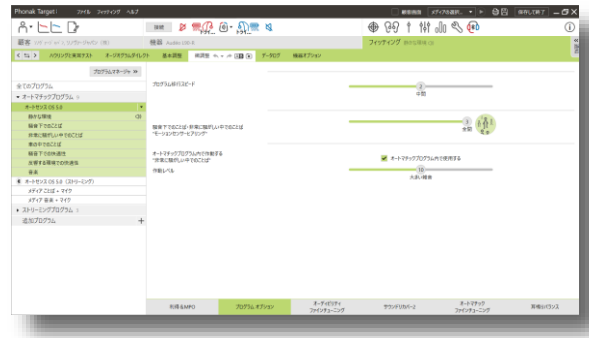
追加プログラム以外に、最後のプログラムにミュート（無音）を設定します。この項目のない補聴器は、機器オプションからミュートの設定が行えます。



プログラムオプション

オートマチックプログラムの設定や、プログラムごとの各種機能のオン/オフやパラメータを設定します。

※ 器種およびプログラムにより設定可能な範囲は異なります。



オートマチックプログラム

オートセンス OS設定

(オートセンス スカイ OS含む)

プログラム移行スピード	プログラムが変化する速さを設定します。環境の変化に対してよりスピーディな変化を好む場合、または聞こえの変化を煩わしく感じる場合にプログラムのブレンドの速さを0~4の間で設定可能です。(期設定は2) それぞれ変化にかかる時間は、0は35秒、1は25秒、2は20秒、3は15秒、4は10秒かけてプログラムが変化します。
モーションセンサーヒアリング	「騒音下でのことば」か「非常に騒がしい中でのことば」のプログラムが働いているときに、6歩以上歩くとモーションセンサーヒアリングが作動します。指向性の幅は0~3の間で設定可能で、初期設定では3です。それぞれ指向性の幅は、1でウルトラズーム(狭く)、2で固定型指向性、3でリアルイヤーサウンド(広く)と同等のものになります。 ※ パラダイス以降の充電タイプ補聴器かつ、50クラス以上で使用可能な機能です。
非常に騒がしい中での言葉作動レベル	オートセンス OS内で「非常に騒がしい中でのことば」を使用するかどうかを設定できます。また、使用する場合に「非常に騒がしい中でのことば」に切り替わる雑音の大きさを変更できます。雑音の大きさは0~20の間で設定可能で、初期設定では10です。それぞれプログラムが切り替わる雑音の大きさは、0は凡そ56dB、10は凡そ59dB、20は凡そ62dBです。

エブリデイオートマチック

雑音レベルが凡そ65dBに達すると、無指向性からウルトラズームへ変化します。

オートセンス OS (ストリーミング) 設定
 (オートセンス スカイ OS (ストリーミング)) 含む

ブルートゥース ストリーミング起動	オートマッチックのみです。手動切り替え等変更はできません。
“テレビコネクター”を有効にする	<p>オートマッチック テレビコネクターが検出されると、自動的に専用プログラムに切り替わります。</p> <p>マニュアル テレビコネクターが検出されると、専用プログラムが最後に追加されます。</p> <p>マニュアル (ビーブ音あり) テレビコネクターが検出されると、ビーブ音が提示され、専用プログラムが最後に追加されます。ビーブ音が提示されてから15秒以内に補聴器の多機能ボタンを短押しすると、専用プログラムに直接切り替わります。15秒経過してしまうと、専用プログラムになるまで一つ一つプログラムを切り替えていく必要があります。</p>
補聴器マイクロホン	専用プログラム使用中の補聴器マイクロホンが拾った音声を出力制限する機能です。-10dB~0dBの間で設定可能で、初期設定は-6dBです。“マイクロホンを有効にする”のチェックを外すとストリーミング音声のみ出力されるようになります。この設定は「メディア ことば + マイク」と「メディア 音楽 + マイク」で共通です。ミュートと組み合わせることで、マイクロホンの音声のオン/オフを任意で操作することができるようになります。

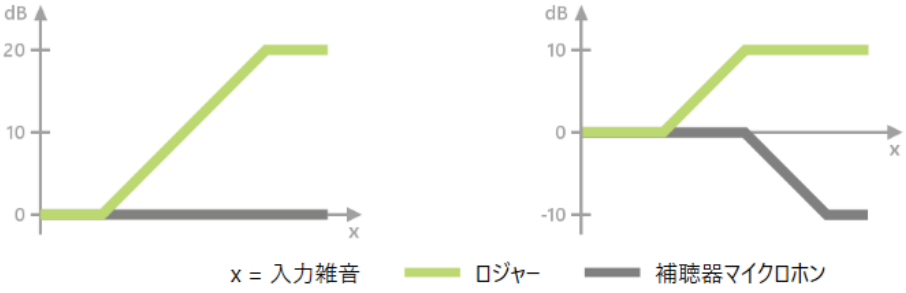
騒音/ハウリング抑制機能と快適機能

ダイナミックノイズキャンセル	パラダイスシリーズ以降の90クラス補聴器で、「騒音下での言葉」と「非常に騒がしい中でのことば」でのみ作動する騒音抑制機能です。側方や後方からの騒音を抑え、正面で話している人の声を自動的に聞き取りやすくします。0~20の間で設定可能です。抑制のかけ具合は入力されている音響カプラや聴力により変動します。 ※ モーションセンサーと同時に作動しません。
----------------	--

スピーチエンハンサー	<p>パラダイスシリーズ以降の90クラス補聴器で、「静かな環境」でのみ作動する騒音抑制機能で、入力レベルが30～50dBの音声が検出されます。また、装用経験レベルが90%以上の場合デフォルトでオンとなります。0～20の間で設定可能で、0から0.5dBずつ利得が増加し、20で最大10dB利得が増加します。</p>
ノイズブロック	<p>全てのプログラムで作動する騒音抑制機能です。各チャンネルごとに個別に動作し、SN比の低いチャンネルのみ利得の低減を行います。チャンネル数は最大20チャンネルで、動作するチャンネル数は補聴器のクラスにより異なります。0～20の間で設定可能で、抑制のかかり具合は入力されている音響カプラや聴力により変動しますが、最大減衰量は10dBで統一されています。</p>
ホイッスルブロック	<p>全てのプログラムで作動するハウリング抑制機能です。「ハウリングと実耳テスト」を行うと13に設定されます。0～20の間で設定可能で、初期設定は0です。なお、オーバーチューニングを行うと20で固定され変更できなくなります。抑制のかかり具合は入力されている音響カプラや聴力により変動します。この機能については本誌30ページでも紹介しています。</p>
エコーブロック	<p>「反響する環境での快適性」でのみ作動する騒音抑制機能です。先に集音した音声と、遅れて集音された音声の音声成分を比較して、2.4kHz以降の反響音だと認識した部分のみを減衰させます。0～20の間で設定可能で、初期設定は13です。抑制のかかり具合は入力されている音響カプラや聴力により変動します。</p>
ウインドブロック	<p>「反響する環境での快適性」以外のプログラムで作動する騒音抑制機能です。1.5kHz以前の周波数に効果があります。強い風雑音と弱い風雑音を区別することができ、強い風雑音では高周波数に、弱い風雑音では低周波数に対して反応します。0～20の間で設定可能です。抑制のかかり具合は入力されている音響カプラや聴力により変動します。</p>
サウンドリラックス	<p>70クラス以上の補聴器で、全てのプログラム作動する快適機能です。突然発生した大きな雑音が77dB以上になる場合に全帯域の利得を短時間減衰させます。0～20の間で設定可能です。抑制のかかり具合は入力されている音響カプラや聴力により変動しますが、最大減衰量は30dBで統一されています。</p>

ストリーミングプログラム設定

マーベルシリーズ以降

プログラムの有効化	<p>「パートナーマイク + マイク」と「ロジャーダイレクト + マイク」でできる調整は、「オートセンス OS (ストリーミング)」とほぼ同じです。詳しくは本誌38ページをご参照ください。「通話 + マイク」は最優先されるプログラムで、着信があった際必ず専用プログラムへ切り替わります。</p>
補聴器マイクロホン	<p>パートナーマイク + マイク -10dB~0dBの間で設定可能で、初期設定は-6dBです。“マイクロホンを有効にする”のチェックを外すとフォナック パートナーマイク音声のみ出力されるようになります。</p> <p>通話 + マイク -6dB~0dBの間で設定可能で、初期設定は-6dBです。マイクロホンを無効にすることはできません。また、マイクロホンをミュートにすることもできません。</p> <p>ロジャーダイレクト + マイク -10dB~0dBの間で設定可能で、初期設定は0dBです。“マイクロホンを有効にする”のチェックを外すとロジャー送信機の音声のみ出力されるようになります。</p>
アダプティブマイクロホンの作用	<p>「ロジャーダイレクト + マイク」でのみ作動する機能です。</p> <p>標準 騒音レベルが56dBから働き始め、騒音レベルが76dBになると、ロジャーの音声が最大20dB増加します。</p> <p>デュアル 騒音レベルが56dBから働き始め、騒音レベルが66dBになるとロジャーの音声が最大の10dB増加し、騒音レベルが67dB以上になると補聴器のマイクロホンが減衰され始め、騒音レベルが76dBになるとマイクロホンが最大の10dB減衰されます。</p>  <p>x = 入力雑音 緑線 = ロジャー 黒線 = 補聴器マイクロホン</p>

ビロングシリーズまで

(フォナック コムパイロットやフォナック コムパイロットⅡ等のアクセサリが必要です)

Bluetoothオーディオ + マイク	アクセサリを経由し、Bluetoothでオーディオの音声再生を行う際に使用するプログラムです。補聴器マイクロホンは-30dB~0dBの間で設定可能で、初期設定は-6dBです。“マイクロホンを有効にする”のチェックを外すとオーディオの音声のみ出力されるようになります。
Bluetooth電話 + マイク	アクセサリを経由し、ハンズフリー通話を行う際に使用するプログラムです。補聴器マイクロホンは-30dB~0dBの間で設定可能で、初期設定は-6dBです。“マイクロホンを有効にする”のチェックを外すと通話音声のみ出力されるようになります。
ロジャー / 外部マイクロホン + マイク	アクセサリを経由し、ロジャーシステム等の外部マイクロホンの音声再生を行う際に使用するプログラムです。補聴器マイクロホンは-30dB~0dBの間で設定可能で、初期設定は-6dBです。“マイクロホンを有効にする”のチェックを外すと外部マイクロホンの音声のみ出力されるようになります。
オーディオジャック+ マイク	アクセサリと音響機器をミニピンプラグ・オーディオ・ケーブルと接続して音声再生を行う際に使用するプログラムです。補聴器マイクロホンは-30dB~0dBの間で設定可能で、初期設定は-6dBです。“マイクロホンを有効にする”のチェックを外すと音響機器の音声のみ出力されるようになります。

両耳装用機能




全方向（360°）からのことば（ズームコントロール）プログラムの設定

自動設定（オートズームコントロール）

「全方向（360°）からのことば」の方向を補聴器が自動的に切り替える設定です。一度「全方向（360°）からのことば」に切り替えれば、あとは前後左右のうち一番SN比の高い方向に向けてプログラムが働きます。




手動設定

自動設定を使用しない（もしくは自動設定がない）場合、補聴器に「全方向（360°）からのことば」の方向をあらかじめ設定しておきます。前方/後方/左/右のうちいずれか一つを選択できます。一度「全方向（360°）からのことば」に切り替えれば、他のプログラムに変更するまで設定された方向に向けてプログラムが働きます。

プログラムオプション設定	ユーザーの操作と補聴器の動作
初期設定の方向 <input type="button" value="自動"/>  <input type="checkbox"/> ダイレクトタッチを有効にする	左右どちらでも可 （自動切り替え）
初期設定の方向 <input type="button" value="左"/>  <input type="checkbox"/> ダイレクトタッチを有効にする	左右どちらでも可 （方向はいずれか固定） 

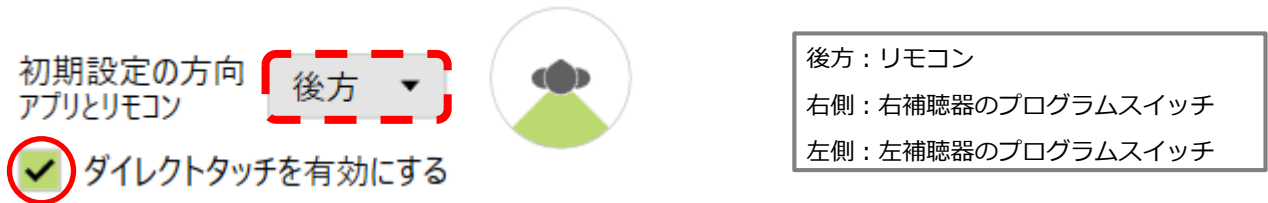
ダイレクトタッチを使用する

自動設定をしない（もしくは自動設定がない）場合に、ダイレクトタッチを活用することで「全方向（360°）からのことば」の方向をプログラムスイッチで操作することが可能です。一つ前のプログラムから「全方向（360°）からのことば」に切り替える際、右のボタンを押して切り替えると右側へ、左のボタンならば左側へフォーカスします。

プログラムオプションの設定	ユーザーの操作と補聴器の動作	
初期設定の方向 <input type="button" value="自動"/>  アプリとリモコン <input checked="" type="checkbox"/> ダイレクトタッチを有効にする	右補聴器のスイッチ 	左補聴器のスイッチ 

複数の方向を自由に切り替える

ダイレクトタッチでは、左右の選択は可能ですが後方への切り替えは別途リモコンが必要です。「全方向（360°）からのことば」のプログラムオプションを下記設定にすれば、リモコン（フォナックパイロットフォンⅡやフォナックリモートコントロール）を使用して「全方向（360°）からのことば」の方向を後方、左および右に切り替えることができます。



この場合、他のプログラム（オートマチックプログラム）から「全方向（360°）からのことば」に切り替える方法によって、ズームコントロールの方向がそれぞれ変化します。

（前方へフォーカスするには、他のプログラム（オートマチックプログラム）に切り替えます。）

デュオフォンの設定

デュオフォンを使用するには、「電話（マイク利用）」もしくは「電話用Tコイル±マイク」をプログラムに追加します。イージーフォンに設定すれば、受話器に貼り付けた磁石を感知して自動的に呼び出すことができます。リモコン、もしくはプログラムスイッチで切り替える場合は、以下のいずれかの設定が必要です。



デュオフォンを使用する側を固定する

デュオフォン使用時に受話器をあてる側をあらかじめ設定しておきます。電話プログラムに切り替える際、左右どちらかのボタンを押しても受話器を充てる側は変わりません。

プログラムオプションの設定	ユーザーの操作と補聴器の動作
<p><input checked="" type="checkbox"/> デュオフォンを有効にする</p> <p>電話でよく使う耳 <input type="text" value="右"/></p> <p><input type="checkbox"/> ダイレクトタッチを有効にする</p>	<p>左右どちらでも可 (方向はいずれか固定)</p>

ダイレクトタッチを使用する

デュオフォン使用時に受話器を充てる側をプログラムスイッチで操作可能です。電話プログラムに切り替える際、右のボタンを押すと右耳に受話器、左なら左耳に受話器をあてて使用します。左右の選択が1プッシュで可能です。（「電話でよく使う側の耳」の設定はリモコンでプログラムを切り替えた場合に有効です）

プログラムオプションの設定	ユーザーの操作と補聴器の動作	
<p>✓ デュオフォンを有効にする</p> <p>電話でよく使う耳 アプリとリモコン 右 ▼</p> <p>✓ ダイレクトタッチを有効にする</p>	右補聴器のスイッチ 	左補聴器のスイッチ 

クイックシンク

片方のボリューム操作やプログラム切り替えで左右の補聴器を同時に調整する機能です。クイックシンクの詳しい設定方法は、本誌51ページをご参照ください。

オーディビリティ・ファインチューニング

この機能では様々なサウンドデモを提示して、適切な増幅がなされているか確認しながらフィッティングを進めることができます。Phonak Target Soundsがインストールされていない場合、サウンドデモを提示することができません。この機能ではスピーカーからの音声を使用するため、予めスピーカーの音声校正を行う必要があります。音声校正の詳細は本誌92ページをご参照ください。



サウンドリカバー2/サウンドリカバー

仮計算で設定されたサウンドリカバーの強弱およびオン/オフを設定します。両耳フィッティングの場合、良聴耳のカットオフ周波数および周波数圧縮比に基づいて計算されます。サウンドリカバーのオン/オフはプログラムごとに設定できますが、オートマチックプログラム内では共有の設定となります。

サウンドリカバー2

サウンドリカバー2はナイーダ V・スカイ Vおよびビロングシリーズ以降のほぼ全ての器種に搭載されている機能です。

初期設定

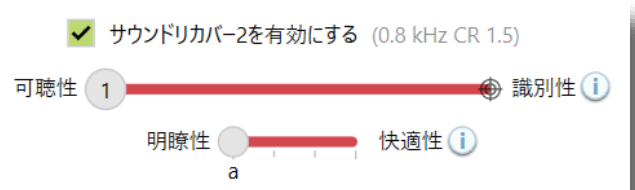
サウンドリカバー2の初期設定は以下のようになっております。

- 8kHzが45dB HL以下で、水平型または漸傾型の聴カタイプの場合、サウンドリカバー2は初期設定でオンになります。
- 8kHzの聴力が3kHzよりも30dB以上良い場合、サウンドリカバー2は初期設定でオフになります。

※ サウンドリカバー2が不要な場合、「フィッティング」>「微調整」>「サウンドリカバー2」の順に進み、「サウンドリカバー2を有効にする」のチェックを外すことでオフにできます。

可聴性と識別性スライダ（上段）

可聴性は、高音域の音をより良い聞こえの低音域エリアに移行して聞こえやすくします。識別性はS（スツ）やSH（シュツ）などの高音域の音ができるだけ原音に近い形で聞こえるよう、高音域エリアに移行して識別しやすくします。



明瞭性と快適性スライダ（下段）

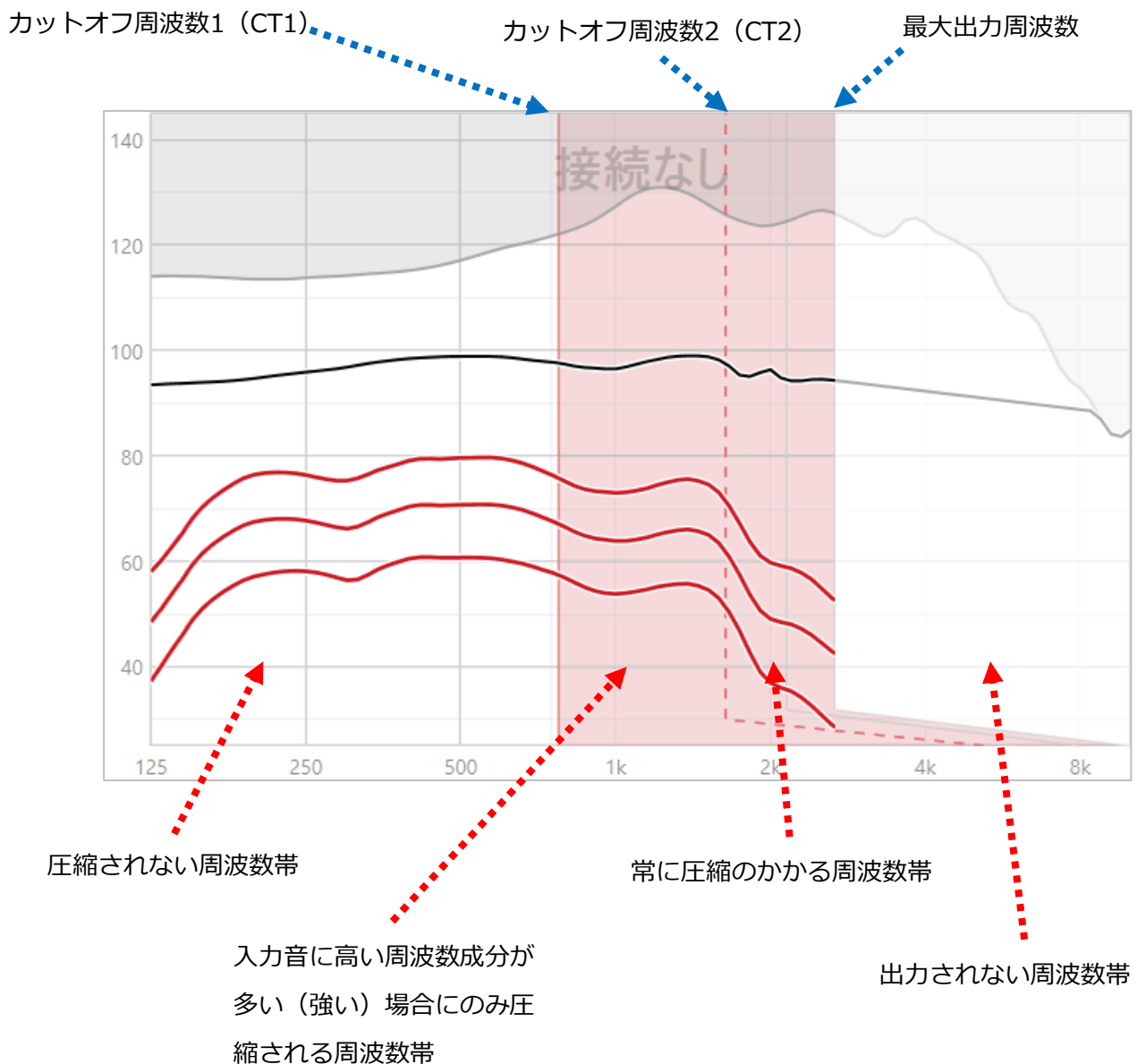
高音域の聞こえに違和感がある、聞き取りづらい等の場合は明瞭性側にスライダを操作します。男性の声、自分の声、または音楽をより自然に聞こえるようにしたい場合はスライダを快適性側に操作します。

上段のスライダを操作するたびに、下段のスライダは最適な明瞭性を保つため自動的に明瞭性側へ移動します。

カットオフ周波数

サウンドリカバー2の設定は、可聴性と識別性、明瞭性と快適性の2つのスライダで行います。この2つのカットオフ周波数（CT1・CT2）と圧縮比は上記の条件に基づき自動で決定されます。左の実線がカットオフ周波数1（CT1）、真ん中の点線がカットオフ周波数2（CT2）、右側の実線が最大出力周波数を表します。

サウンドリカバー2調整画面の説明



サウンドリカバー

周波数圧縮の強さは、語音明瞭度、可聴性、音質のバランスを向上させるよう、自由に強弱が可能です。

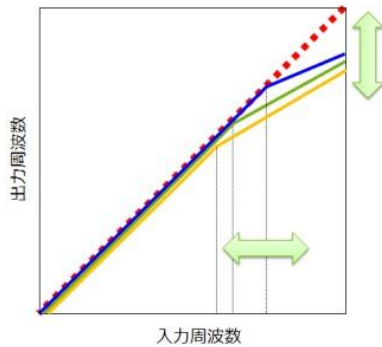
拡張ツールの補正を表示 をクリックして、サウンドリカバーの拡張ツールを使用すれば、カットオフ周波数や圧縮比を個別に調整することもできます。

基本版の調整



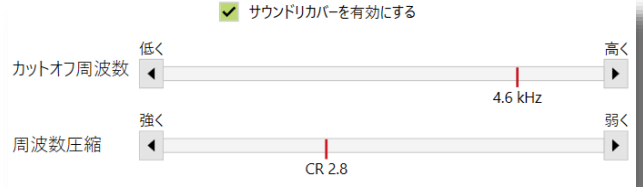
作用の強弱のみで調整します。

作用の強弱を変化させた場合



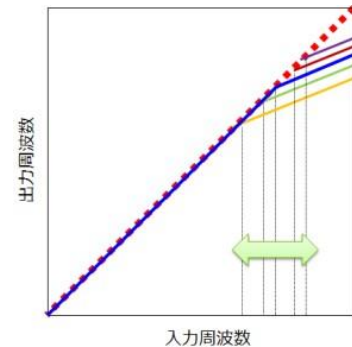
カットオフ周波数と圧縮比がともに変化します。

拡張ツール



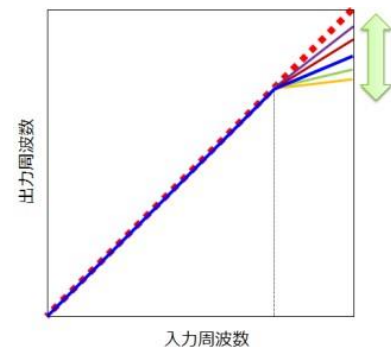
カットオフ周波数と周波数圧縮を個別に調整します。

カットオフ周波数のみを変化させた場合



カットオフ周波数が変化しますが、カットオフ周波数より高い周波数の圧縮比は変化しません。

圧縮比のみを変化させた場合



カットオフ周波数より高い周波数の圧縮比のみが変化します。スライダを左に操作すると明瞭度の改善、右へ操作すると可聴性と音質の改善が期待されます。

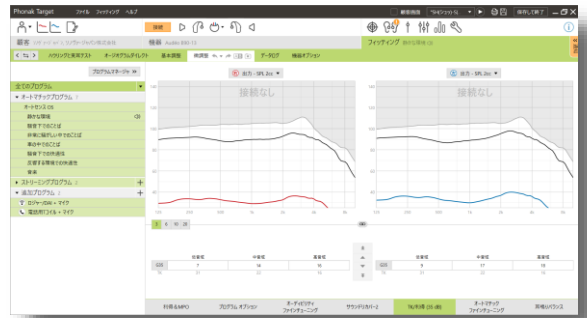
TK/利得(35dB)/ソフトノイズリダクション

非常に小さな入力音に対する調整を行います。

TK/利得 (35dB)

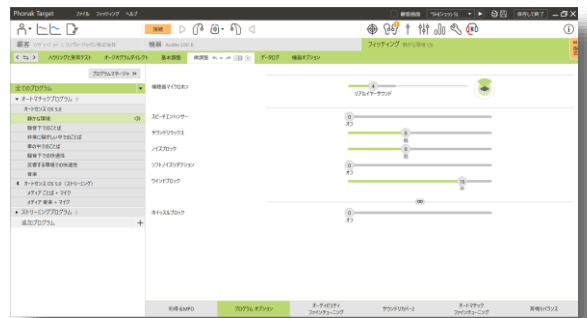
数値が小さくなるほどエクパンションのニーポイントが (TK) が高くなり、より小さな音が入りにくくなります。

※ クエストシリーズ以前の器種は純音20dBを基準とします。



ソフトノイズリダクション

パラダイスシリーズから「TK/利得 (35dB) 」は「ソフトノイズリダクション」となり、「プログラム オプション」にまとめられました。全帯域の30dB～35dB入力の雑音が抑制されます。調整をするには「フィッティング」>「微調整」>「プログラム オプション」の順に進みます。「ソフトノイズリダクション」はプログラムごとに調整可能です。0～20の間で設定可能で、初期設定は0です。抑制のかかり具合は入力されている音響カプラや聴力により変動します。



オートマッチック・ファインチューニング

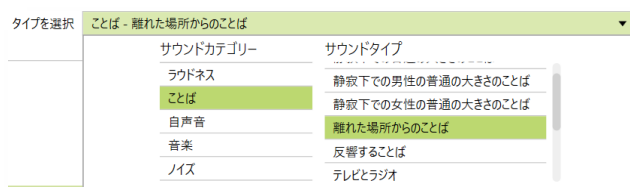
この機能はユーザーの訴えや希望に沿うように、様々なシチュエーションと問題点を選択してフィッティングを進めることができます。

- ① 調整をしたいプログラムを左側のプログラム一覧から選択します。

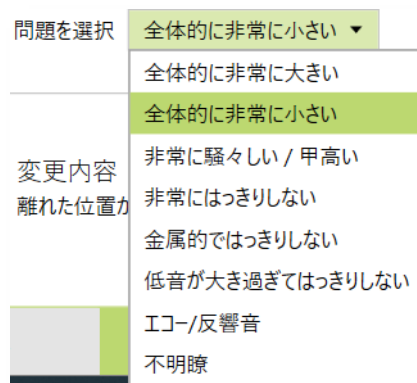


② 「タイプを選択」から改善したい音の種類を選びます。Phonak Target Soundsがインストールされている場合、必要に応じてデモ音源を再生させることが可能です。

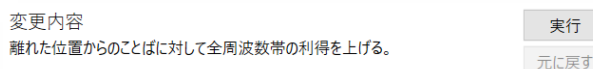
※ 一部音源は再生することができません。



③ 「問題を選択」から改善したい内容を選びます。



④ 下段に変更内容が表示されるので、**実行** をクリックすると内容に沿って自動的に利得調整が行われます。**元に戻す** をクリックすると一つ前の状態に戻ります。



音素認識テスト


Phonak Targetと音素認識テスト (Phoneme Perception Test) をNOAHシステム上でご使用の場合、音素認識テストの結果をPhonak Targetで確認したり、次のフィッティングのヒントを得たりすることができます。また、1クリックで現在のフィッティングに反映させることも可能です。



データログ


補聴器に記憶されているデータログを閲覧できます。データログとは、補聴器の使用状況や作動状況、ユーザーの操作履歴などを記憶する機能です。これらの記録を基に、フィッティングをさらに正確に行うことができます。

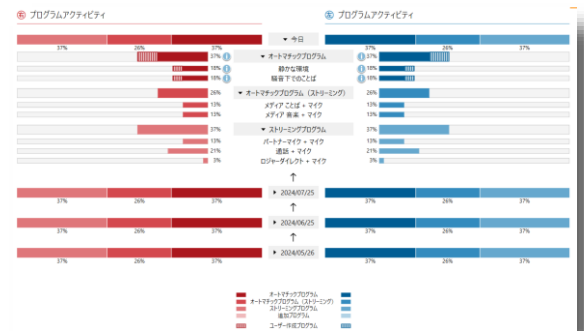
一覧

総使用日数・使用時間などの概要を知ることができます。左右で装用時間に差がある場合や、前回と比べ装用時間が減っている場合は  マークで通知されます。



プログラムアクティビティ

使用したプログラムの割合や、オートセンス OSの環境認識の内容を知ることができます。  マークにマウスカーソルを合わせると、該当プログラムへのアクセス方法の割合を確認することができます。「オートマチック」はオートセンス OSで使用された割合、「このプログラムを基にしたユーザー作成プログラム」はマイフONAック アプリで作成したプログラムを使用した割合を表します。過去5回分まで履歴の確認が可能です。



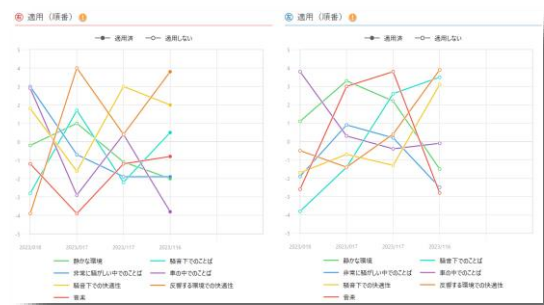
プログラムアクセス

このプログラムは次の方法でアクセスしました:

- ・オートマチック: 10.4%
- ・このプログラムを基にしたユーザー作成プログラム: 4.2%

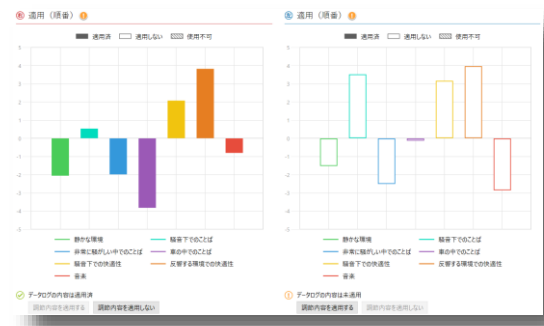
履歴

各プログラムのボリューム操作の推移を見ることができます。操作回数が多いほどグラフが上下に振れます。ログデータが適用された日付は点が塗りつぶされます。



ログデータの適用

ユーザーが行ったボリューム操作を基に利得の増減を適用させることが可能です。適用している場合グラフが塗りつぶされます。適用すると微調整内容が変更されます。



機器オプション（補聴器）

プログラムスイッチ（ビロングシリーズまで）

プログラムスイッチの各種設定を行います。クイックシンク（両耳間通信）のオン/オフもこの項目で行います。クイックシンクをオフにしたい場合はチェックを外してください。補聴器にボリュームコントロールがなく、プログラムスイッチだけがある場合は、プログラムスイッチをボリュームコントロールに割り当てることが可能です（一部器種を除く）。

両耳間通信機能付き補聴器を片耳装用の場合/両耳間通信機能なし補聴器の場合

	機能割り当て	スイッチ押下時の動作
短押し	機能なし	動作しない
	プログラム変更	補聴器のプログラム変更
	音量を上げる*1	音量アップ（上限に達すると元に戻る）
	音量を下げる*1	音量ダウン（下限に達すると元に戻る）
長押し*2	スタートアッププログラム	スタートアッププログラムに戻ります
	選択したプログラム	任意で設定したプログラムを呼び出します
	マイクロホン減衰	「ボリュームの作用」で設定した分マイクロホンの感度を減衰します
	ボリュームコントロール（前方）	音量アップ
	ボリュームコントロール（後方）	音量ダウン

両耳間通信機能付き補聴器を両耳装用の場合

	機能割り当て	右スイッチ押下時の動作	左スイッチ押下時の動作
短押し	機能なし	動作しない	
	プログラムを変更する （クイックシンク利用の場合は左右同期）	右補聴器のプログラム変更	左補聴器のプログラム変更
	ボリューム	両耳音量アップ	両耳音量ダウン
	プログラム変更とボリューム調整*1 （音量上げる/プログラム変更）	両耳音量アップ （上限に達すると元に戻る）	両耳プログラム変更
	プログラム変更とボリューム調整*1 （プログラム変更/音量下げる）	両耳プログラム変更	両耳音量ダウン （上限に達すると元に戻る）
長押し*2	スタートアッププログラム	スタートアッププログラムに戻ります	
	選択したプログラム	任意で設定したプログラムを呼び出します	
	マイクロホン減衰	「ボリュームの作用」で設定した分マイクロホンの感度を減衰します	
	ボリュームコントロール（前方）	音量アップ	
	ボリュームコントロール（後方）	音量ダウン	

*1 スパイスシリーズを除くボリュームコントロールのない補聴器のみ

*2 「長押し」は充電式を除くベンチャーシリーズ以降の補聴器のみ

多機能ボタン（マーベルシリーズ以降）

プログラムスイッチの各種設定を行います。クイックシンク（両耳間通信）のオン/オフもこの項目で行います（一部器種を除く）。クイックシンクがオンの場合、左右の補聴器の動作が全て同じになります。クイックシンクがオフの場合、左右のボリューム操作のみ独立します。クイックシンクをオフにしたい場合はチェックを外してください。以下の表は耳かけ型補聴器の「ボタンの機能」全てにチェックの入った状態での動作です。「ミュート/ミュート解除」はデフォルトではオフとなっております。

ボタンの機能

- ✓ ボリューム
- ✓ プログラム変更
- ✓ 通話開始/通話終了
- ✓ ミュート/ミュート解除

両耳装用と片耳装用共通

	スイッチ押下時の動作		
	標準プログラム	ストリーミングプログラム	通話プログラム
短押し（上）	音量アップ	ストリーミングの音量アップ マイクロホンの音量ダウン	通話開始（呼び出し中） 通話の音量アップ マイクロホンの音量ダウン
短押し（下）	音量ダウン	ストリーミングの音量ダウン マイクロホンの音量アップ	通話開始（呼び出し中） 通話の音量ダウン マイクロホンの音量アップ
長押し（上）約2秒	プログラム変更	プログラム変更	通話拒否（呼び出し中） 通話終了（通話中）
長押し（下）約2秒*2	ミュート/ミュート解除	ミュート/ミュート解除*1	

*1 ストリーミングプログラム使用中ミュートにすると、マイクロホンの音声のみミュートになりストリーミング音声のみ出力されます

*2 そのまま約3秒間押し続けると補聴器の電源が切れます（充電タイプのみ）


タップコントロール

補聴器のタップ操作の設定ができます。また、各機能を左右どちらの補聴器で行うかも設定できます。操作は全てダブルタップ（2回続けて「トントン」と叩く）で行います。

※ パラダイスシリーズ以降、70、90クラスの充電タイプ補聴器のみ設定可能です。

通話開始/通話終了	着信中なら通話開始、通話中なら通話の終了ができます。
ストリーミング停止/再生	音声再生アプリケーション等を使用中、その音声の停止や再生が行えます。
ボイスアシスタント開始/停止	スマートフォンの音声アシスタント機能（例：Siri）の開始と停止ができます。

タップコントロールの練習と感度設定…

ダブルタップの練習と感度設定ができます。この画面は顧客画面表示させることが可能です。感度の設定は3段階で選択可能です。 ボタンで左右別々の感度設定にすることも可能です。



耳あな型補聴器

ボリュームコントロール付きの補聴器の動作は以下のとおりです。ボリュームコントロール機能のオン/オフもこちらから行えます。ボリュームコントロールをオフにすると、補聴器操作でボリュームの上げ下げができなくなります。以下の表はボリュームコントロール付き耳あな型補聴器の「ボタンの機能」と「ダイヤル機能」全てにチェックの入った状態での動作です。「ミュート/ミュート解除」はデフォルトではオフとなっております。ボリュームコントロール付きの補聴器は両耳装用時と片耳装用時の動作が同じです。

ボタンの機能	ダイヤル機能
<input checked="" type="checkbox"/> プログラム変更	<input checked="" type="checkbox"/> ボリューム
<input checked="" type="checkbox"/> 通話開始/通話終了	
<input checked="" type="checkbox"/> ミュート/ミュート解除 (通話中以外)	

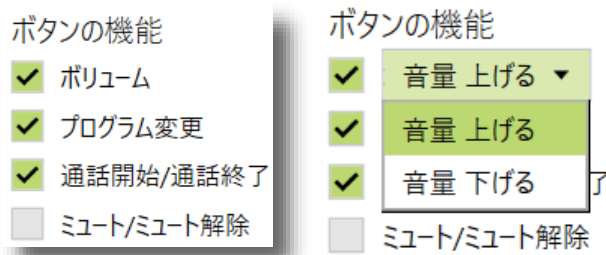
ボリュームコントロール付き耳あな型補聴器の場合 (両耳装用/片耳装用共通)

	スイッチ押下時の動作		
	標準プログラム	ストリーミングプログラム	通話プログラム
ダイヤル操作 (前方)	音量アップ	ストリーミングの音量アップ マイクロホンの音量ダウン	通話開始 (呼び出し中) 通話の音量アップ マイクロホンの音量ダウン
ダイヤル操作 (後方)	音量ダウン	ストリーミングの音量ダウン マイクロホンの音量アップ	通話開始 (呼び出し中) 通話の音量ダウン マイクロホンの音量アップ
短押し	プログラム変更	プログラム変更	通話拒否 (呼び出し中) 通話終了 (通話中)
長押し (約2秒)	ミュート/ミュート解除	ミュート/ミュート解除*	

* ストリーミングプログラム使用中ミュートにすると、マイクロホンの音声のみミュートになりストリーミング音声のみ出力されます。

ボリュームコントロール無しの補聴器は、「ボリューム」と「ミュート/ミュート解除」を両立させることができません。さらに片耳装用の場合は、ボリュームを上げるか下げるかどちらか一方を選ぶ必要がございます。フォナック スリムの補聴器も同じ動作となります。

以下の表は両耳および片耳装用時における「ボリューム」にチェックを入れた場合と「音量 上げる/音量 下げる」、「ミュート/ミュート解除」にチェックを入れた場合それぞれの状態での動作です。



ボリュームコントロール無し耳あな型補聴器とフォナック スリム補聴器の「ボリューム」にチェックが入っている場合（両耳装用時）

	スイッチ押下時の動作		
	標準プログラム	ストリーミングプログラム	通話プログラム
短押し（右）	音量アップ	ストリーミングの音量アップ マイクロホンの音量ダウン	通話開始（呼び出し中） 通話の音量アップ マイクロホンの音量ダウン
短押し（左）	音量ダウン	ストリーミングの音量ダウン マイクロホンの音量アップ	通話開始（呼び出し中） 通話の音量ダウン マイクロホンの音量アップ
長押し（約2秒）	プログラム変更	プログラム変更	通話拒否（呼び出し中） 通話終了（通話中）

ボリュームコントロール無し耳あな型補聴器とフォナック スリム補聴器の「音量 上げる/音量下げる」にチェックが入っている場合（片耳装用時）

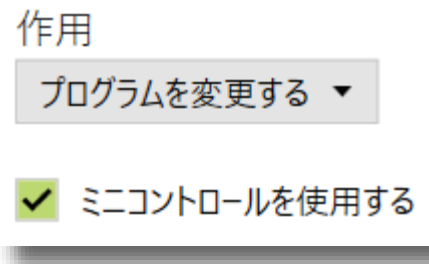
	スイッチ押下時の動作		
	標準プログラム	ストリーミングプログラム	通話プログラム
短押し（音量 上げる）	音量アップ （上限に達すると元に戻る）	ストリーミングの音量アップ マイクロホンの音量ダウン （上限に達すると元に戻る）	通話開始（呼び出し中） 通話の音量アップ マイクロホンの音量ダウン （上限に達すると元に戻る）
短押し（音量 下げる）	音量ダウン （下限に達すると元に戻る）	ストリーミングの音量ダウン マイクロホンの音量アップ （下限に達すると元に戻る）	通話開始（呼び出し中） 通話の音量ダウン マイクロホンの音量アップ （下限に達すると元に戻る）
長押し（約2秒）	プログラム変更	プログラム変更	通話拒否（呼び出し中） 通話終了（通話中）

ボリュームコントロール無し耳あな型補聴器とフォナック スリム補聴器の「ミュート/ミュート解除」にチェックが入っている場合（両耳装用/片耳装用共通）

	スイッチ押下時の動作		
	標準プログラム	ストリーミングプログラム	通話プログラム
短押し（左右共通）	プログラム変更	プログラム変更	通話開始（呼び出し中） 通話終了（通話中）
長押し（約2秒）	ミュート/ミュート解除	ミュート/ミュート解除*	通話拒否（呼び出し中）

* ストリーミングプログラム使用中ミュートにすると、マイクロホンの音声のみミュートになりストリーミング音声のみ出力されます

ミニコントロール仕様の場合、「フィッティング」>「機器オプション」>「プログラムスイッチ」の順に進み、「ミニコントロールを使用する」にチェックを入れ、「プログラムを変更する」、「音量 上げる」、「音量 下げる」の中から1つ機能を選んでご使用ください。



Bluetooth

Bluetoothの各種設定が行えます。

BLUETOOTH名称	他の危機に表示させるBluetoothの名称を変更できます。 ※ 個人情報の取扱いにご注意ください。
BLUETOOTH受信側	ペアリング時に軸になる側を設定できます。軸になっている側の補聴器の電源がオフだとBluetooth接続ができなくなります。通話中は軸になっている側の補聴器マイクロホンが通話音声を收音します。
BLUETOOTH（通話）	通話中のBluetooth周波数の変更ができます。適応型が音質重視、固定型が安定性重視となります。通話時に異常がみられる場合、使っていない方へ変更していただくことで改善される場合がございます。
ペアリングを削除	補聴器内に登録されているBluetoothデータの削除が行えます。返却されたトライアル器やマイフォナック アプリ等のBluetooth機器と接続ができなくなった場合にご使用ください。

ボリュームコントロール

ボリュームコントロールのオン/オフを設定できます。（ボリュームコントロール搭載器種のみ）クイックシンク（両耳間通信）のオン/オフもこの項目で行います。

ボリュームの作用

ボリュームコントロールの動作設定を行います。

ボリュームコントロールの種類

- ボリューム：通常のボリューム
- フレックスボリューム：オーディオグラムを基に増幅量が変化
- フレックスコントロール：フレックスボリュームに加え、雑音抑制機能も変化

予備利得の調整

- 音量 上げる：0dB、6dB（3ステップ）、10dB（5ステップ）から選べます。
 - 音量 下げる：0dB、6dB（3ステップ）、10dB（5ステップ）、20dB（10ステップ）から選べます。
- ※ 1ステップ2dBです。
- ※ マーベルシリーズ以降は10dB（5ステップ）固定です。

マイクロホン減衰

マイクロホンの減衰量が変更できます。ミュートとは異なり、ここで設定した値分利得を下げます。一時的に音量を小さくしたい時等にご使用ください。

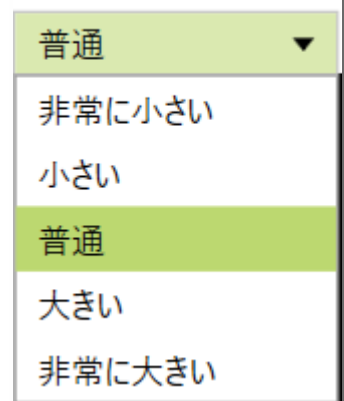
お知らせ音と警告音

お知らせ音（ビープ音）に関する各種設定を行います。

- 音量：5段階で音の大きさが選べます。
 - 音の高さ：3段階で音の高さが選べます。
 - 有効：お知らせ音のオン/オフの設定ができます。
（グレーアウトしているお知らせ音は消せません）
 - デモ：お知らせ音のデモンストレーションができます。
- ※ スタートアップメロディーの音量変更やデモンストレーションは行えません。

 ボタンで左右別々で音量等の設定が行えます。

音量



音の高さ



お知らせ音（ビープ音）一覧

一般的なアラート

- 低電圧 補聴器の残り電池残量が少なくなった時のお知らせ音。
- CROS 低電圧 CROS補聴器の残り電池残量が少なくなった時のお知らせ音。
- ペアリングに成功 Bluetoothやアクセサリ類とのペアリングが成功した時のお知らせ音。
- ストリーミングプログラム有効 各種ストリーミングプログラムへの変更方法を「マニュアル（ビープ音あり）」に設定しているとき、ストリーミングプログラムへ変更可能になった時のお知らせ音。
- トライアル期間の終了 補聴器のトライアル期間が近づいている（終了した）時のお知らせ音。
※ トライアル器専用のお知らせ音です。

ボリューム変更

- ボリューム可変範囲の上限下限 すでに音量が上限の状態ですらに音量を上げようとしたとき、またはすでに音量が下限の状態ですらに下げようとした時のお知らせ音。
- ボリュームの中間 ボリュームが中間（±0dB）になった時のお知らせ音。
- ボリュームのセットアップ ボリュームが1ステップ上下した時のお知らせ音。
※ ボリュームコントロール操作でこのお知らせ音は鳴りません。

プログラム変更

- A 「オートセンス OS」プログラムへ変更した時のお知らせ音。
- 1~5 各追加プログラムへ変更した時のお知らせ音。
- ストリーミングプログラム 各種ストリーミングプログラムへの変更方法を「マニュアル」に設定しているとき、ストリーミングプログラムへ変更した時のお知らせ音。

イージーアクセス

イージーアクセス機能でプログラムが変更された時のお知らせ音。
※ イージーアクセスは全て同じお知らせ音です。

電話の呼び出し音

- 着信音1~3 Bluetoothペアリングをした電話の着信音。
※ 数字はペアリングをした順番を表します。

接続のお知らせ音

- 未接続 補聴器およびCROS補聴器の両耳間通信が外れた時のお知らせ音。
- 再接続済み 補聴器およびCROS補聴器が両耳間通信可能になった時のお知らせ音。

スタートアップ

補聴器の電源を入れ、スタートアップメロディが鳴ってから補聴器マイクロホンやプログラムスイッチが作動するまでの時間を、「遅延なし」、「6秒 追加遅延」、「12秒 追加遅延」の3つから選択できます。追加遅延を設定している場合、補聴器の動作開始とともにスタートアッププログラムのお知らせ音が鳴ります。

※ 遅延なしの場合お知らせ音は鳴りません。

スタートアップメロディのオン/オフはこの項目で行います。

マーベルシリーズ以降の充電タイプ補聴器の自動電源オン機能も、こちらからオン/オフ設定が行えます。

機器オプション (アクセサリ)

PC上で登録が必要なアクセサリの場合、設定変更が行えます。

フォナックパイロットワン/ パイロットワン II	ホームボタン長押し時の設定変更が可能です。
フォナックコムパイロット/ コムパイロット II/ コムパイロットエア II	ストリーミングとリモコン機能設定、通知音およびびボイスアラームの設定、リダイヤル機能、音声ダイヤル機能の設定が可能です。

フィッティングセッションの終了

フィッティングを終了するには、画面右上の **保存して終了** をクリックします。

補聴器とデータベースにチェックを入れ **保存** をクリックします。変更内容を保存したくない場合、全てのチェックを外すと **保存** から **セッションを閉じる** ボタンへ変化しますので、**セッションを閉じる** をクリックして終了してください。保存に成功するまで補聴器の電源を切ったり、その場を離れないようご注意ください。トライアル補聴器の場合、こちらからトライアル期間の変更が行えます。期間は1~4週間と6、8、10、12週間の8パターンから選べます。トライアル補聴器は、電源のオン/オフを2回行うと1日と換算されます。



検査用の設定

Phonak Targetには補聴器の装用状態での周波数特性測定を行うための「検査用の設定」をご用意しています。この機能は、「フィッティング」タブ内の「微調整」画面にある「利得とMPO」の画面からアクセスできます。

※ 検査用の設定使用中は、補聴器をインターフェースと接続したまま作業を行います。

1. 「微調整」>「利得とMPO」内の **検査用の設定** をクリックします。



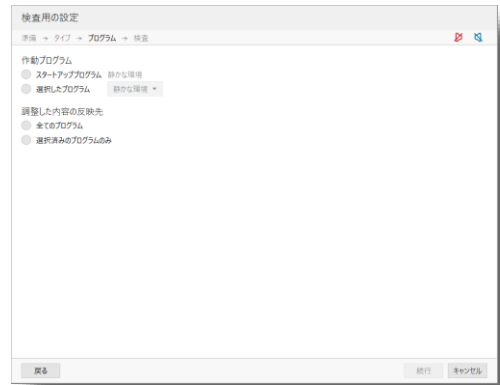
2. 補聴器の音響パラメータを確認します。検査用の設定でもフィッティング時と同じ値を採用します。次の画面に進むには **続行** をクリックします。
 ※検査用の設定で得られた結果に表の数字を加えることで、RECDの結果として使用可能です。



3. 測定タイプを選択します。「検査箱での検査」または「REM検査（実耳測定）」を選択します。次の画面に進むには **続行** をクリックします。



4. 「作動プログラム」は、測定時に使用する補聴器のプログラムをスタートアップか、それ以外のプログラムから選択します。測定するプログラムに指示がない場合は「スタートアッププログラム」をお選びください。「調整した内容の反映先」は、測定中に行った補聴器の調整が、測定中のプログラムにのみ反映されるか、他の全てのプログラムにも反映されるか選択します。調整を行わない場合は「全てのプログラム」をお選びください。次の画面に進むには **続行** をクリックします。



5. 測定画面が表示されます。補聴器はこの時点で、サウンドリカバーを含む全ての付加機能がオフになっています。

測定画面の説明

① マイクロホンのミュートオン/オフを切り替えます

② 画面表示方法を「利得 - 2cc」と「出力 - SPL 2cc」から選べます。

③ チャンネル数を変更します

④ 利得の調整が行えます

MPO	112	110	88	MPO	112	110	88
全て	低音域	中音域	高音域	全て	低音域	中音域	高音域
大きい	27	24	13	大きい	27	24	13
普通	35	30	20	普通	35	30	20
小さい	41	34	22	小さい	41	34	22

⑤ 「利得&MPO」を選ぶとサウンドリカバーオフ、サウンドリカバーを選ぶとサウンドリカバーオン状態で特性を測れます

⑥ 調整内容を反映させて終了する場合は **OK** を、調整内容を反映させずに終了する場合は **キャンセル** をクリックします

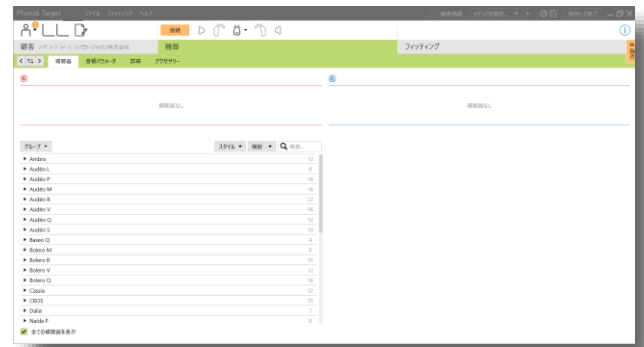
フォナック コムパイロットをジェネリック状態に設定する

フォナック コムパイロット（コムパイロット・コムパイロット II・コムパイロット エア II）がどの補聴器ともグルーピングされていない状態を「ジェネリック状態」と呼びます。ワイヤレス機能を持つビロングシリーズまでのフォナック補聴器であれば、ジェネリック状態の対応するコムパイロットを身に着けるだけで音声ストリーミングを行うことができます。

コムパイロットをジェネリック状態で使用する場合は、Phonak Target上でコムパイロットの設定を行います。

1. Phonak Targetを起動します。
2. 新規顧客を作成（または既存顧客を選択）し、**新しいセッション** を開始します。この時、オーディオグラムの入力や補聴器の接続は不要です。
3. ジェネリック状態にしたいアクセサリと互換性のある補聴器を、「機器」>「補聴器」の順にタブを開き選択します。

※ コムパイロットと互換性のある補聴器はスパイク/クエストシリーズ、コムパイロット IIおよびコムパイロット エア IIと互換性のある補聴器はベンチャー/ビロングシリーズで、いずれもワイヤレス通信可能な補聴器です。

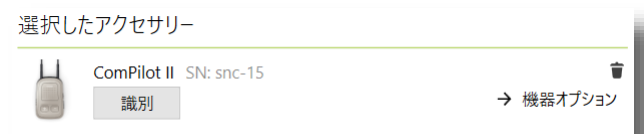


4. PCにコムパイロットをUSBケーブルで接続すると、ダッシュボードに「アクセサリ」アイコンが自動的に出現するので、これをクリックします。

※ アイコンが出現しない場合ケーブルが間違っている可能性がございます。「USB-ミニUSBケーブル」をご使用ください。



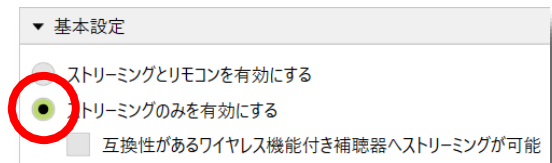
5. 「選択したアクセサリ」に手順4で接続したアクセサリが表示されるので、「→機器オプション」をクリックします。**識別** をクリックすると、アクセサリが正しく接続できているか確認することができます。



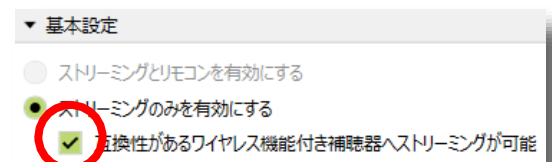
6. 「機器オプション」画面が表示されるので、コムパイロットの「基本設定」にある下記の項目を次のとおり変更してください。



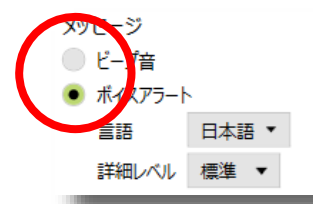
- 「ストリーミングのみを有効にする」にチェックを付け替えます。



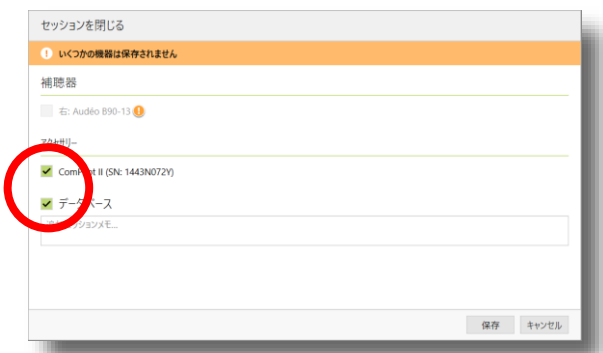
- 「互換性が…が可能」にチェックを入れます。



- 必要に応じてメッセージの設定を行ってください。ビープ音にすると、各種お知らせを音声ではなくビープ音に変更できます。



7. 設定が完了したら「保存して終了」をクリックし、「アクセサリ」と「データベース」にチェックが入っていることを確認し、「保存」をクリックします。補聴器にチェックを入れることができませんが無視してかまいません。



※ 保存が終わるまでUSBケーブルをPCとコムパイロットから抜かないでください。

◇ ジェネリック状態のとき、コムパイロットの音量調節ボタンはストリーミング音量の調整として利用可能です（補聴器のボリューム変更はできません）。

5. ジュニアモードについて

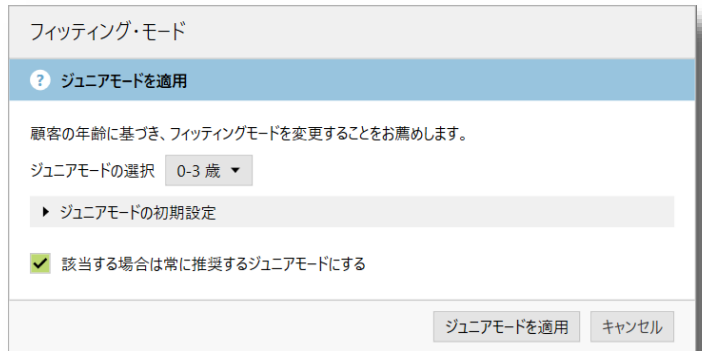
ジュニアモードによって小児フィッティングを適切かつ効率的に進めることができます。このモードでは臨床による根拠に基づいた、小児に特化したフィッティング設定が呼び出されます。

ジュニアモードは年齢により4段階に分けられます。（0-3歳・4-8歳・9-12歳・13-18歳）

ジュニアモードの設定方法

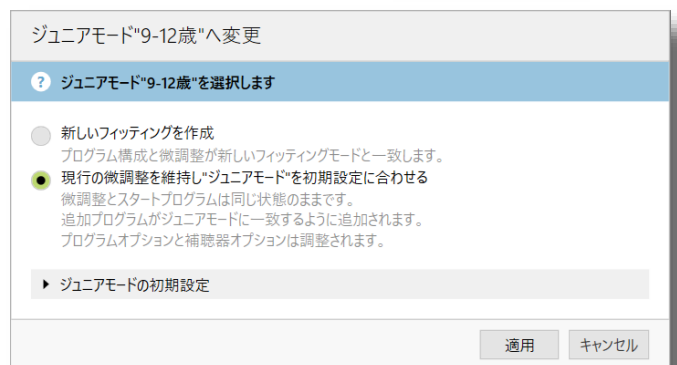
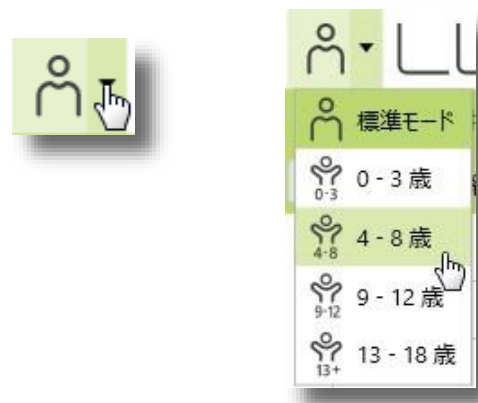
新たにフィッティングを始める場合

顧客の年齢が18歳以下であれば、新しいフィッティングを始める際にジュニアモードを推奨する画面が表示されます。[ジュニアモードを適用](#) をクリックします。



途中で変更する場合

1. ダッシュボードにある顧客の詳細アイコンの▼をクリックします。
2. プルダウンメニューから変更したいモードを選択します。
3. 新しいフィッティングを作成するか、現行の微調整を維持させるか選択します。



ジュニアモードでフィッティングを行っているときは、顧客の詳細アイコンが次のように変化します。



ジュニアモード初期設定

ジュニアモードにおける各オプションの初期設定値は「セットアップ」で確認・変更が行えます。

Phonak Target ファイル ヘルプ

セットアップ

概要 私のプロフィール フィッティングセッション **ジュニアモード** レポート フィッティング機器 サウンドシステム インターネット

初期設定 0-3 歳 4-8 歳 9-12 歳 13-18 歳

▶ 音響パラメータ

▼ フィッティング処方

初期設定のフィッティング処方 DSL v5a Pediatric DSL v5a Pediatric DSL v5a Pediatric DSL v5a Pediatric

▼ プログラムマネージャ

	スタートアップ	スタートアップ	スタートアップ	スタートアップ
(A) オートマッチングプログラム	有効 ●	有効 ●	有効 ●	有効 ●
① 第一優先	ロジャー-/DAI+マイク ●	ロジャー-/DAI+マイク ●	ロジャー-/DAI+マイク ●	ロジャー-/DAI+マイク ●
② 第二優先	なし ●	なし ●	なし ●	なし ●
③ 第三優先	なし ●	なし ●	なし ●	なし ●
イージーロジャー II	ロジャー-/DAI+マイク ●	ロジャー-/DAI+マイク ●	ロジャー-/DAI+マイク ●	ロジャー-/DAI+マイク ●
イージーフォン	なし ●	電話 ●	電話 ●	電話 ●
ミュートプログラム	無効 ●	無効 ●	無効 ●	無効 ●

▶ 機器オプション

▶ プログラム オプション

▶ データログ

初期設定をDSLにリセット 初期設定をNALにリセット 同じ設定:DSL 初期設定

顧客とセッション デモンストレータ メディア ニュース トライアルとツール 更新 **セットアップ**

6. オーディオグラムダイレクト

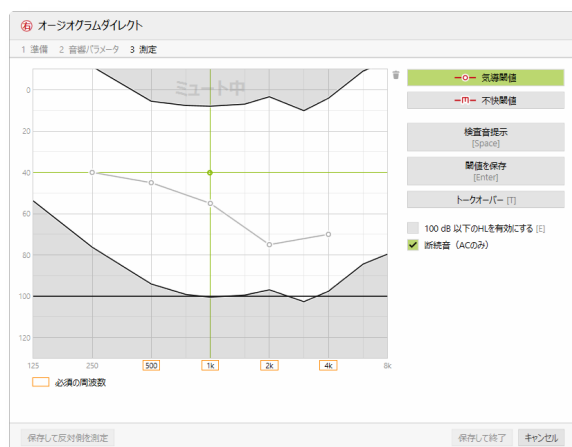
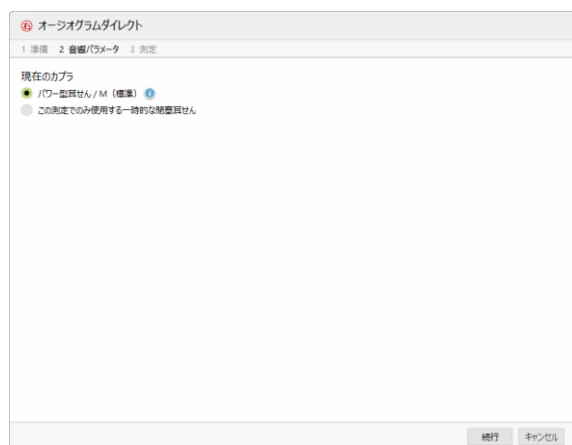
補聴器を用いてユーザーの聴力を測定し、補聴器のフィッティングを行う機能です。これにより、フィッティングを素早く進めることが可能です。オーディオメーターを必要とせず、訪問先などでの使用にも適しています。また、実際に装用する補聴器を使用することで、予測による外耳道内の容積との誤差を極力小さくすることができます。

オーディオグラムダイレクトを開始する

1. 測定に使用する補聴器を接続します。
2. フィッティングタブの「オーディオグラムダイレクト」をクリックします。
3. 右もしくは左の「開始…」をクリックすると、準備画面が表示されますので **続行** をクリックします。
4. 測定に使用する耳せん、またはベント径を選択し **続行** をクリックします。

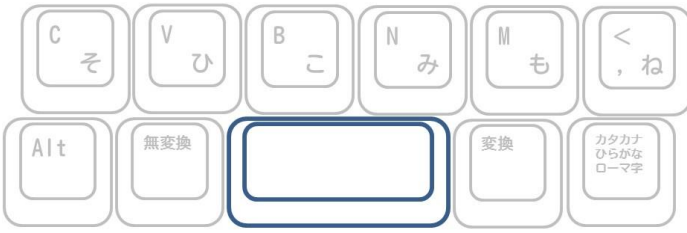
※ 設定を正しく行わないと正確な結果が得られません。

5. 測定を開始します。
6. 測定終了後、続いて反対側の補聴器でもオーディオグラムダイレクトを行う場合は **保存して反対側を測定** をクリックします。測定を終了する場合は **保存して終了** をクリックします。この時に「オーディオグラムダイレクトを使用して補聴器の設定を再計算する」にチェックが入っている場合、自動的にフィッティングの再計算が行われます。



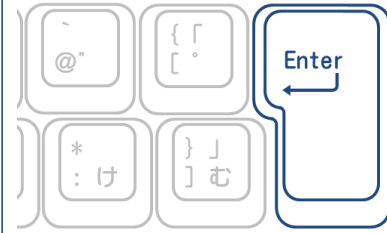
◇オーディオグラムダイレクトの操作に使用するのは、マウス操作かキーボードのスペースキーと上下矢印キーです。

スペースキー：検査音提示



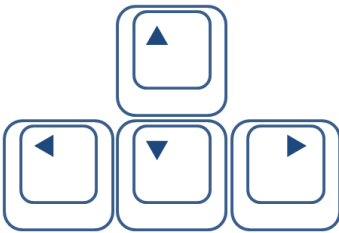
スペースキーを押している間、補聴器から連続音の純音が提示されます。
(「検査音提示」のボタンが点灯します)

エンターキー：確定



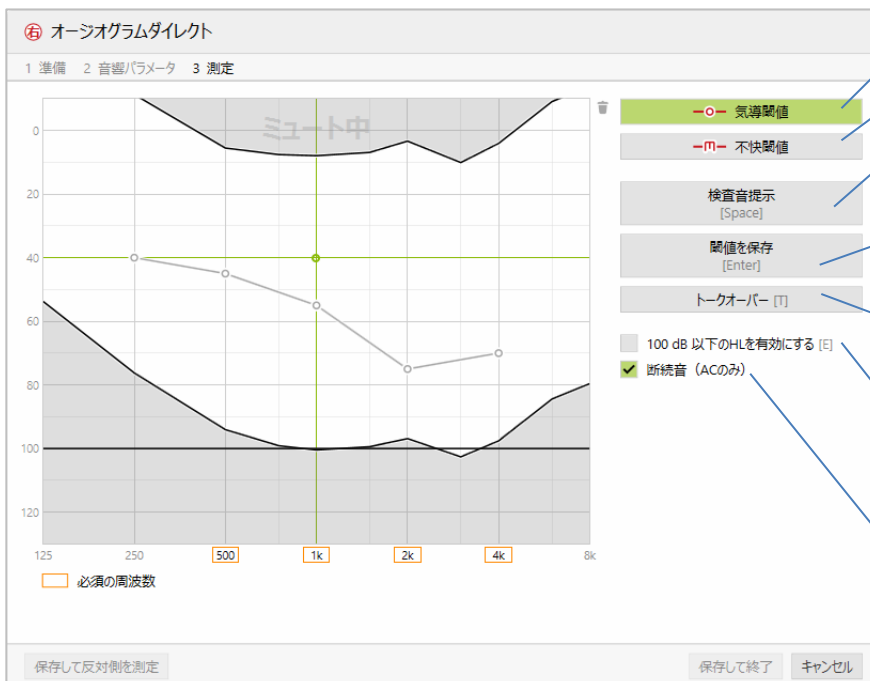
測定した値は、エンターキーで確定します。

カーソルキー：音圧/周波数変更



スペースキーを押し続けながら、カーソルキーの上下で音圧レベルを変更します。下矢印キーを押すと音圧が大きくなります。ユーザーが反応したところでスペースキーを放します。測定する周波数を手動で変えるにはカーソルキーの左右を使用します。右矢印キーで高く、左矢印キーで低くなります。

測定画面の説明



- ① 気導聴力測定に切り替えます
- ② 不快閾値測定に切り替えます
- ③ 検査音を提示します (キーボードのスペースキーと同じです)
- ④ 測定結果を確定します (キーボードのエンターキーと同じです)
- ⑤ 測定を中断し補聴器のマイクロホン をオンにします
- ⑥ チェックすることで、100dBHL以上の測定を可能にします (強大音が出るため十分注意してください)
- ⑦ 検査音を断続音にします

※ ひらがな入力の状態ではキーボードでの操作が正しく行えません。「半角/全角」キーを押して半角英数であることを確認してください。

7. 設定の転送

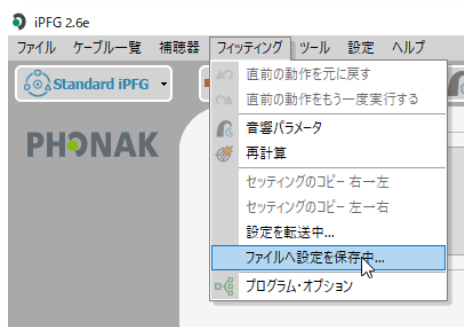
今まで装着していた補聴器からフィッティングの設定を引き継ぎ、最新の器種へのアップグレードをすることができます。クリック1つで微調整された利得設定やプログラム構成が新しい補聴器に転送されます。

1. 転送データの書き出し

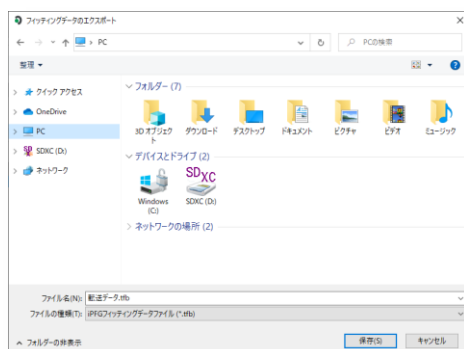
異なるPC間での転送や、スタンドアロン版のiPFGからPhonak Targetへ転送する場合のみ、予め転送用データをファイルに書き出しておく必要があります。

iPFGからの場合

iPFGを起動し、転送元となる顧客のフィッティングデータを開きます。メニューバーの「フィッティング」→「ファイルへ設定を保存中…」をクリックしてください。

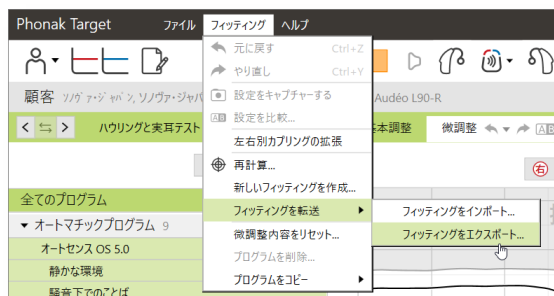


転送ファイルを保存するフォルダを指定します。分かりやすいファイル名を入力し、**保存(S)** をクリックします。

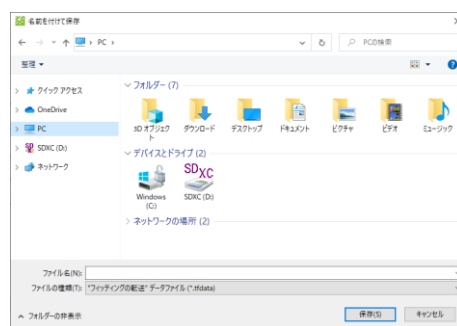


Targetからの場合

Phonak Targetを起動し、転送元となる顧客のフィッティングセッションを開きます。メニューバーの「フィッティング」>「フィッティングを転送」>「フィッティングをエクスポート…」をクリックしてください。



閲覧... をクリックし、転送ファイルを保存するフォルダを指定します。分かりやすいファイル名を入力し、**保存(S)** をクリックします。



続行 をクリックすると保存作業を完了します。



2. 転送先補聴器の接続

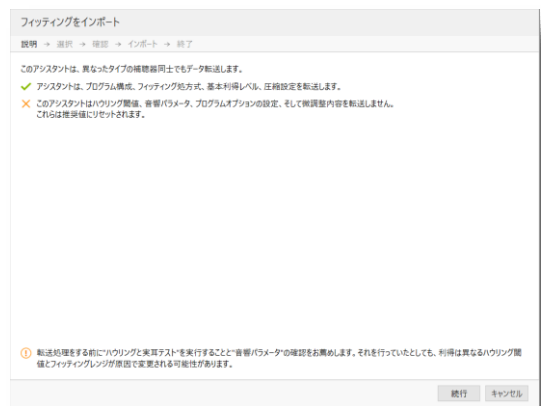
Phonak Targetを起動し、新規顧客作成（または顧客の新しいセッションを開始）します。転送先となる補聴器を接続します。

3. 設定の転送を行う

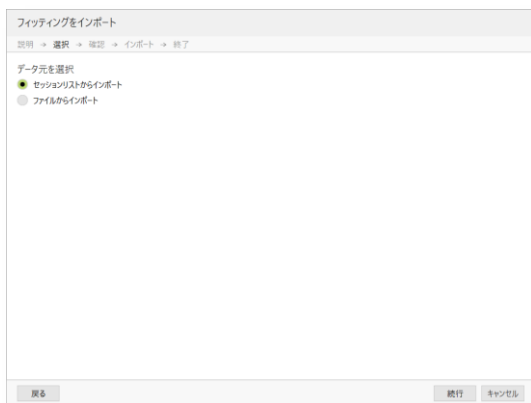
メニューバーの「フィッティング」>「フィッティングを転送」>「フィッティングをインポート…」をクリックします。



転送ウィザードが表示されるので **続行** をクリックします。

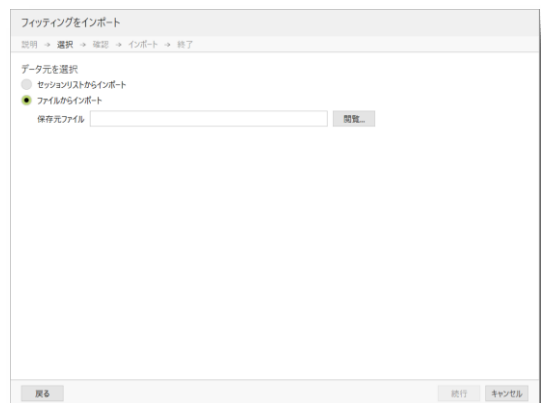


セッションリストからインポートする場合

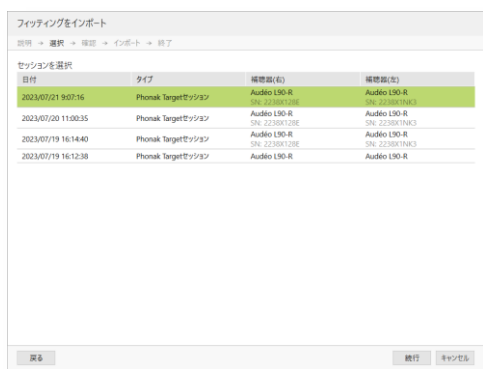


「セッションリストからインポート」が選択された状態で **続行** をクリックします。こちらの方法は、手順1を行う必要はありません。

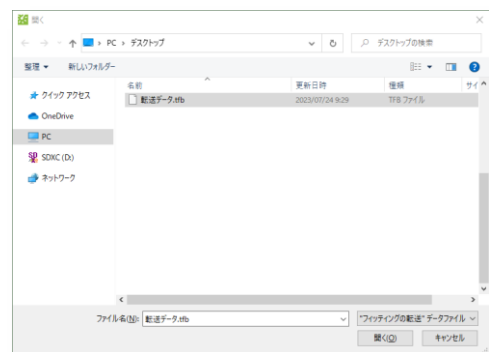
ファイルからインポートする場合



「ファイルからインポート」を選択し、**閲覧...** をクリックします。

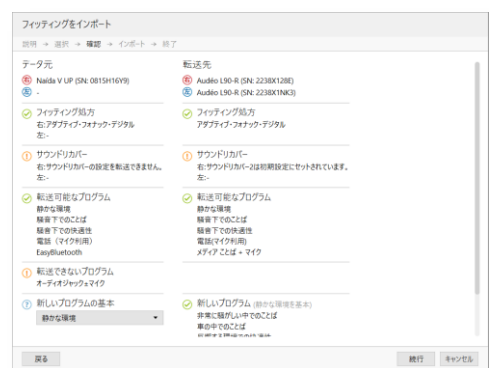


引用したい日付のフィッティングデータを選択し、
 をクリックします。

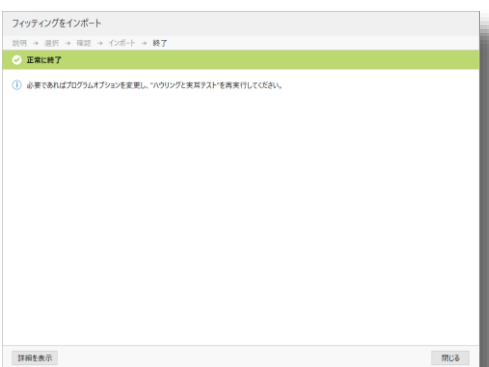


引用したいエクスポートデータを選択し、
 をクリックします。続いて をクリックしま
 す。

転送元の器種名などが表示されますので、内容を確認
 し をクリックします。



この画面が表示されれば転送完了です。転送されるの
 は利得調整とプログラム構成のみで、そのほかの項目
 は初期設定に戻ります。必要に応じて「音響パラメー
 タ」の設定や、「ハウリングと実耳テスト」を再テス
 トしてください。



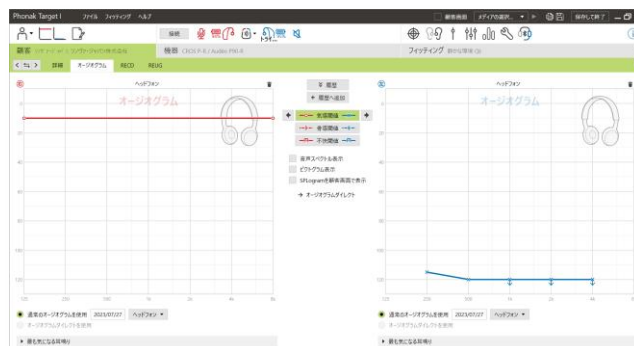
❗ 装用耳の違うセッションはインポートできません。(片耳装用⇔両耳装用、右耳装用⇔左耳装用)

8. CROSフィッティングについて

CROS (Contralateral Routing Of Signal) フィッティングとは、一方の耳にも難聴がある一側性難聴や一方が全く聞こえない片耳聾といった方が、その方向からの音を認識できるようになり、頭部の陰影効果による悪影響を解決する方法の1つです。

ここでは、CROS送信機を用いたCROSフィッティングの例としてフォナック クロス Pを用いて説明します。

CROSフィッティングの場合も両耳のオーディオグラムを入力してください。聞こえの良い側（良聴耳）がCROS受信機（補聴器）装用耳です。良聴耳が健聴でも必ずオーディオグラムを入力してください。オーディオグラムがない場合は15dB水平型のオーディオグラムを入力してください。



CROS送受信機の接続

CROSフィッティングでは無線タイプのインターフェースをご使用いただくことをお勧めします。無線タイプのインターフェースですと、フィッティング中もCROSシステムが有効になり、デモを行いながら調整することが可能です。

❗ **有線タイプのインターフェースで接続した場合、パラダイスシリーズ以外の製品はフィッティング中のCROSシステムが無効になります。**

インターフェース	接続方法
無線タイプ ● Noahlink Wireless ● iCube II	CROS送受信機に電池を入れ、電池ホルダーを閉じ電源を入れてください 充電タイプの場合は電源をオンに、あるいは電源の入れなおしをしてください
有線タイプ ● NOAHlink ● HI-PRO2	CROS送受信機をフォナック専用ケーブルで接続してください

Phonak Targetとの接続方法やフィッティング手順、フィッティングでできることは通常補聴器とほとんど変わりません。補聴器の接続方法は本誌22ページをご参照ください。CROS送受信機が接続できたら、音響パラメータ画面で使用するパラメータ（レシーバや耳せん）に間違いがないかご確認ください。以下、CROS送受信機のフィッティングでのみ操作できるポイントをご紹介します。

CROS送受信機の互換性

CROSシステムを利用できるのは、両耳間通信機能付き補聴器に限ります。CROS送受信機の組み合わせは、フォナック クロスを除き「オーディオ V」と「クロス B」のような異なるプラットフォームや、耳かけ型と耳あな型のような異なる器種で使用することができません。なお、フォナック クロスはエッセンシャルクラスでは接続できません。

ベンチャーシリーズ互換性表

	オーディオ V ボレロ V	ナイーダ V スカイ V	バート V*
クロス II-312 クロス II-13		○	×
クロス II-312 カスタム クロス II-13 カスタム		×	○

* nano/10 O/10 NW Oを除く

ビロングシリーズ互換性表

	オーディオ B*1 ボレロ B*1	ナイーダ B*1 スカイ B	オーディオ B-R	バート B*2
クロス B-312 クロス B-13		○	×	×
クロス B-R		×	○	×
クロス B-312 カスタム クロス B-13 カスタム		×	×	○

*1 オーディオ B-ダイレクト/ボレロ B-PR/ナイーダ B-R RICを除く

*2 チタン/10 O/10 NW O/312 NW Oを除く

パラダイスシリーズ互換性表

	オーディオ P-R	オーディオ P-13T
クロス P-R	○	×
クロス P-13	×	○

※ オーディオ P-R/オーディオ P-13T以外のパラダイスシリーズ補聴器は、CROSシステムを使用することができません。

ルミティシリーズ互換性表

	オーディオ L-R	ナイーダ L-PR	スカイ L-PR
クロス L-R		○	

CROSの基本調整

CROSバランス

CROS送信機の音量を大きくするか、CROS受信機（補聴器）の音量を大きくするかの割合の変更が行えます。ベンチャーシリーズ以降はBiCROSモードのみとなります。CROSバランスの割合をCROSマイクロホンに振り切っていただくことで、CROSモードに近い状態でご使用いただけます。クロスPでは、ミュート/ミュート解除にチェックを入れていただくことで、CROS受信機（補聴器）側のみミュートにすることが可能です。

CROSの微調整

補聴器マイクロホン

CROS受信機（補聴器）のクラスに応じて指向性を選ぶことができます。エッセンシャルクラスは無指向性のみ、スタンダードクラスはリアルイヤーサウンド、アドバンスクラス以上でステレオズームが使用できるようになります。なお、オートマッチックプログラム内で個別に指向性を変えることはできません。

※ 「非常に騒がしい中でのことば」のみステレオズーム固定となります。

ストリーミングプログラム

ストリーミングプログラム使用中は、CROS送信機のマイクロホンはオフとなります。

追加プログラム

「オートマッチックとリンクしない独立プログラムを作成する」にチェックを入れてプログラムを追加すると、CROS送信機のマイクロホンをオフにしたプログラムを作成することが可能です。一時的にCROS送信機のマイクロホンのみをオフにしたいときにご活用ください。

CROSの機器オプション

お知らせ音と警告音

CROS送信機に関する警告音は、全てCROS受信機（補聴器）を通じて聞こえてきます。詳しくは本誌57ページをご参照ください。

プログラムスイッチとボリュームコントロール

設定により、CROS送受信機の音量割合を調節するCROSバランスに割り当てることができます。ただし、組み合わせるCROS送受信機のタイプによって、利用可能なプログラムスイッチとボリュームコントロールの設定内容が異なります。

パラダイスシリーズ以降の組み合わせ

補聴器（受信機）	クロス（送信機）	補聴器:短押し	クロス:短押し	補聴器:長押し	クロス:長押し
オーディオ P-13T	クロス P-13			・プログラムを変更する（上） ・補聴器のミュート/ミュート解除（約2秒）	・プログラムを変更する（上） ・クロスのミュート/ミュート解除（約2秒）
オーディオ P-R	クロス P-R	ボリューム	CROSバランス	・プログラムを変更する（上） ・補聴器のミュート/ミュート解除（約2秒） ・補聴器の電源オン/オフ（約4秒）	・プログラムを変更する（上） ・クロスのミュート/ミュート解除（約2秒） ・クロスの電源オン/オフ（約4秒）
オーディオ L-R					
ナイーダ L-PR スカイ L-PR	クロス L-R				

ビロングシリーズとクロス Bの組み合わせ

PS=プログラムスイッチ VC=ボリュームコントロール

型	補聴器 (受信機)	クロス (送信機)	PS:短押し	PS:長押し	VC:補聴器	VC:クロス
耳 か け	ボレロ B-P/SP オーディオ B-13 ナイーダ B-SP/UP スカイ B-RIC/P/SP/UP	クロス B-13	・機能なし ・プログラムを変更する	・機能なし ・スタートアッププログラム ・選択したプログラム ・マイクロホン減衰	利用不可	利用不可
耳 あ な	パート B-10/312/13 (VCあり)	クロス B-312 カスタム クロス B-13 カスタム (VCあり)			・機能なし ・ボリューム	・機能なし ・CROS/バランス
耳 か け	ボレロ B-M オーディオ B-312/312T	クロス B-13	・機能なし ・プログラムを変更する	・機能なし ・スタートアッププログラム ・選択したプログラム ・マイクロホン減衰	利用不可	利用不可
耳 あ な	パート B-10/312/13 (VCなし)	クロス B-312 カスタム クロス B-13 カスタム (VCあり)			利用不可	・機能なし ・ボリューム
耳 か け	ボレロ B-P/SP オーディオ B-13 ナイーダ B-SP/UP スカイ B-RIC/P/SP/UP	クロス B-312	・機能なし ・プログラムを変更する	・機能なし ・スタートアッププログラム ・選択したプログラム ・マイクロホン減衰	利用不可	利用不可
耳 あ な	パート B-10/312/13 (VCあり)	クロス B-312 カスタム クロス B-13 カスタム (VCなし)			・機能なし ・ボリューム	利用不可
耳 か け	ボレロ B-M オーディオ B-312/312T	クロス B-312	・機能なし ・プログラムを変更する ・ボリューム	・機能なし ・スタートアッププログラム ・選択したプログラム ・マイクロホン減衰	利用不可	利用不可
耳 あ な	パート B-10/312/13 (VCなし)	クロス B-312 カスタム クロス B-13 カスタム (VCなし)	(右:大きく 左:小さく) ・CROS/バランス		利用不可	利用不可
耳 か け	オーディオ B-R	クロス B-R	・機能なし ・プログラムを変更する ・ボリューム (右:大きく 左:小さく) ・CROS/バランス	電源オン/オフ	利用不可	利用不可

ベンチャーシリーズとクロス II の組み合わせ

PS=プログラムスイッチ VC=ボリュームコントロール

型	補聴器 (受信機)	クロス (送信機)	PS:短押し	PS:長押し	VC:補聴器	VC:クロス
耳 か け	ボレロ V-P/SP オーディオ V-13 ナイーダ V-RIC/SP/UP スカイ V-RIC/P/SP/UP	クロス II -13	・機能なし ・プログラムを変更する	・機能なし ・スタートアッププログラム ・選択したプログラム ・マイクロホン減衰	利用不可	利用不可
耳 あ な	パート V-10/312/13 (VCあり)	クロス II -312 カスタム クロス II -13 カスタム (VCあり)			・機能なし ・ボリューム	・機能なし ・CROS/バランス
耳 か け	ボレロ V-M オーディオ V-312/312T	クロス II -13	・機能なし ・プログラムを変更する	・機能なし ・スタートアッププログラム ・選択したプログラム ・マイクロホン減衰	利用不可	利用不可
耳 あ な	パート V-10/312/13 (VCなし)	クロス II -312 カスタム クロス II -13 カスタム (VCあり)			利用不可	・機能なし ・ボリューム
耳 か け	ボレロ V-P/SP オーディオ V-13 ナイーダ V-SP/UP スカイ V-RIC/P/SP/UP	クロス II -312	・機能なし ・プログラムを変更する	・機能なし ・スタートアッププログラム ・選択したプログラム ・マイクロホン減衰	利用不可	利用不可
耳 あ な	パート V-10/312/13 (VCあり)	クロス II -312 カスタム クロス II -13 カスタム (VCなし)			・機能なし ・ボリューム	利用不可
耳 か け	ボレロ V-M オーディオ V-312/312T	クロス II -312	・機能なし ・プログラムを変更する ・ボリューム	・機能なし ・スタートアッププログラム ・選択したプログラム ・マイクロホン減衰	利用不可	利用不可
耳 あ な	パート V-10/312/13 (VCなし)	クロス II -312 カスタム クロス II -13 カスタム (VCなし)	(右:大きく 左:小さく) ・CROS/バランス		利用不可	利用不可


9. リモートサポート

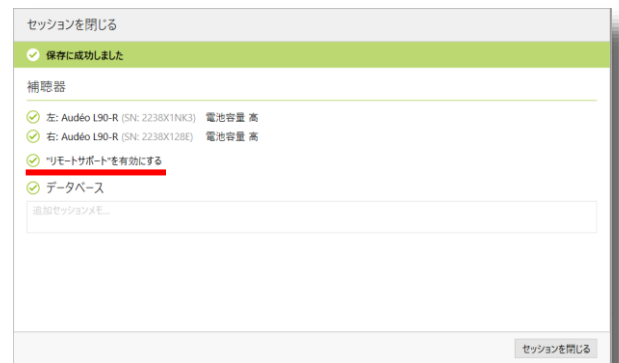
フォナック リモートサポートは、補聴器の2回目以降のフィッティングとして、遠隔で行えるように設計されています。ユーザーのフォナック補聴器とリモートサポートに互換性があれば、インターネットを経由し来店いただかなくてもリアルタイムで調整することが可能です。


必要条件

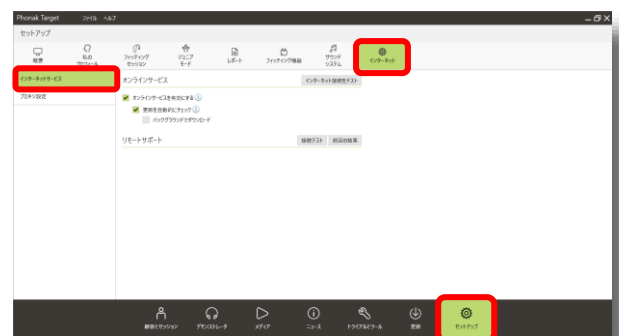
- Phonak Targetのバージョンが6.2.8以降であること。
- ファーストフィットが完了してあること。
- ※ リモートサポートを行うには、マイフォナック アプリと補聴器をペアリングしていただくことが必須です。
また、マイフォナック アプリと補聴器をペアリングするためにはファーストフィットが完了していることが必須です。
- ウェブカメラとマイクが内蔵されたPC、またはPCにウェブカメラとマイクが取り付けられていること。
- 安定したインターネット接続環境（Wi-Fi、LAN、5G、4G）であること。
- ※ アップロードおよびダウンロード用のデータ転送速度が少なくとも5メガビット/秒が必要です。
- ※ アプリの利用料は無料ですが、ダウンロードやご利用時にかかるパケット通信料はユーザーのご負担となります。

事前準備

補聴器のファーストフィットを行い、保存の確認画面で「リモートサポートを有効にする」に  マークが入っていることを確認します。



下段メニューから「セットアップ」>上段メニューから「インターネット」>左項目から「インターネットサービス」を選びます。リモートサポートの  をクリックし、「リモートサポート」は利用可能。」と表示されることを確認します。



リモートサポートの開始

"リモートサポート"を開始 をクリックします。

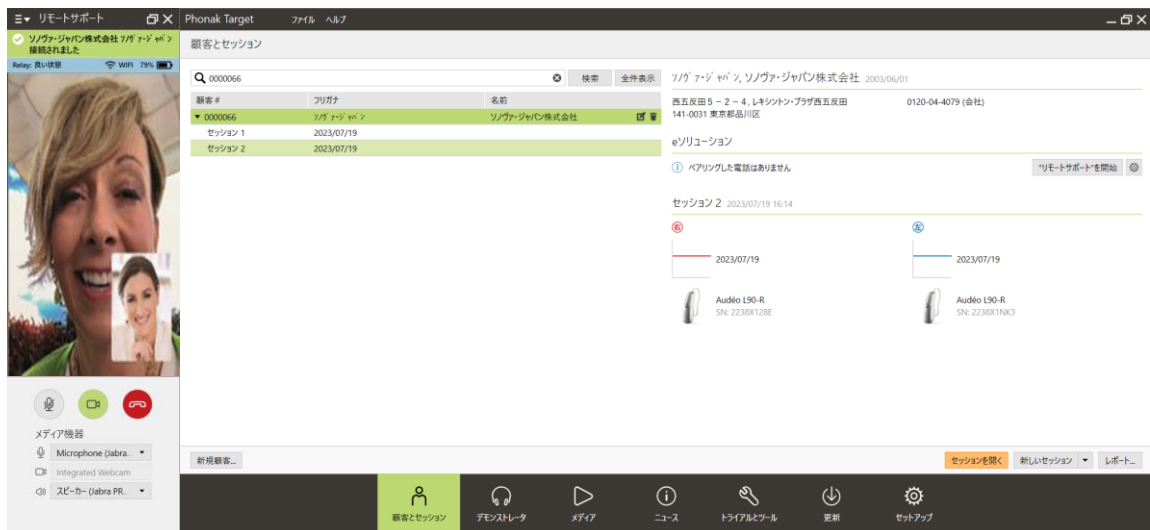
※ ファーストフィットが完了しているとクリックできるようになります。






eソリューションのアイコンの意味は、それぞれ以下のようになっております。

- リモートサポート非対応、または補聴器の登録がない顧客データ： ⊖ "リモートサポート"に有効なIDがありません
- マイフォナック アプリとのペアリングが確認できていない顧客データ： ⓘ ペアリングした電話はありません
- マイフォナック アプリとのペアリングが確認された顧客データ： ✓ "リモートサポート"は利用可能。

"リモートサポート"を開始 をクリックすると、Target画面左側にビデオ通話が表示されます。この状態でユーザーと接続ができるまでフィッターは待機します。ユーザーと接続できると小さな画面でユーザーの映像が映し出されます。大きい画面の映像がフィッターです。ユーザーと接続ができれば **セッションを開く** をクリックしてフィッティングを開始します。顧客データが開かれたら **接続** をクリックし、通常どおりフィッティングを行います。CROS補聴器もリモートサポート可能です。



-  アイコンは、フィッター側のマイクをミュートにし、ユーザーへ音声が届かなくなるようにします。
-  アイコンは、フィッター側のカメラをオフにし、ユーザーに映像が届かなくなるようにします。
-  アイコンで通話の終了ができます。

ユーザーは以下の手順でフィッティングの準備を進めます。



画面下のメニュー内の「サポート」をタップし、「セッション開始」をタップします。

「リモートサポートを開始」をタップします。

「参加」をタップします。必要に応じてカメラとマイクのオンオフを切り替えます。

この画面で待機します。必要に応じてカメラとマイクのオンオフを切り替えます。

フィッティングの終了と注意点

フィッティングを終了させる場合、通常フィッティング時と同様に画面右上の「保存して終了」をクリックしてセッションを終了させます。トライアル器の場合、トライアル期間の延長も可能です。なお、リモートサポートの場合以下の設定/作業ができませんのでご注意ください。

- ハウリングと実耳テスト
- MPOの上昇（下げることは可能）
- 補聴器のペアリング削除
- クラス変更（トライアル器のみ）

◆フィッティング中フィッターとユーザーの音声は、スマートフォンが入出力を行います。

10. その他

Phonak Targetのトップ画面からは、フィッティングセッション以外の様々な機能を呼び出すことができます。



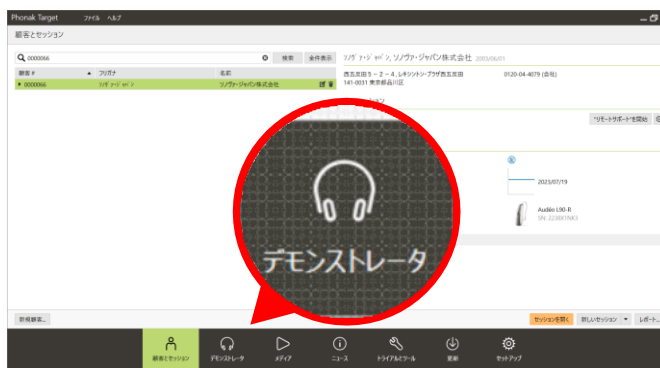
※「ニュース」は日本国内では使用しません。

デモンストレータ

デモンストレータはヘッドフォンを使用して、補聴器を検討している顧客やその家族、周囲の方々へ、補聴器装用を促すためのカウンセリングツールです。このツールは、難聴者の聞こえ方や聞き取り困難なシーンにおける補聴器の効果を体験できます。

デモンストレータの準備

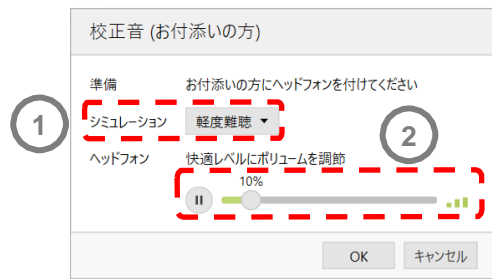
1. デモンストレータを起動します。



2. デモを体験するお客様の種類を選択します。



3. ①シミュレーションする難聴のタイプを決定し、お客様にヘッドフォンを装着していただき、②デモの音声を快適に聞こえるレベルに合わせます。



デモンストレータの使用方法

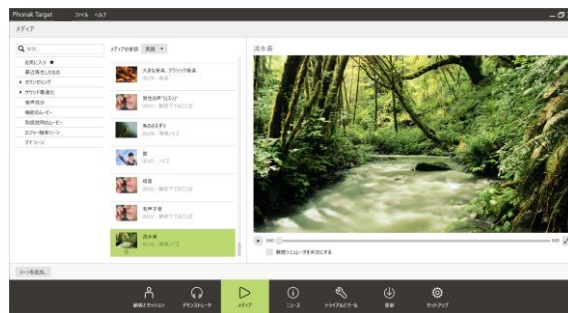


使用ポイント

- 両耳装着効果や両耳間音声通信機能を正しく体験していただくため、必ずヘッドフォンをご使用ください。
- ヘッドフォンは耳をすっぽり覆う密閉型をお勧めします。

メディア

Phonak Target MediaおよびPhonak Target Soundsにはデモンストレーションや環境の疑似体験ができる数種類の音声ファイルが収録されています。メディアプレーヤーでこれらを再生できます。また、フィッティング中でも、ツールバーのメディアプレーヤーから再生できます。



フィッティング中に再生する

フィッティング中でも、ツールバーの

メディアの選択... をクリックすると音声ファイルを選ぶ画面が表示されますので、様々な状況を疑似構成しフィッティングすることができます。



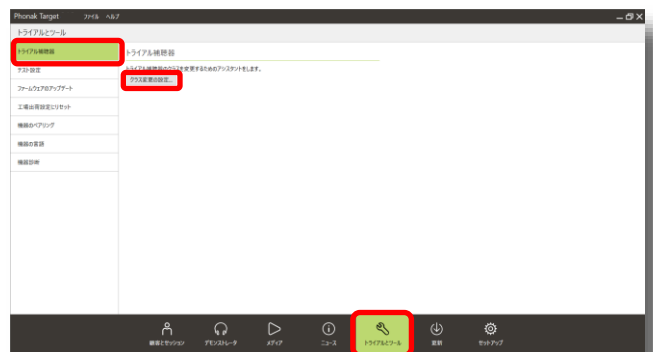
トライアルとツール

補聴器の性能測定や補聴器およびデジタルワイヤレスアクセサリのファームウェア（内部ソフトウェア）を、更新したり初期化したりすることができます。また、トライアル器のクラス変更もこちらから行います。

トライアル補聴器

トライアル補聴器のクラス変更が行えます。

1. 「トライアルとツール」 > 「トライアル補聴器」 > 「クラス変更の設定…」の順にクリックします。



2. クラス変更を行いたい補聴器のインターフェースを選び、**続行** をクリックします。次の画面で表示される注意事項を読んでいただき **続行** をクリックします。



3. 補聴器の電源を入れなおします。補聴器が検出されると器種名とシリアル番号が表示されます。クラス変更を行いたい補聴器にチェックを入れ

続行 をクリックします。

❗ **クラス変更は1台ずつでないといけません。**



4. 補聴器が「接続済み」になったら **続行** をクリックします。



5. 変更したいクラスの **選択** をクリックし **選択済み** にします。この状態で **続行** をクリックします。これには数分かかる場合がございます。

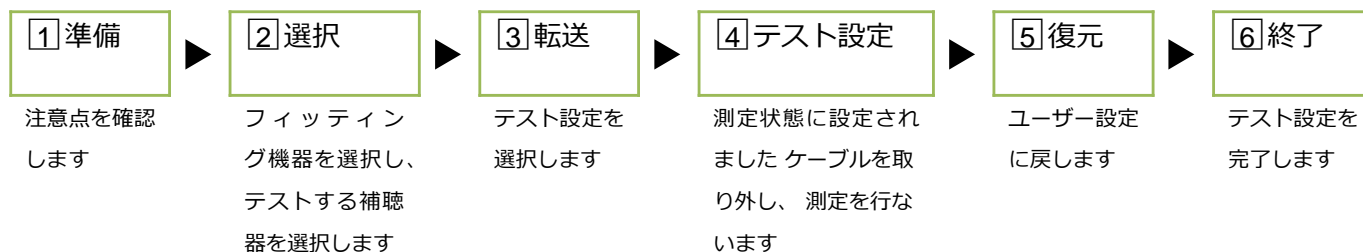


6. この画面が表示されれば完了です。 **閉じる** をクリックし作業を終了してください。複数台クラス変更を行う場合、同じ手順で1台ずつクラスの変更を行っていただきます。



テスト設定

補聴器の性能を確認するための周波数特性測定を行います。テスト設定の種類は、測定機種によって異なります。



テスト設定の種類

(以下はナイーダ P-UPとバート Pのプレシーバーでの例です。RICタイプの場合は補聴器に取り付けてあるレシーバータイプをお選びください。)

ナイーダ P-UPの選択項目

テスト設定	
準備 → 選択 → 転送 → テスト → 復元 → 終了	
テスト設定を選択	
<input type="radio"/>	最大出力音圧 / マイクロホン / ダンパーなしフック
<input checked="" type="radio"/>	最大出力音圧 / マイクロホン / ダンパー入りフック
<input type="radio"/>	最大出力音圧 / Tコイル / ダンパーなしフック
<input type="radio"/>	最大出力音圧 / Tコイル / ダンパー入りフック
<input type="radio"/>	規準周波数利得 / マイクロホン / ダンパーなしフック
<input type="radio"/>	規準周波数利得 / マイクロホン / ダンパー入りフック
<input type="radio"/>	規準周波数利得 / Tコイル / ダンパーなしフック
<input type="radio"/>	規準周波数利得 / Tコイル / ダンパー入りフック
<input type="radio"/>	規準周波数利得 / Tコイル / プラスマイク / ダンパーなしフック
<input type="radio"/>	規準周波数利得 / Tコイル / プラスマイク / ダンパー入りフック
<input type="button" value="データシートを開く"/>	

バート P (プレシーバー) の選択項目

テスト設定	
準備 → 選択 → 転送 → テスト → 復元 → 終了	
テスト設定を選択	
<input checked="" type="radio"/>	最大出力音圧 / マイクロホン / P
<input type="radio"/>	最大出力音圧 / Tコイル / P
<input type="radio"/>	規準周波数利得 / マイクロホン / P
<input type="radio"/>	規準周波数利得 / Tコイル / P
<input type="radio"/>	規準周波数利得 / Tコイル / プラスマイク / P
<input type="button" value="データシートを開く"/>	

一般的な周波数特性の測定は、『最大出力音圧/マイクロホン』をお選びください。ダンパーの有無は、お手元のフックの状態をもとにお選びください。

ファームウェアのアップデート

補聴器およびアクセサリのファームウェアが最新版でない場合、最新の機能が使用できなかつたり、正常に補聴器・アクセサリと通信できなかつたりすることがあります。この場合、ファームウェアを最新バージョンに更新することで使えるようになります。補聴援助システムロジャーのアップデートもこちらから行います（ロジャーアップグレーダーのインストールが必要です。最新版のロジャーアップグレーダーは[弊社ホームページ](#)からダウンロード可能です）。

工場出荷設定にリセット

補聴器やアクセサリに異常が見られた場合に使用します。補聴器・アクセサリを初期化することで、内部設定が初期化され再度使えるようになる可能性があります。

補聴器のリセット手順

リセットとアップグレードの手順は基本的に同じです。

1. 補聴器を接続するインターフェースを選択し、

続行 をクリックします。次の画面で表示される注意事項を読んでいただき **続行** をクリックします。



2. 補聴器の電源を入れなおします。補聴器が検出されると器種名とシリアル番号が表示されます。リセットを行いたい補聴器にチェックを入れ **続行** をクリックします。

※ リセット作業は複数の補聴器を選択することができます。



3. **続行** をクリックするとリセットが開始されます。これには数分かかる場合がございます。



4. この画面が表示されれば完了です。**閉じる** をクリックし作業を終了してください。



機器のペアリング

コムパイロットと他のBluetooth機器をペアリングすることができます。また、iCube II とUSBアダプタの再ペアリングもここで行うことができます。

機器の言語

フォナック コムパイロットに追加の言語パックをインストールできます。コムパイロット II およびコムパイロット エア II ではこの作業は必要ありません。


機器診断


補聴器を接続し、その補聴器のシリアル番号やファームウェアバージョン等の本体情報の確認ができます。

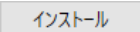
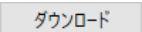
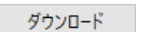
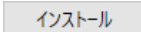
※ 心拍数センサーテストは日本では使用しません。


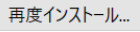
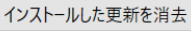

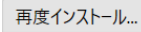
更新

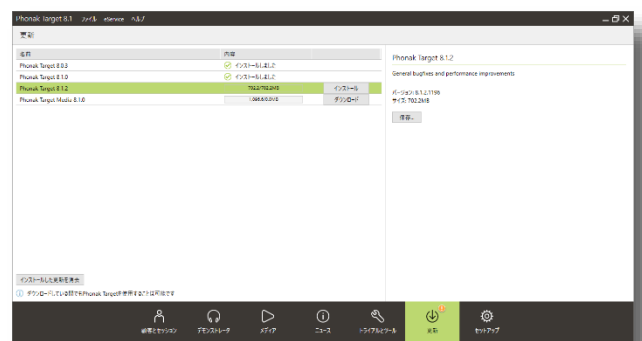
この画面ではインターネットを経由して、Phonak Targetの更新プログラムをダウンロードすることができます。更新プログラムはデータサイズが大きいので、Wi-Fi環境でのダウンロードをお勧めします。

「オンラインサービスを有効にする」と「更新を自動的にチェック」の両方にチェックが入っていると、新たな更新データが公開された場合「更新」タブに  マークが付きまます。詳しくは、本誌91ページをご参照ください。

既にインストール済みのソフトウェアには  マークが、ダウンロードが完了しているソフトウェアには

 ボタンが、ダウンロードが始まっていないソフトウェアには  ボタンがそれぞれ表示されます。ダウンロードがまだの場合、 ボタンをクリックするとすぐにダウンロードが始まります。ダウンロードの完了までは数分かかる場合がございます。ダウンロード完了後  ボタンをクリックすると、すぐにソフトウェアのインストールが開始されます。Phonak Targetのインストール方法は、本誌2ページをご参照ください。

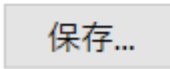
 をクリックするとPhonak Targetのインストーラーが保存できます。インターネット接続のないPCやPhonak TargetがインストールされていないPCへPhonak Targetをインストールさせる際にご使用ください。Phonak Targetの動作に異常がみられる場合、 をクリックし、Phonak Targetを再インストールすることで不具合が解消される場合がございます。 をクリックすると、インストールの完了している項目を消すことができますが、 と  ができなくなりますのでご注意ください。




Phonak Target

バージョン: 8.1.2.11

サイズ: 5.4MB

 保存...

 再度インストール...

セットアップ

この画面ではPhonak Targetの各種設定を行うことができます。

概要

Phonak Targetの基本的な設定を行います。

言語

- フィッティングソフト Phonak Targetの表示言語指定します。
- メディア メディアプレーヤで使用する音声ファイルの言語を指定します。
(メディアファイルのインストールが必要です)

表示設定

- 視覚効果 画面表示がスムーズに切り替わるエフェクトの設定をします。
- 第二画面で“顧客表示”を表示 マルチモニター環境において、説明用画面を拡大表示にします。

Phonak Target改善プログラム

本プログラムへの参加可否をいつでも切り替えられます。

設定のインポート/エクスポート

- 設定をインポート Phonak Targetの各種設定内容を取り出し、バックアップとして保管したり、別のPCへ反映させたりすることができます。
- 設定をエクスポート 別のPCから取り出したPhonak Targetの設定内容を反映させます。

サポート・サポートツール

トラブルシューティングの際に使用します。

私のプロフィール

フィッティング担当者（販売店）の情報を入力します。

フィッティングセッション

補聴器フィッティングに関わる機能の設定/変更を行います。

測定方法

- 測定条件の初期設定 聴力データ入力に使用するヘッドフォン等の設定をします。
- 骨導の記号 骨導聴力の記号の向きを変更します。
- Auditory Brainstem Response(ABR)を使用 ABRを使用する際チェックします。
- DSL v5a – ABR nHL 補正值 必要に応じて補正值を入力します。

機器

- 機器一覧で耳かけ型（RIC&BTE）を上位に表示
機器タブの補聴器選択画面で、一覧の並び方を耳かけ型優先にします。
- マイパイロットの初期設定言語
マイパイロットの画面表示使用する言語の初期設定を変更します。
- コムパイロットの初期設定言語
コムパイロットに使用する言語の初期設定を変更します。

フィッティング

- 初期設定のフィッティング処方
初期設定で使用するフィッティング理論を選択します。
- パスワードでのフィッティング保護を有効にする
チェックを入れると、フィッティングの際にパスワードを要求するようにします。初期設定ではチェックが入っていません。
「ハウリングと実耳テスト」を行った際に、推定ベントとハウリングテストで得た測定漏出量を使用できる場合自動的に適用されるようになります。初期設定ではチェックが入っていません。
- 初期設定で推測ベントを有効にする
初期設定で追加されている電話プログラムにおいて、イージーフォン機能のオン/オフを設定できます。初期設定ではチェックが入っています。
- 初期設定としてイージーフォンを有効にする
初期計算でサウンドリカバーを有効にするか設定できます。初期設定ではチェックが入っています。
- 初期設定としてサウンドリカバーを有効にする
サウンドリカバー2搭載器種に限り、基本調整画面でサウンドリカバー2と以前のサウンドリカバーを選択できるようになります。初期設定ではチェックが入っていません。
- “基本調整”にあるサウンドリカバーバージョンを表示する
初期設定でデータログを有効にするか設定できます。有効にしている場合、顧客の同意がなくてもデータログが集計されます。初期設定ではチェックが入っています。

簡単ナビゲーション

チェックを外すと、ナビゲーションボタン（< 右 >）での画面切り替えの際にその画面をスキップします。グレーアウトしている項目はチェックを外す（スキップする）ことができません。

オーディオグラムダイレクト

- 気導閾値、不快閾値の初期設定に、通常のオーディオグラムの値を使用する

このチェックが入っている場合、入力されたオーディオグラムの値をオーディオグラムダイレクトのスタート時の音圧に使用します。初期設定ではチェックが入っています。

(例) オーディオグラムに100dBHLが入力されている場合

- チェックが入っている場合：1000Hz80dBHLからスタートします。
 - チェックが入っていない場合：1000Hz30dBHL*からスタートします。
- * 後述の「開始レベル」で設定した値

- 音圧の上昇

矢印キーの挙動を選択します。初期設定は下矢印キーで音圧上昇です。

気導閾値測定

- 開始時のレベル

オーディオグラムダイレクトのスタート時の音圧を設定します。前述の「気導閾値、不快閾値の初期設定に…」にチェックが入っており、かつオーディオグラムの入力がない場合のみこの設定が有効です。初期設定は30dBです。

- 測定後、自動的に結果を保存

チェックを入れると、スペースキーを離した後カーソルが自動的に小さな音圧に移動します。その他、反応後に提示する音圧レベルと測定値を確定する反応回数を設定できます。初期設定ではチェックが入っていません。

- 測定後、自動的に周波数を変更

チェックを入れると、同周波数を2回測定すると自動的に最後の結果を採用し次の測定周波数に移動します。その他、測定する周波数構成や確定後次の周波数に移動した時に提示する音圧レベルを設定できます。初期設定ではチェックが入っていません。

不快閾値測定

- 開始時のレベル

オーディオグラムダイレクトのスタート時の音圧を設定します。前述の「気導閾値、不快閾値の初期設定に…」にチェックが入っており、かつオーディオグラムの入力がない場合のみこの設定が有効です。初期設定は70dBです。

- 測定後、自動的に結果を保存

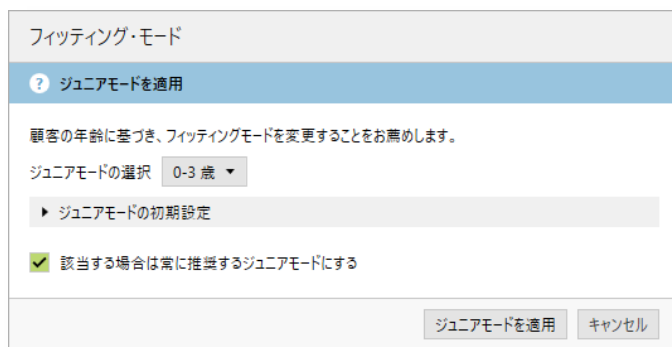
チェックを入れると、スペースキーを離した後カーソルが自動的に小さな音圧に移動します。その他、反応後に提示する音圧レベルと測定値を確定する反応回数を設定できます。初期設定ではチェックが入っていません。

- 測定後、自動的に周波数を変更

チェックを入れると、同周波数を2回測定すると自動的に最後の結果を採用し次の測定周波数に移動します。その他、測定する周波数構成や確定後次の周波数に移動した時に提示する音圧レベルを設定できます。初期設定ではチェックが入っていません。

表示設定

- 「ジュニアモード用の推奨を表示」
チェックを外すと、ジュニアモードが推奨される場合でもそのメッセージが表示されなくなります。



- 「フィットリングを絶対値で表示」
チェックを外すと、利得とMPOツールなどの表示の値が相対値で表示されます。

- 「チューニングツールで圧縮地を表示」
チェックを外すと、微調整画面の利得&MPO欄にCR（圧縮比）が表示されなくなります。

G50	8	16	11
CR	1.3	1.5	1.4

↓

G50	8	16	11
-----	---	----	----

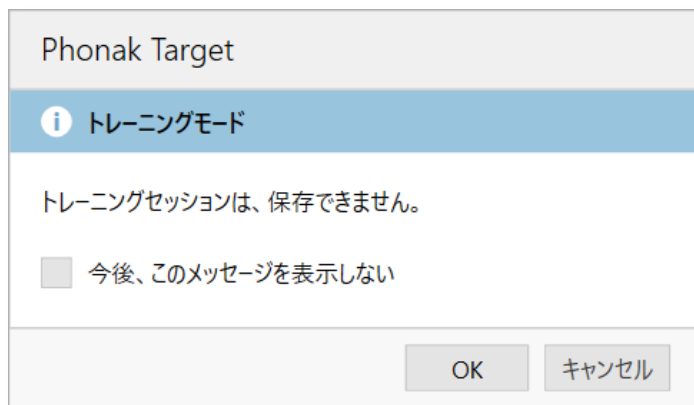
- 「オーディオグラムダイレクトのアシスタントでの準備情報を表示」

チェックを外すと、オーディオグラムダイレクトを実行する前の確認画面が表示されなくなります。



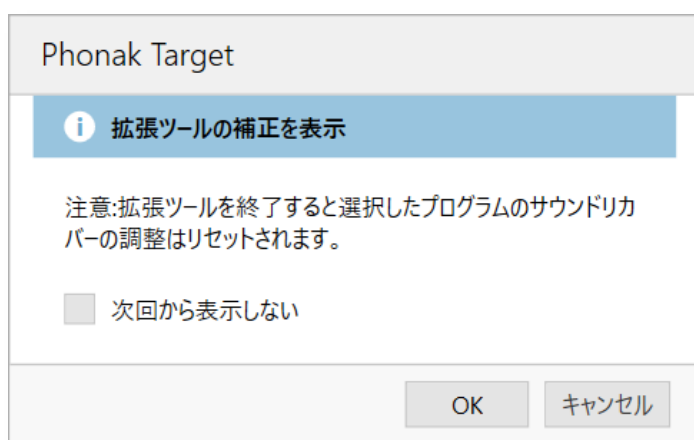
- 「トレーニングモードのスタートアップメッセージを表示」

チェックを付けると、トレーニングモードを開始する際の確認画面が表示されます。



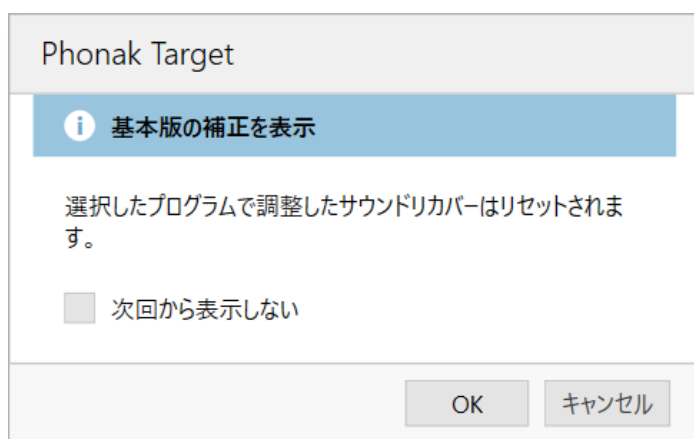
- 「サウンドリカバー拡張ツールを使用時の注意事項を表示」

チェックを外すと、基本版の補正表示から拡張ツールの補正表示へ変更する際の確認画面が表示されなくなります。



- 「サウンドリカバーを拡張ツールで調整する場合の注意事項を表示」

チェックを外すと、拡張ツールの補正表示から基本版の補正表示へ変更する際の確認画面が表示されなくなります。



ジュニアモード

ジュニアモードの各初期設定値を確認/変更したり、初期設定に戻したりすることができます。詳しくは、本誌 [63](#)ページをご参照ください。

レポート

フィッティングレポートのレイアウト編集と出力するレスポンスの設定を行います。

- レイアウト レポートのヘッダーやフッターの設定が行えます。
- カーブデザイン レポートに印字されるカーブデザインを、利得か出力どちらで印字させるか変更できます。微調整画面とカーブデザインが異なる場合、こちらから設定してください。

フィッティング機器

Phonak Targetで使用する補聴器インターフェースの設定や動作チェックを行います。各インターフェースの詳細な設定方法は本誌[5](#)ページをご参照ください。

サウンドシステム

- サウンド出力 サウンド出力に使用するスピーカーの種類を選択します。
- 校正音 スピーカーの音声校正を行うためのツールを表示します。

インターネット

インターネット接続に関する各種設定が行えます。

インターネットサービス

オンラインサービス

「オンラインサービスを有効にする」にチェックが入っていると、ソフトウェアのアップデートやPhonak Targetから弊社ホームページへ直接アクセスできるようになります。「更新を自動的にチェック」にチェックが入っていると、各種ソフトウェアの最新版が公開された際に、自動的に「更新」タブに表示されます。「更新」の詳細は、本誌[85](#)ページをご参照ください。「バックグラウンドでダウンロード」にチェックが入っていると、更新の確認だけでなくダウンロードまで自動的に行います。

リモートサポート

リモートサポートが行える環境かどうか、接続テストが行えます。

プロキシ設定

インターネット接続を行う際に、必要に応じて設定します。設定内容が不明な場合はネットワーク管理者にご確認ください。

オートマチック音声校正の方法

Phonak Targetではメディアプレーヤ、オーディビリティ・ファインチューニング、オートマチック・ファインチューニングをより正確に実行するために、スピーカーの音声校正が必要です。通常、音声校正には騒音計が必要ですが、Phonak Targetでは補聴器を使用して容易に行うことができます。

準備

必要な機材

- 最新のPhonak Targetソフトウェア
- イヤレベルに固定され、インターフェースに接続されたフォナック補聴器
- スピーカー

注意

校正後はスピーカー、PCのボリューム設定を変更しないこと（もし変更する場合は、再校正をする場合を除き、元の設定がわかるようにボリュームのつまみに印をつけたり、PCのオーディオ設定を控えておくこと）。

手順

1. 「セットアップ」>「サウンドシステム」>「サウンド出力」から、使用するスピーカーの種類を選択します。



2. 「校正音」に進み、「自動で校正」を選択し

自動校正を開始... をクリックします。



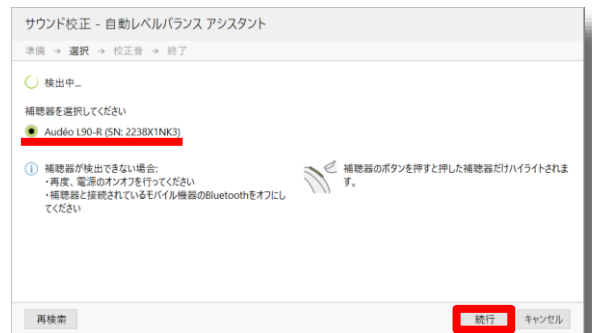
3. **続行** をクリックします。



4. 補聴器に使用するインターフェースを選択し **続行** をクリックします。



5. 校正に使用する補聴器を選び **続行** をクリックします。



6. 準備ができたなら **続行** をクリックします。クリックすると5秒後に自動的に校正が始まります。開始後はできるだけ静かにしてください。



※ 校正中は **キャンセル** をしてしまわないようご注意ください。



7. スピーカーの音量が不足しています。ボリュームを上げて再度実行してください。



8. 校正終了です。 **閉じる** をクリックしてください。

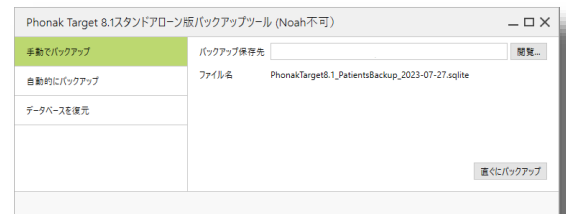


11. Phonak Target バックアップツールの使い方

Phonak Targetスタンドアロン版には顧客データのバックアップと復元を簡単に行うことができるバックアップツールが付属しています。Windowsのスタートボタンから「Phonak」>「Target Backup Tool」の順でアクセスできます。Phonakフォルダ内にTarget Backup Toolがない場合、エクスプローラーから「(C:)」>「Program Files (x86)」>「Phonak」>「Phonak Target」>「TargetBackupTool.exe」の順でアクセスできます。

顧客データのバックアップ

「手でバックアップ」をクリックします。**閲覧...** をクリックし、ファイル名とバックアップファイルをどこに保存するかを指定します。最後に **直ぐにバックアップ** をクリックするとファイルが指定された場所に保存されます。



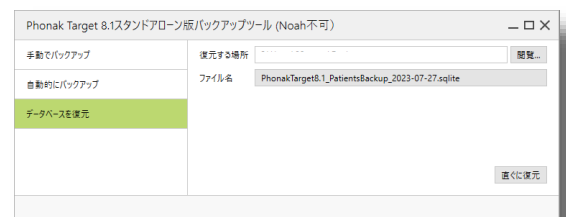
顧客データの自動バックアップ

「自動的にバックアップ」をクリックします。**閲覧...** をクリックし、ファイル名とバックアップファイルをどこに保存するかを指定します。「自動的にバックアップを設定」にチェックを入れ、頻度・時間・曜日を指定します。指定された日時でPCが起動されており、Phonak TargetとPhonak Backup Toolがどちらも閉じた状態だと指定されたフォルダにバックアップファイルが保存されます。

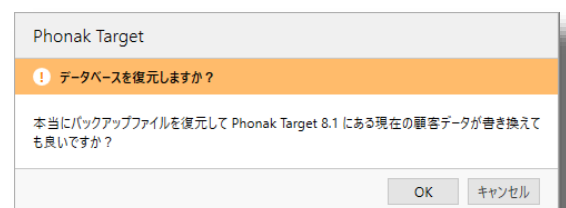


顧客データの復元

「データベースの復元」をクリックします。**閲覧...** をクリックし、復元したいバックアップファイルが保存されているフォルダを指定します。正しいフォルダが指定されていると、自動的に「ファイル名」に復元されるファイルが表示されます。フォルダ内に複数のバックアップファイルが存在する場合は、プルダウンメニューから復元したいファイルを指定してください。**直ぐに復元** をクリックするとファイルが読み込まれ、顧客データが復元されます。



この時、もともとPhonak Targetに入っていた顧客データは全て削除され、復元した顧客データに置き換わりま



12. フィッティングケーブル

Phonak Targetでフィッティング可能な補聴器のフィッティングケーブルの互換性と接続方法です。こちらに記載のない補聴器は、iCube IIあるいはNoahlink Wirelessでの接続となります。

耳かけ型

グループ	ケーブル	器種名
①	CS44-A	フォナック ナイーダ L-SP フォナック ナイーダ L-UP フォナック スカイ L-SP フォナック スカイ L-UP フォナック テラ BTE-SP フォナック テラ BTE-UP フォナック テラ+ BTE-SP フォナック テラ+ BTE-UP フォナック オーデオ P-13T フォナック ナイーダ P-UP フォナック クロス P-13 フォナック オーデオ M-13T フォナック オーデオ M-312T フォナック ナイーダ M-SP フォナック スカイ M-SP フォナック ボレロ B-P フォナック ボレロ B-SP フォナック オーデオ B-13 フォナック ナイーダ B-SP フォナック ナイーダ B-UP フォナック スカイ B-P フォナック スカイ B-SP フォナック スカイ B-UP フォナック クロス B-13 フォナック ヴィータス BTE-P フォナック ヴィータス BTE-UP フォナック ヴィータス+ BTE-P フォナック ヴィータス+ BTE-UP フォナック ボレロ V-P フォナック ボレロ V-SP フォナック オーデオ V-13 フォナック ナイーダ V-SP フォナック ナイーダ V-UP フォナック ナイーダ V-RIC フォナック スカイ V-P フォナック スカイ V-SP フォナック スカイ V-UP フォナック スカイ V-RIC フォナック クロス II-13 フォナック ボレロ Q-M312 フォナック ボレロ Q-M13 フォナック ボレロ Q-P フォナック オーデオ Q-10 フォナック ボレロ Q-SP フォナック オーデオ Q312 フォナック ナイーダ Q-RIC フォナック アンブラ フォナック ソラナ フォナック カッシーア フォナック ダリア オーデオ S SMART オーデオ S MINI ナイーダ S CRT ニオス S H2O フォナック クロス フォナック クロス H2O
②		フォナック ボレロ B-M フォナック オーデオ B-312 フォナック オーデオ B-312T フォナック クロス B-312 フォナック ヴィータス BTE-micro フォナック ヴィータス+ BTE-micro フォナック ヴィータス+ RIC-312T フォナック ボレロ V-M フォナック オーデオ V-312 フォナック オーデオ V-312T フォナック クロス II-312 フォナック オーデオ Q-312T オーデオ S YES
③		フォナック ボレロ バセオ Q15-M フォナック ボレロ バセオ Q15-P フォナック ボレロ バセオ Q15-SP フォナック ナイーダ Q-SP フォナック ナイーダ Q-UP ナイーダ S-SP ナイーダ S-UP

耳あな型

グループ	ケーブル	器種名
④	nano用	フォナックバート P-チタン フォナックバート P-10 NW O フォナックバート M-チタン フォナックバート M-10 NW O フォナックバート B-チタン フォナックバート B-10 NW O フォナックバート B-10 O フォナックバート B-10 フォナックバート V-nano フォナックバート V-10 NW O フォナックバート V-10 O フォナックバート V-10 フォナックバート Q-nano フォナックバート Q-10 フォナックバート タオ Q15 10 NW O フォナック アンブラ nano フォナック ソラナ nano フォナック カッシーア nano
	PR536 (10)用	フォナック アンブラ 10 プチ フォナック ソラナ 10 プチ フォナック カッシーア 10 プチ フォナック ダリア 10 プチ
	PR41 (312)用	フォナックバート P-312 フォナックバート P-312 NW O フォナックバート M-312 フォナックバート M-312 NW O フォナックバート B-312 フォナックバート B-312 NW O フォナッククロス B-312 カスタム フォナックバート V-312 フォナッククロス II-312 カスタム フォナックバート Q-312 フォナックバート タオ Q15 312 NW O フォナック アンブラ 312 フォナック ソラナ 312 フォナック カッシーア 312 フォナック ダリア 312 フォナッククロス 312
	PR48 (13)用	フォナックバート B-13 フォナッククロス B-13 カスタム フォナックバート V-13 フォナッククロス II-13 カスタム フォナックバート Q-13 フォナックバート タオ Q15 13 NW O フォナック アンブラ 13 フォナック ソラナ 13 フォナック カッシーア 13 フォナック ダリア 13 フォナッククロス 13



nano用



PR536(10)用



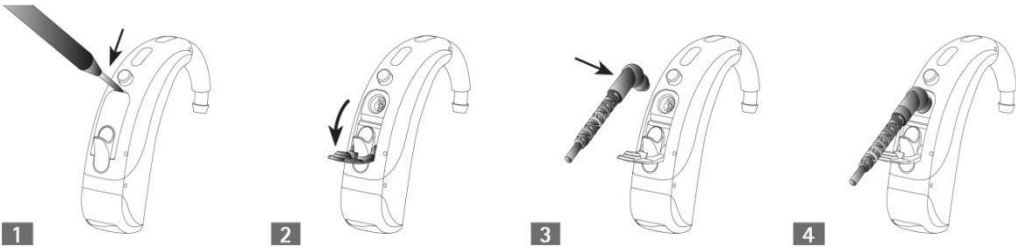
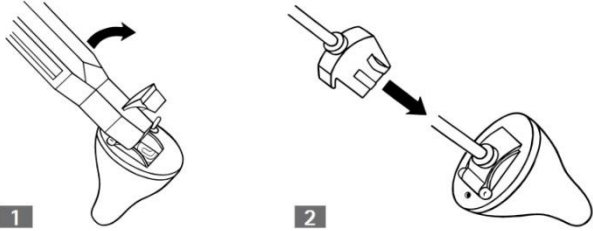


PR41(312)用



PR48(13)用

ケーブル接続方法

グループ	接続方法
①	
②	
③	
④	 <p data-bbox="240 1608 1497 1877"> ケーブルを差し込む前に、電池ホルダーを取り外します。青いケーブルは左耳補聴器用、赤いケーブルは右耳補聴器用です。 ※ PR536(10)用ケーブルは、nano用ケーブルと互換性がありません。必ず指定されたケーブルをご使用ください。 ※ 電池ホルダーを取り付ける際、左右を間違わずに取り付けてください。左右の見分け方は、電池ホルダーに色付けされた“+”マークや、電池ホルダーそのものの色でご確認ください。また、プログラムスイッチ仕様の電池ホルダーの場合、金属バーが電池ホルダー取り付け口のピンの内側に来るように取り付けてください。 </p>

Life is on

「聞こえ」に悩むすべての人の声に耳を傾け、よりよい知識、アイデア、そして聴覚ケアをお届けする。フォナックは、人々がそれぞれの人生において、豊かな音を聞き取り、理解し、経験できるよう、これからも独創的な発想でテクノロジーの限界に挑みつづけます。

自由な交流と自信に満ちたコミュニケーション。

豊かな人生のために、さあ Life is on!